

平成30年度 京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書
御土居跡（西九条周辺）出土品



平成 30 年度 京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書
御土居跡（西九条周辺）出土品



御土居跡（西九条周辺）出土品 人形頭



御土居跡（西九条周辺）調査3 木製品出土状況（北東から）

ご 挨拶

京都市では、市域から出土した膨大な考古資料の中から、歴史的意義がきわめて高い出土文化財を市指定有形文化財として指定をすることで、長く未来へ残してゆく取り組みを続けてきました。公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、京都市からこの指定に先立つ準備業務の委託を受け、市指定有形文化財の候補となる出土文化財を整理し、その評価を行うとともに、多くの皆様に活用していただけるように目録を刊行して参りました。平成21年度から始まった本事業は10年目を迎え、全国から注目を集めています。

平成30年度の指定候補文化財は「御土居跡（西九条周辺）出土品」です。御土居は、都市京都の外周を囲う土塁と堀で、その築造は、天正19年（1591）に豊臣秀吉がおこなった京都都市改造の一つをなすものです。延長距離は約23km、東は鴨川、北は鷹ヶ峰、西は紙屋川、南は九条という広範囲を着工から約3か月で完成させるという類を見ない大工事でありました。御土居の内側を洛中、外側を洛外と呼びます。

本指定では、御土居跡の発掘調査で出土した多数の資料の中から、木製品を中心に抽出いたしました。その中には、いわゆる操り人形と考えられる木製人形、経師が用いたと考えられる刷毛類、手工業が盛んであったことを示す篋類、錐、糸巻きなどが多数含まれています。また、墨書資料には荷札や付札が多いことから物資の流通が盛んであったこと、卒塔婆や経木が出土していることから、御土居で精霊流しや流れ灌頂が行われた可能性も指摘できるようになりました。

これらの木製品は、御土居完成後の洛中の環境が、京都の豊かな文化芸術が花開く土台となったことを示していると言えるでしょう。

ここに、その指定候補文化財の写真、実測図、一覧表を公刊し、皆様にご紹介いたします。本書が広く活用され、京都の歴史研究の深化に資することができれば幸いです

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所

所長 井上 満郎

例 言

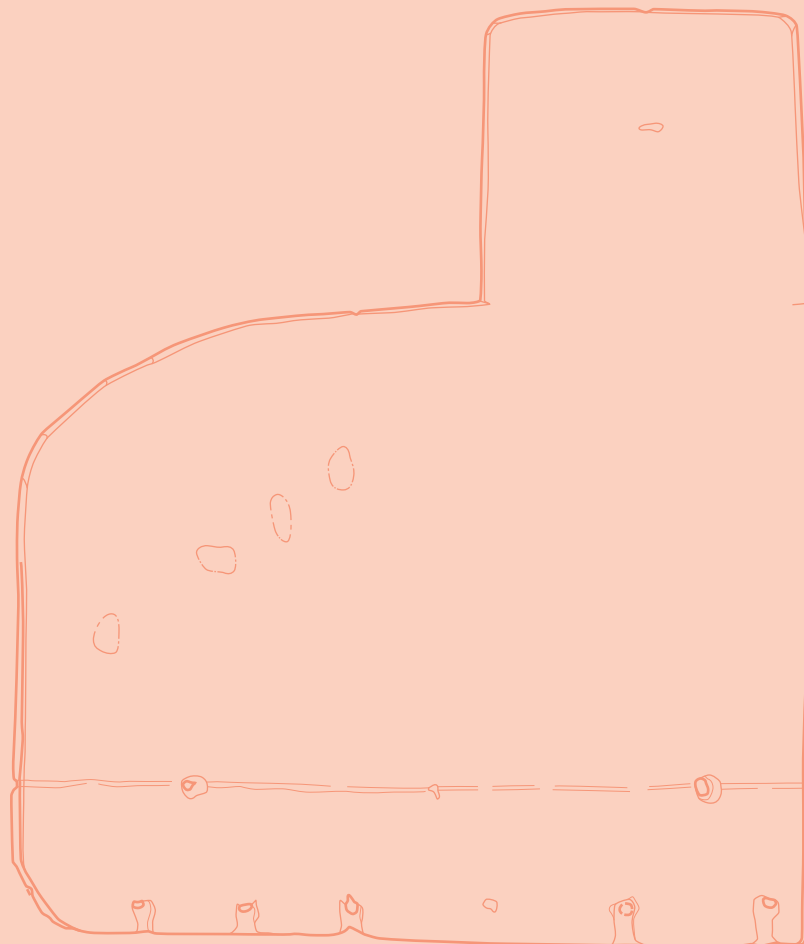
- 1 本書は、平成 30 年度に公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が京都市から委託を受けて実施した、埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務の報告書である。
- 2 選定の対象とした出土遺物は、京都市内で実施された埋蔵文化財の発掘調査などで出土したもののうち、京都市が保管しているものである。
- 3 平成 30 年度の指定名称は「御土居跡（西九条周辺）出土品」である。
- 4 本書使用の地図は、主として京都市発行 都市計画基本図（縮尺 1：5000）を参考に、必要に応じて加筆した。
- 5 本書の掲載番号は、指定番号とは異なる。指定番号は一覧表に明記した。
- 6 指定にあたっての諮問委員は以下の先生方に依頼した（五十音順／敬称略）
井上満郎、上原真人、瀧浪貞子、和田晴吾
- 7 本書の作成は、内田好昭、関広尚世がおこなった。
- 8 本書の巻頭図版に使用した写真は村井伸也が撮影した。目録に使用した写真は関広尚世が撮影し、一部を株式会社文化財サービスが撮影した。
- 9 墨書資料の積読は、京都市歴史資料館井上幸治、野地秀俊がおこなった。
- 10 指定準備作業と本書の作成には、下記の方々のご協力を得た（五十音順／敬称略）
加納克巳、田中正流、山内健也、山路興造、横山 操
- 11 本指定文化財は 477 点であるが、指定 No.195 と 196 が接合したため、本書の掲載資料は 476 点となっている。
- 12 墨書資料の積文は、実測図に併記した。墨書資料の実測図は原則表裏二面の赤外線画像を掲載したが、片面のみに文字がある場合は文字がある面を左側に配置した。

目 次

巻頭図版

本編	1
第1章 御土居の概要	3
第2章 発掘調査の概要	3
1 調査1	3
2 調査2	3
3 調査3・調査4	12
4 調査5	12
第3章 指定文化財の抽出と概要	12
1 指定文化財の抽出	12
2 指定文化財の概要	13
①人形類	13
②道具類	14
③装飾部品	15
④用途不明品	15
⑤ミニチュア	15
⑥漆器類	15
⑦墨書資料	16
第4章 評価	17
文献目録	19
図版	21
一覧表	89

本 編



第1章 御土居の概要

御土居は天正19年(1591)、近世都市京都を防衛するために設けられた土塁と堀からなる惣構施設である。その範囲は、東は鴨川、西は紙屋川、北は鷹峯、南は東寺に至る東西約3.5km、南北約8.5kmにわたり、総延長は22.5kmに及ぶ(図1)。御土居には10箇所の出入り口があったとされている。また、御土居の内側を洛中、外側を洛外と呼んだ(西田1920)。御土居築造は、同時期に豊臣秀吉が行った内裏の拡大、武家公家集住地域の形成、寺町への寺院の集中等と並ぶ京都の近世都市化政策の一環であり、京都改造事業のうちの一つである(小野1993)。

御土居の築造の主な目的は、洛中の範囲を明示し、外敵から都市民を守り、賀茂川、鴨川などの治水対策を行うことであった。当初は、「土居堀」、「惣堀」等と呼ばれたが、江戸時代に入って幕府が管轄したところから「御土居」という名称が定着した。土塁の取り壊しが早くに始まった場所もあり、江戸時代に入ると、上記の出入り口以外にも洛外へ抜ける出入り口が多数設けられるようになった。明治以降、御土居の私有地化が進み徐々に破壊が進行し、高度成長期の開発によって史跡指定地以外はほとんど姿を消した(中村2005)。しかし、今なお地中には堀の遺構が残存し、発掘調査によって検出され、堀の埋土からは桃山期から江戸時代にかけての遺物が出土する。

第2章 発掘調査の概要

御土居跡ではこれまで多くの発掘調査が実施されている。今回指定対象の御土居跡(西九条周辺)出土品は、東寺の東側、油小路通沿いに八条通から九条通にかけての地域で実施された一連の発掘調査で御土居の堀跡から出土した文化財である。昭和55年(1980)度を実施した

調査1、昭和59年(1984)度を実施した調査2、平成3年(1991)度を実施した調査3と調査4、平成26年(2014)度を実施した調査5がこれに該当する(図2)。各年度の調査成果の概要を調査年次順に概説する。

1 調査1(図3)

調査1は、信濃小路と油小路の交差点付近にあたる。(財)京都市埋蔵文化財研究所が昭和55年9月から10月にかけて調査した。調査面積は150㎡である。調査区全体で御土居の堀を検出した。堀の検出幅は約17.5m、深さは約2mある。堀の埋土は、暗灰色～黒灰色泥土が、粗砂～礫層を挟みつつ厚く堆積していた。この層から木製品と少量の土師器・陶磁器類が出土した。木製品は残存状況が良好でなく、出土層位も明瞭でないため本指定からは除外した。正報告書は刊行されておらず、概要報告がなされている(京都市埋蔵文化財研究所2011)。

2 調査2(図4)

調査2は、九条通と油小路の交差点の北東部に位置する。(財)京都市埋蔵文化財研究所が昭和59年(1984)5月から10月にかけて、A区～D区の4箇所を調査した。調査面積は延べ3,940㎡である。このうち御土居の堀跡を検出したのは、油小路沿いの「C区」であり、これを調査2とした。検出した御土居の堀は、幅約20m、深さ約1.5mある。全長46m分を検出している。埋土の大部分は泥土で、そこから多量の木製品、少量の土師器・国産陶磁器・瓦・銭貨などが出土した。底面には連続した窪みを検出し、これを堀の掘削時の作業単位と推定している。正報告書は刊行されておらず、概要報告がなされている(丸川ほか1987)。また、本調査出土の木筒の一部がすでに紹介されている(京都市埋蔵文化財研究所1986、梅川1985)。

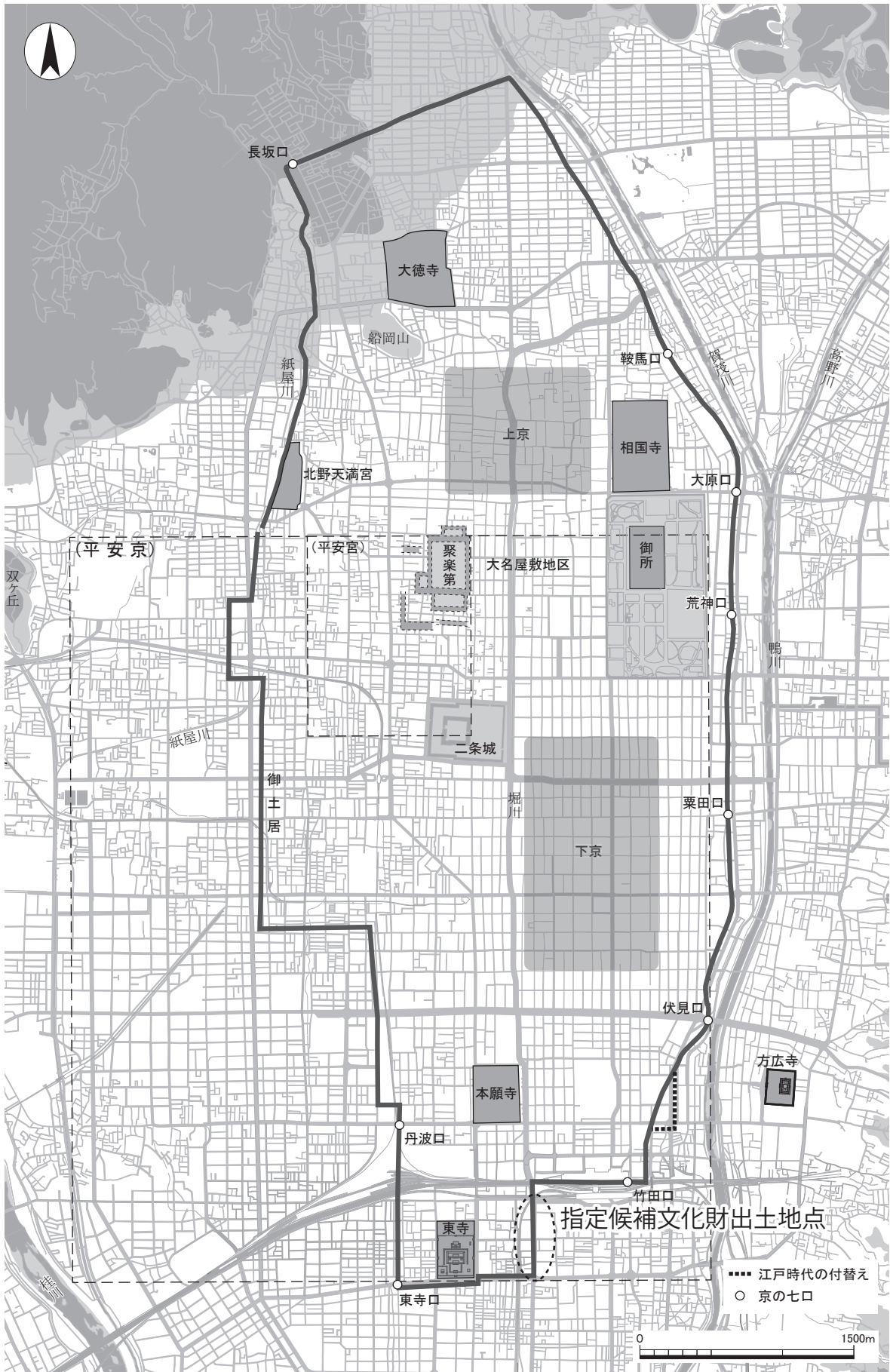


図1 御土居と指定候補文化財出土地点 (1:40,000)

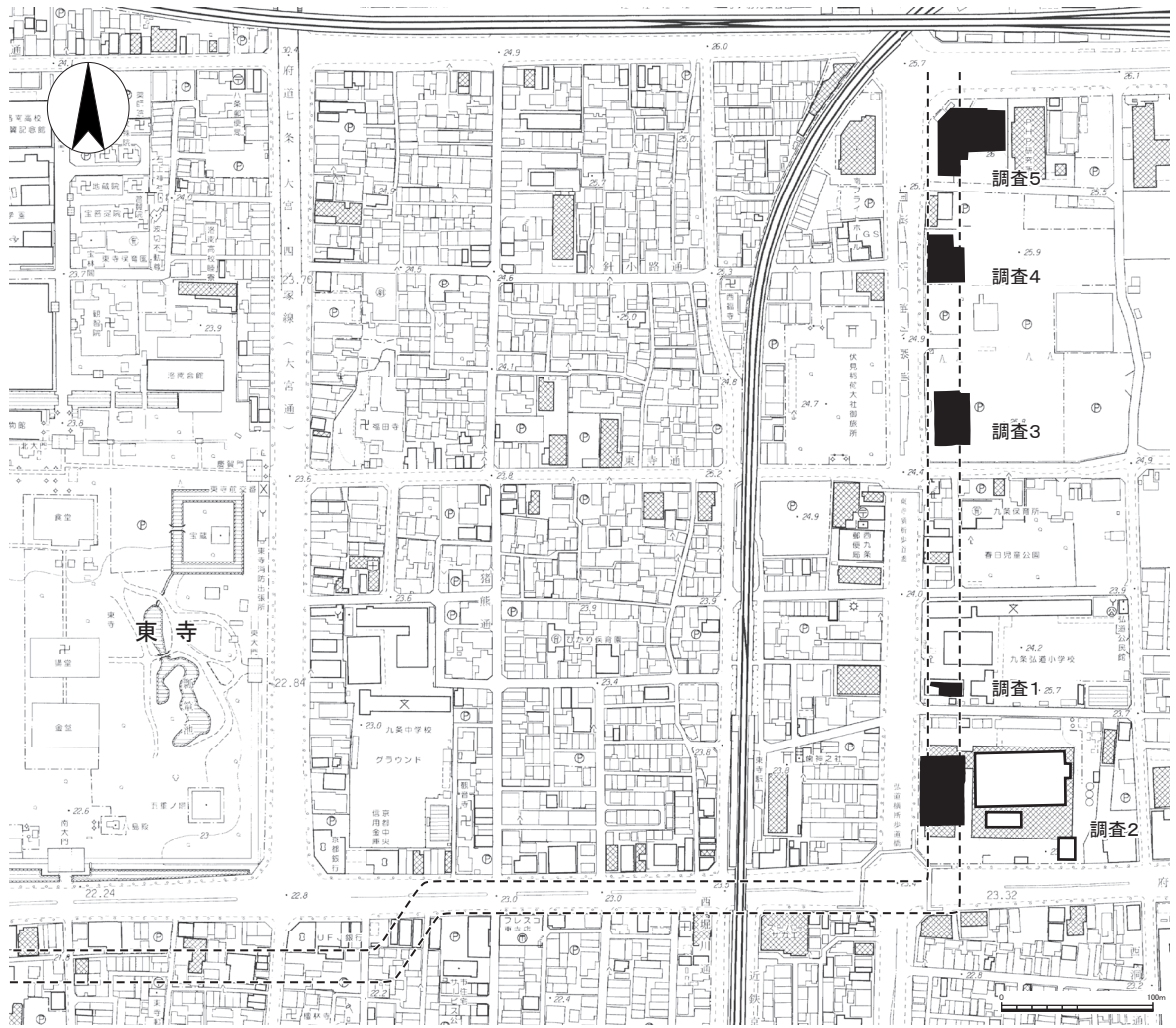


図2 調査位置図 (1:5,000)

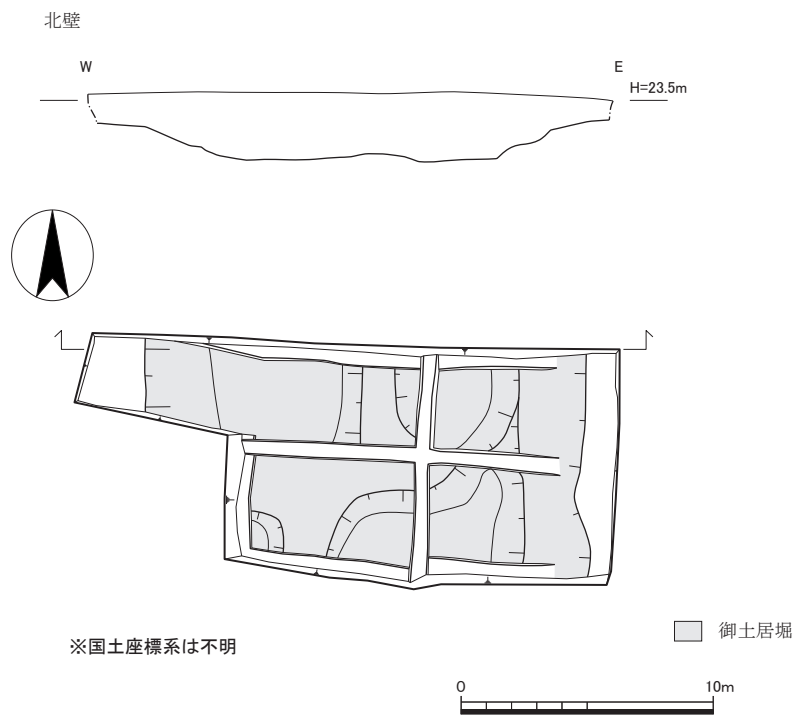


図3 調査1 遺構実測図 (1:300)

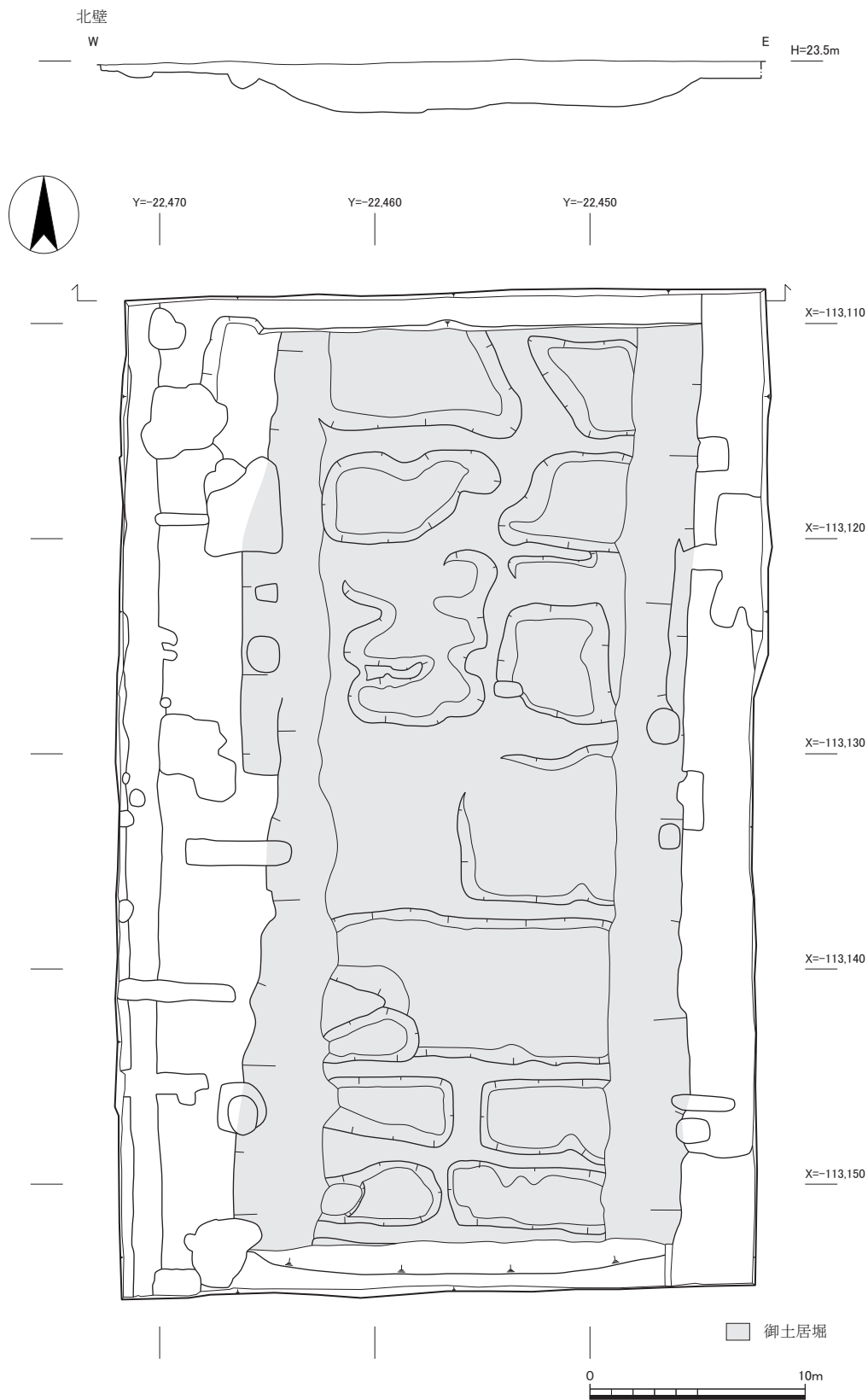


図4 調査2遺構実測図 (1:300)

中央部セクション南面

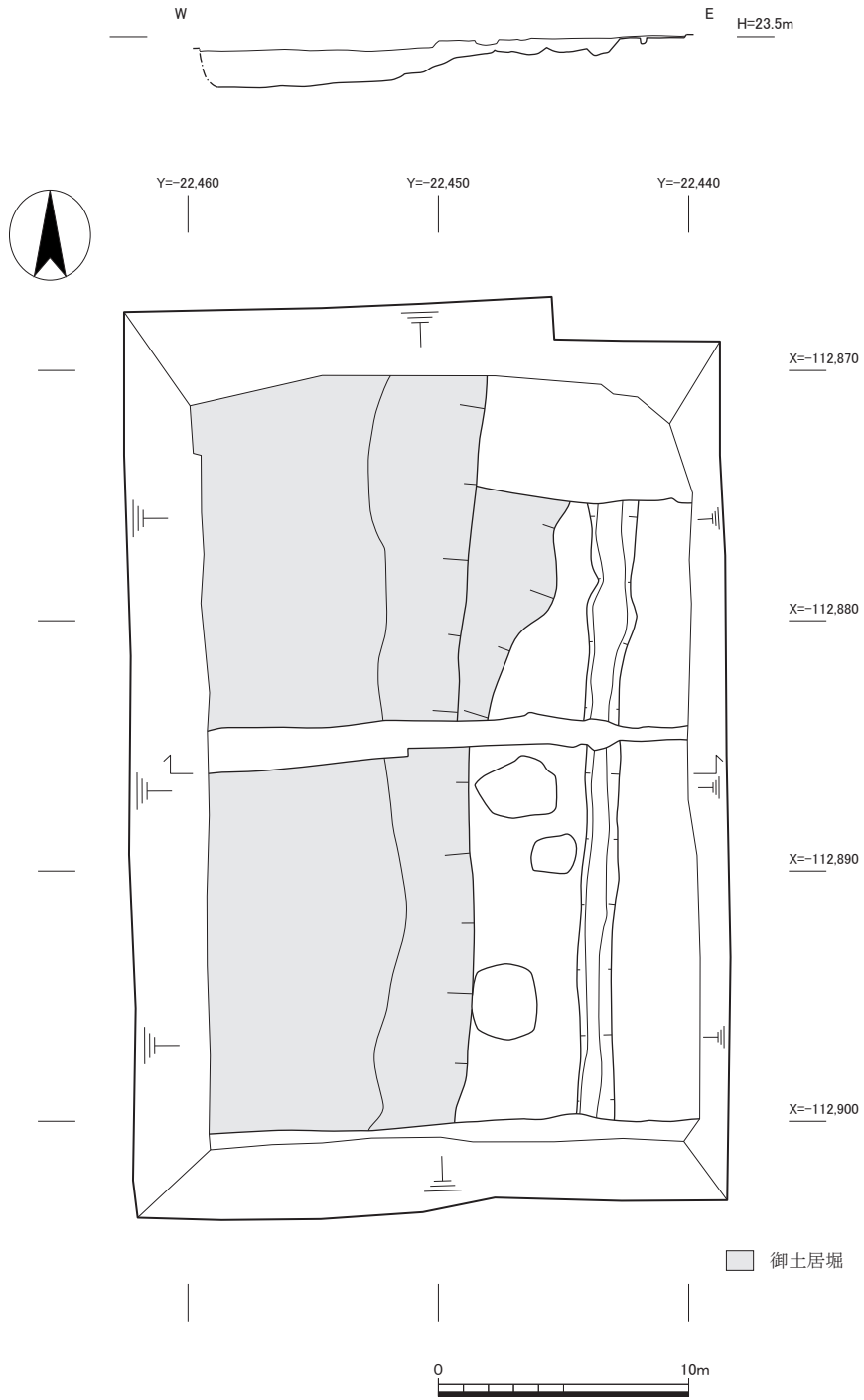


図5 調査3遺構実測図 (1:300)

中央セクション南壁

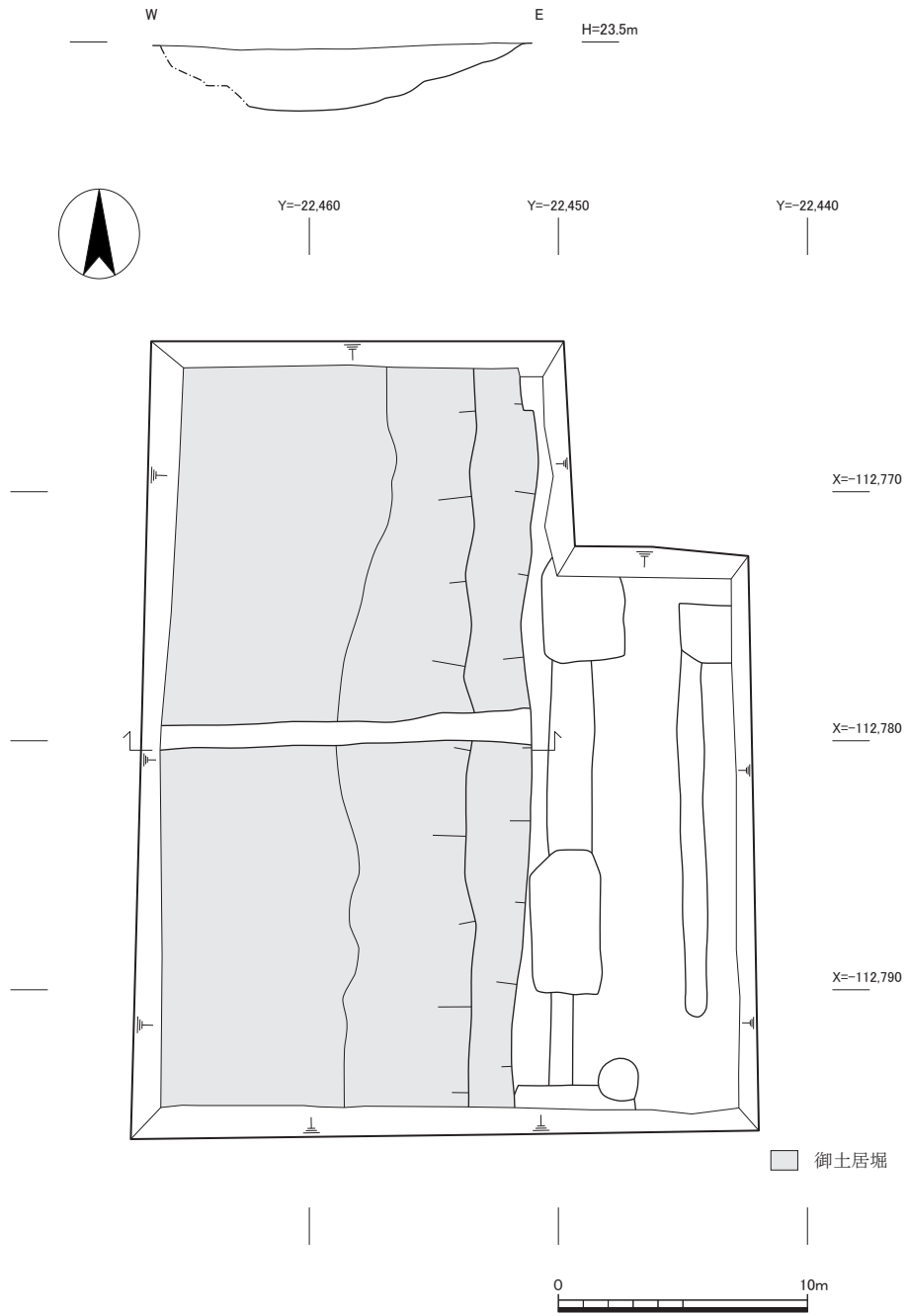


図6 調査4遺構実測図 (1:300)

北側セクション



Y=-22.460

Y=-22.450

Y=-22.440

Y=-22.430

Y=-22.420

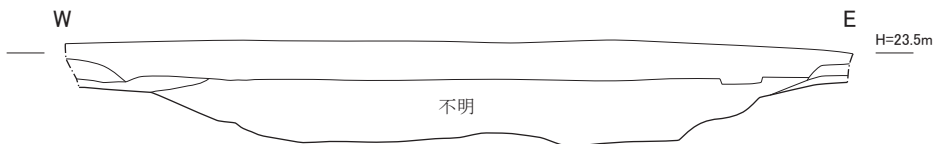


御土居堀

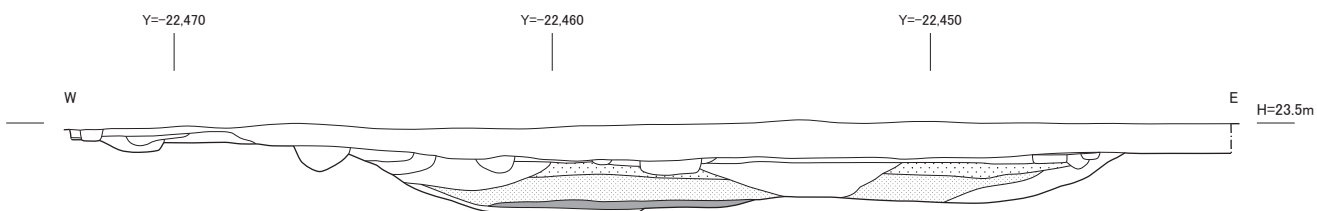


図7 調査5第1面遺構実測図 (1:300)

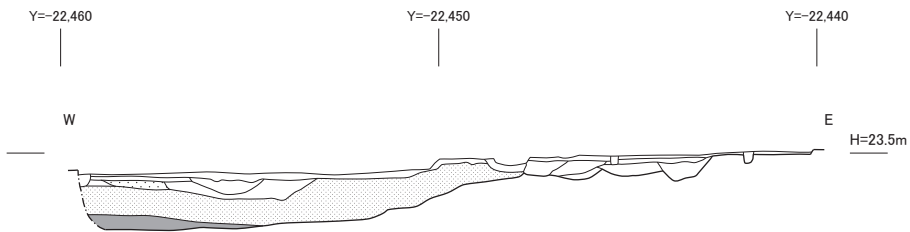
調査1 北壁堀断面図



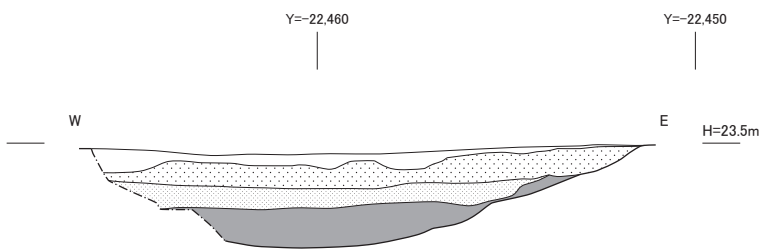
調査2 北壁堀断面図



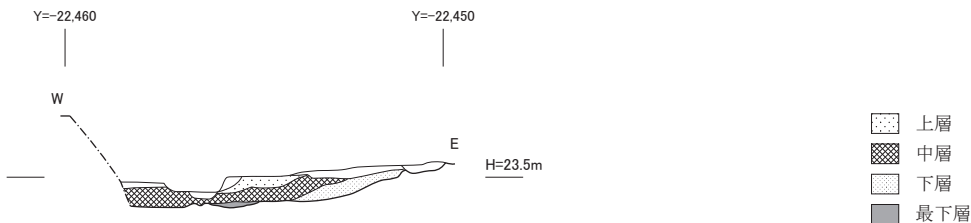
調査3 堀断面図



調査4 堀断面図



調査5 堀断面図



- 上層
- 中層
- 下層
- 最下層

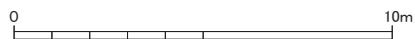


図8 御土居堀土層断面図 (1:200)



図9 調査3で検出した御土居の堀跡（北から）



図10 調査4で検出した御土居の堀跡（北東から）

3 調査3・調査4 (図5・図6)

調査3と調査4は連続する調査であり、概要報告の記載も一連であるため、まとめて記述する。調査3は、東寺道と油小路の交差部付近にあたる。(財)京都市埋蔵文化財研究所が平成3年5月から10月にかけて調査した。調査面積は840㎡である。調査4は、針小路と油小路の交差部東側にあたる。(財)京都市埋蔵文化財研究所が平成3年11月から平成4年3月にかけて調査した。調査面積は620㎡である。両調査とも御土居の堀は東肩及び底部を確認し、西肩は調査区外である。したがって堀の幅は不明であるが、両調査区とも16m以上ある。また、両調査区とも南北約30m分を検出した。堀の埋土は、泥土で上層と下層(図8の最下層)の2層に大別でき、主に下層から木製品と陶磁器類が出土した。堀底面には幅1.5m～2mの凹凸があり、開削時の作業単位と推定されている。正報告書は刊行されておらず、概要報告がなされている(菅田1995a)。

4 調査5 (図7)

調査5は、油小路と八条通の交差点南東部にあたる。(公財)京都市埋蔵文化財研究所が、平成26年5月から9月にかけて調査した。調査面積は1,521㎡である。御土居の堀は東肩のみを確認し、西肩は調査区外である。したがって堀の幅は不明であるが、東西約7m以上、南北約43m分を検出した。深さは約0.75mである。堀の最上層から中層にかけて人骨や動物骨が出土し、それより下層から土器類、木製品が多量に出土した(松吉ほか2015)。また、出土木簡の一部がすでに紹介されている(松吉2016)。

第3章 指定文化財の抽出と概要

1 指定文化財の抽出

今回指定の対象となった御土居跡(西九条周辺)出土品は、出土調査区が4箇所に分かれており、またほとんどの調査区において正報告書の刊行がなされていない。このため、多量の出土遺物の中から、改めて指定候補とすべき遺物を抽出する作業を行う必要があった。そこでまず、指定候補とする遺物の年代を御土居築造時の16世紀末から江戸時代前期頃までに限定することとし、遺物の出土層位ごとの整理を行い、各層位の年代を出土遺物から明らかにすることとした。しかし、共伴する土器陶磁器類はいずれも細片で、これらから各層位の年代を知りえなかった。そこで、墨書資料に記された紀年銘等の情報を手掛かりに各層位の年代を決定することとした。ところで、堀の埋土の層位記載は調査区ごとに個別に行われているため、各調査区に通底する基本層序は把握されていなかった。そのため、今回の整理作業において、図面等に記載された土色と層相、及び標高を手掛かりに基本層序を復元した(図8)。

こうした作業の結果、堀埋土の比較的上位にある調査3の堀埋土第3層から「正保四年」(1647)銘の木簡が出土していること、これと同層準と思われる調査2の堀埋土第2層上部から「□寶三年」銘の木簡が出土しており、これが「延寶三年」(1675)の可能性が高いことから、これらの地層が17世紀の第3四半期頃に堆積したものと推定できた。この層準を「上層」と呼び、これらの地層より下位の層準(中層、下層、最下層)出土の遺物を御土居が築造された天正19年(1591)から17世紀第3四半期の時期幅の中に納まるものと判断し、指定遺物の選定対象とした。これらの層準より上位から出土した遺物も多数あるが、江戸時代中期以降に下るものと判断し、基本的に今回の選定対象から除外した。

さらに上記対象資料から、残存状況が良好であるものや用途が推定できるもの、加えて用途が不明でも形状が特徴的であり、今後の研究によって有意な遺物として評価される可能性があるものを選定した。

ただし、例外がある。調査2では、御土居が埋没した後に再度掘り込まれた小溝が検出されている。ここから出土した人形頭(6)は、江戸時代中期以降に下る可能性があるが、優品であることに加えて、今回選定した16世紀末から17世紀後半の人形頭群を評価する上で欠かせない遺物と評価し、江戸時代中期以降の遺物としては唯一指定文化財に選定している。

なお、以上の抽出作業は、すでに活用度の高い遺物として抽出されていた遺物群(A・Bランク)を対象に行ったが、活用度が比較的低い遺物群(Cランク)に区分されている遺物には箸や付け木、曲物破片などが多数ある。今回の指定遺物群はやや特異な様相を示すものであるが、同時にこれらの日常的な木製遺物を伴って出土していることを付記しておきたい。

2 指定文化財の概要

今回、指定遺物の候補として、総数477点を選択した。ただし、2点が接合し同一個体となった資料も含まれる(469)。その大半は木製品であるが、錐(207・208)・煙管(209)・小刀(210～213)など一部に金属部分または金属製品を含む。それらを①人形類、②道具類、③装飾部品、④用途不明品、⑤小型品(ミニチュア)、⑥漆器類、⑦墨書資料に大別した。

なお、用途不明品のうち、漆が施されていないものは用途不明品、漆塗が施された痕跡が認められるものについては、漆器類に分類した。ただし、用途が推測できるものについては別のカテゴリーに区分したものもある。

①人形類

人形類は99点(1～99)ある。

人形には、頭部のみを表現したものや、棒状を呈するものなど多種多様な形式と部位がある。それらを1～7類に分類した。既往の議論で用いられた名称も併記する。

1類(1～58)は、いわゆる人形の頭部から首部で、頭部と首の形状が明瞭に分かれるものである。1a～1d類に細分できる。1a類(1～9)は、首底に大きな穴($\phi 10\text{mm}$ 以上)を有するものである。目、鼻、口、耳などの細部表現が巧みで、一部の頭部には頭髪を植え込んだ連続する穴や溝を有する。人形類一覧表1～3では、この穴への植毛を木釘式とし、溝への植毛を楔式とした。いわゆる「操り人形」や「古淨瑠璃人形」と呼ばれる形式である(加納2007)。1b類(10～41)は、刺突状の細い首底穴($\phi 10\text{mm}$ 未満)を有するものである。目、鼻、口、耳などの表現が簡略で、省略されているものも多い。全体を胡粉で白塗りし、墨や絵具で表情を描き込んだものと思われる。「申人形」と呼ばれる形式である(加納2007)。1c類(42～56)は、首底に穴がないものである。頭部表現などは、1b類に共通する。「ハサミ式」と呼ばれる形式である(加納1991・2007)。1d類は1b類・1c類の未成品である(57・58)。

2類(59～63)は、手や足など人間の体の一部を示すものである。60は男性器、62は足、63は手、59・61は足の可能性がある。63は腕部の根元に竹ひご状の細い棒を貫通させる程度の斜めの穿孔があり、操り人形の手と考えられる。

3類(64～67)は、棒状の製品で一端を鉛筆状に尖らせている。これを操り人形の胴串と考えた。胴串とは、人形の頭を支えた胴体部品である(加納2007)。一端には串穴のあるもの(65・66)と無いもの(64・67)があり、もう一端は尖るのが特徴である。

4類(68～73)は、首が長く胴部と一体的に表現されるものである。顔の表現が単純化されている。いわゆる「細棒型」、「棒型」と呼ば

れる形式である（加納1991）。

5類（74～85）は、全身像を表すものである。背面が平坦で、前面のみから見られるものである。合掌する姿や僧形に見えるものがあり、念持仏の可能性もある。首と手が差し込み式になっているものもある（85）。

6類（86～91）は、動物を表現したものである。サルやタヌキに見えるもの（86・88）、ネズミと思われるもの（87・91）、大小のウマの脚がある（89・90）。

7類（92～99）は、1～6類以外で人形や人形に関連する部分と考えるものである。92は人形が付けた面である。

1～5類は、基本的に人を象ったものである。頭部から頸部を表す1類が大半を占め、4類や5類のような全身像やそれを模式化した人形の割合は低い。2類とした手には小穴があることから、これに串を挿し動かすことで、1類の人形に動きをつけたと考えられる。また、頭部から頸部以外は衣装などで覆われた人形であったと推測される。

②道具類

道具類は、131点（100～230）ある。

刷毛類（100～113）には、多様な形状がある。

いわゆる「糊刷毛」・「水刷毛」・「切り継ぎ刷毛（付け廻し刷毛）」・「棕櫚ナデ刷毛」・「打刷毛」・「中糊刷毛」・「水糊刷毛」に共通する特徴は、柄が短く、板の幅が広い点である（100～104）、これに対し紙へのにじみ防止のための礬砂びきを行うための「礬水刷毛」は柄が長く、板の幅が狭いのが特徴である（105～110）。

また、箒状の棕櫚束は柄の部分まで繊維で構成される。中国系刷毛の可能性もあるので掲載した（111・112）。113は、これに関連する紐の可能性もある。

篋類（114～140）は、篋先の形状によって、平篋、片丸篋、丸篋と分類した。平篋（114～

127）は篋先が平坦で柄の先端が尖るものである。篋先に赤漆がついているもの（114・115）と、黒漆がついているもの（116～125）がある。漆の塗り篋である。片丸篋（131・134～138）は片側が半円状の刃部を呈し、もう一端は平坦な背を設けるものである。半円の曲縁部分に刃部が明瞭なもの（131・136・138）と、不明瞭なもの（134・135・137）がある。丸篋（139・140）は刃部を持つ篋先が丸い。上記の分類に属さない篋（128～130・132・133）もある。

糸巻き（141～155）は、横木（141～149）と杵木（150～155）がある。横木が刺さったままの杵木もある（150）。横木の中には墨痕がのこるもの（142～144）もあるが、釈読不可能であった。なお、「拾五」の墨書がある横木（452）は墨書資料に区分した。

円板（156～176）は、直径3～5cmの円形もしくは隅丸方形の小型の円盤である。中央に孔が二つある双孔円板（156～161）、一つのみの単孔円板（162～172）、穴がない無孔円板（173～176）がある。用途は不明である。

灯火器の一部と考えられるものが3点（177～179）ある。

栓（180～189）は片側へすぼむ形状の栓と（180～188）、受け部を持つものがある（189）。片側へすぼむ形状の栓には貫通する孔があるもの（184・185）がある。また、栓をした際の圧痕が認められるもの（186）がある。

木製容器の底部や蓋が6点（190～195）ある。円形のもの（190・191・193・195）は小型の曲物の一部と考えられ、赤漆が塗布されたものもある（195）。六角形で中央に4箇所穿孔したものがある（192）。隅丸方形になるとみられるもの（194）は折敷の可能性もある。

杓子（196）は、裏・表に黒漆が塗布される。杓文字（197）が1点ある。

蓋類（198・199）には、把手がつくもの（198）、焼印がおされているもの（199）がある。

把手類 (200・201) は、円形容器の側面に水平に取り付くものである。2点は形状がよく似るが、大きさが異なり、それぞれ別の容器本体についていた把手である。

木槌 (202) には、片側に柄を差し込むためのほぞ穴がある。

円盤 (203) は、単孔で直径が約7 cmある。紡錘車と考えられる。

印形の木製品 (204) は印面にあたる部分に何も刻まれていない。

棒状品 (205) は、平坦部に等間隔の刻み目を有する。彫^{さきら}と考えられる。

題箋軸 (206) の題箋部は無文である。

錐 (207・208) は、木製の柄に鉄製の先端を装着したもので柄の短いもの (207) と長いもの (208) がある。

煙管雁首 (209) が1点ある。

刀子 (210～213) は、刀身と柄からなるものと (210・211)、柄のみのも (212)、鞘 (213) がある。210・211は、刀装具の筭の類であろう。

装飾板 (214～216) には、中央に楕円もしくは長方形の孔を有する。鏝の可能性もある。装飾は、四弁花 (214)、直線的な八角形 (215)、菊形を彫刻したもの (216) がある。小振りであることから、玩具か人形廻し用小道具である可能性もある。

木球 (217～219) は毬杖の球であろう。

220は独楽である。

賽子は1点出土した (221)。

将棋の駒 (222) は、墨痕があるが積読不能であった。

下駄 (223～228) は、一木つくりのもの (223・225・226) と差し歯のもの (224・228) がある。227は、漆塗りで下駄以外の製品の可能性がある。

櫛 (229・230) には、赤漆塗に金泥で文様を描き、目の細かいもの (230) がある。

③装飾部品

装飾部品は、21点 (231～251) ある。

花や葉などの何らかの造形を彫刻したものが大半である。これらは調度や小建築などの装飾と見られる。線描きによる装飾を有するものがある (248・249)。いずれも丁寧な造りである。また、墨書きの珠鷓^{たましぎ}または鷓を表すもの (250) や、墨書きと彩色で花や格子文を表すもの (251) がある。

④用途不明品

用途や部位など不明な木製品47点 (252～298) がある。

用途不明品には、栓状のもの (252～255) や、籠状のもの (270・279～283)、杵木状のものなど (287～290) 形状は様々である。

⑤ミニチュア

ミニチュア12点 (299～311) がある。

木札には、赤漆塗 (299) のもの、鉤状の焼印が押されたもの (300)、無文のもの (301) がある。車輪形の一部と推測される断片 (302) や船形 (303) がある。また、挽物の腕には胴部が垂直で、桶状を呈するもの (304・306)、胴部が湾曲して高台を持つもの (305)、胴部が湾曲してベタ高台ないし蛇の目高台を呈するもの (307～311) がある。人形芝居の小道具類の可能性もある。

⑥漆器類

漆器類は57点 (312～368) ある。

漆器類は、椀皿類と箱物部材となる板状品や調度の部品類に分かれる。このうち椀皿類 (312～353) はすべて調査2から出土した資料である。漆の痕跡がわずかに認められる挽物 (312・313) や南部箔 (335・339)、筒状の製品 (352・353) など特殊なものもある。

部品類 (354～368) は黒漆塗が主体であるが、側面に赤漆が塗られるものもある (357)。

金箔で文様があしらわれるもの(365)がある。

⑦墨書資料

墨書資料は108点(369～476)ある。

墨書資料は掟札・巡礼札(369・370)、付札(371～425)、荷札(426～438)、木製品(439～452)、将棋駒(453～459)、塔婆(460・461)、経木・お守り(462・463)、板状品(464～476)がある。

指定対象資料はほぼ江戸時代前期のものである。このうち、紀年銘のあるものは、「天正十年」(1582年)(442)、「寛永貳拾壹年」(1644年)(400)、「甲午承応」(1654年)(369)、「□〔延力〕宝三年」(1675年)(371)、「正保四年」(1647年)(378)である。

最も多い形式は付札で、屋号や、地名、数量、人名などを記す。

地名には、「あまへ」(天部)(373)、「三条坊門/西といとおり」(412)、「七条」(433)「四条坊門」(439)、「双林寺」(450)といった京内やその近郊、「たんは」(丹波)(377)、「西世木村」(京都府南丹市)(382)、「栗太郡ふけ村」(滋賀県守山市)(405)、「はやミ村」(滋賀県長浜市)(391)、「大坂」「備前州」(438)、といった京都近国、「江戸銀座」(東京都中央区)(392)、「亀貝村」(新潟市)(415)といった遠国のものなどがある。

荷札は、「御米」(428)、「ミつつけのつほ」(430)、「料紙拾三束」(431)、「真鴨」(435)、「なつとう」(441)、「茶」(444)、「進上 海鼠腸(このわた)」(447)、「ひしほ」(450)といった具体的な品物名が記される。

次に人名が記されている2例について触れておく。これまで「ポルトガル木簡」として知られていたアルファベットが記された木簡(426)については、これまで「pe せるそ様の □□

せんか如庵様」、裏面末尾のアルファベットを「mairu」と釈読し、日本語の「まいる」のローマ字表記とされてきた。「pe」をpadore(伴

天連)の略、「せるそ」を天正14年(1586)から慶長19年(1614)まで日本に滞在し、主に九州で活動したイエズス会ポルトガル人宣教師のセルソ・コンファロネイロとし、「せんか如庵」を「せんか」なる人物の洗礼名と解釈されてきたものである(京都市埋蔵文化財研究所1986、丸川1997)。

しかし、再釈読したところ、「せんか如庵」は「ぜんかめ屋」と釈読できること、「pe」と裏面の「mairu」のアルファベットの釈読にも疑問が残ることが判明している。

また、送り先が明らかになった荷札もある「京極丹後殿へ遣ス寺内蔵助」「ミつつけのつほ 壺つ 筑後より」と記された木簡(430)の「京極丹後殿」は、第2代宮津藩主京極高広(1599～1677)と考えられ、「寺内蔵助」は高広の孫の寺嶋(京極)高林と考えられる。高広は寛文6年(1666)に息子で第3代藩主高国との不和を咎められ改易。以後、京都の東山に閑居して同地で没した。寺嶋高林は父高国が改易されると、母が伊達政宗の娘であった縁で伊予宇和島藩の伊達宗利に預けられ、家臣となっている。「蜜漬けの壺」が具体的に何か、「筑後」は人か地名かなどは不明であるが、この荷札が孫から京都に住む京極高広へ贈られた荷物であることはほぼ間違いない。

第4章 評価

御土居跡（西九条周辺）出土品は、八条通から九条通にかけて油小路の東側に南北方向に造られた御土居の堀の中から出土している。これらは、近隣の住民によって御土居の堀に投棄されたものと考えられる。しかし、発掘調査では、御土居堀の東側に検出される桃山時代から江戸時代にかけての遺構は耕作に伴う溝や暗渠のみであり、直近には人々の居住の痕跡は見られない（菅田1994、菅田1995a、菅田1995c、菅田ほか1996、小森2000、松吉ほか2015）。桃山時代から江戸時代前期のこの地域を描いた古絵図を見ると、御土居の外側については記載がないものが多く不明である。しかし、やや後の時代のものである「元禄十四年實測大絵図」（1701）に明確に記されるように、この付近の御土居の外側には耕作地が広がっていたと見るのが妥当であろう。

古絵図を検討すると、今回の出土地点にもっとも近接する施設は、御土居の西側直近にある稻荷神社旅所である。また、最も近接する居住域は、旅所の西側に耕作地及び堀川を介してある居住域である。この居住域は、元和6年（1621）から寛永元年（1624）頃の京都を描いたとされる「京都図屏風」（図11）では「九条ノ里」、

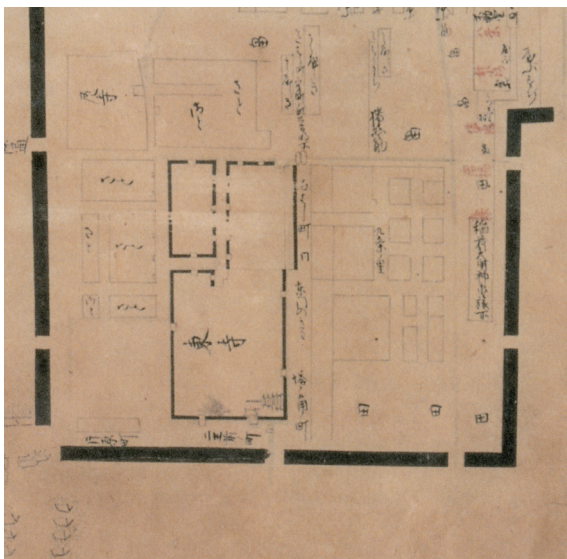


図11 京都図屏風（部分）

承応3年（1654）刊行の「新板平安城東西南北町并洛外之図」（図12）では「西九条」とされ、御土居から西に約250mの距離にある。

西九条と今回指定遺物出土地点との間には御土居が介在し、通行に支障がある。しかし、「京都図屏風」、「新板平安城東西南北町并洛外之図」には西九条から旅所南端に通じる道路があり、この東への延長部分に御土居の口が設けられている。平安京条坊では九条坊門小路に該当し、中世から江戸時代前期には「唐橋通」、江戸時代後期には「信濃小路」、現在「東寺道」とされる道路である。これにより、西九条から今回指定遺物の出土地点には、直接的にアクセスが可能である。他方、出土地点から東側で最も近い居住域は、前出「新板平安城東西南北町并洛外之図」で「東九条」とされる居住域で、こちらは御土居から直線距離で約700mあり、やや遠い。出土地点からの距離感からすると、御土居跡（西九条周辺）出土品を投棄した主体は「西九条」の住民である可能性が高い。

これを間接的に補強する資料がある。今回の指定遺物の中にキリシタンに関連するとされるアルファベット木簡がある。従来、この木簡に記された「pe せるそ様」は、イエズス会宣教師セルソ・コンファロネイロのことと解釈されてきた。この釈読には疑問もあるものの、アル

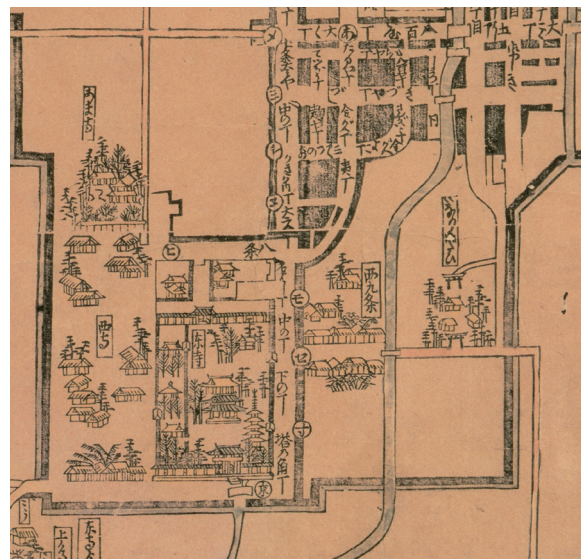


図12 新板平安城東西南北町并洛外之図（部分）

ファベットが記された木簡は当時あつては、キリシタン関連の資料とみなすことに疑いの余地はない。他方、西九条はキリシタンと関りがあることが史料から読み取れる。元亀4年(1573)織田信長の上洛に伴い、宣教師ルイス・フロイスは「この地方にある最も大きな寺の一つで」「東寺という寺のそばにある」「九条という所」に、日本人キリシタンの勧めに従って避難している(柳田訳1978)。東寺の近くの九条とは上記の「西九条」にほかならず、キリシタンの庇護者が存在し、一定数のキリシタンが居住していたものと思われる。また、近接する針小路通堀川東入西福寺境内や西九条川原城町の旧九条小学校内からは、キリシタン墓碑が見つまっている(丸川2016)。御土居跡からキリシタンに関連するアルファベット木簡が出土している事実は、一群の出土木製品が西九条の住民に起因することの傍証となるものである。

近世の西九条村は、幕府領、東寺領などからなる村であるが、中世においては寺院関連施設の間や巷所に東寺領の散所が散在した(山本1998)。東寺の散所は東寺の掃除役、警固役、築地役を果たすことで中央政権の課役免除を認められていた隷属民やその居住区を指す(宇那木2004)。一方、散所については、北野社の西京散所が操の興行をしたこと、醍醐寺の掃除散所が千秋万歳を行っていたことなどから、芸能との深いかわりが古くから指摘されてきた(森末1941、山本2004)。14世紀には西九条地域の八条猪熊と堀川の間には、芸能者とされる声聞師の居住が確認できる(宇那木2004)。残念ながら東寺散所、巷所またはその後裔である西九条における芸能者の存在を具体的に伝える史料は中近世を通じて存在しない。しかし、今回指定対象となった遺物群のなかでも特異な存在である人形群は、このような西九条の地域的特質を無視しては理解できないものと考えられる(加納1991、丸川1997)。以上のことから、人形操りを行う芸能者もしくは人形の製

作者が桃山時代から江戸時代前期の西九条に居住していたものとする。また、漆籠などの工具や刷毛の存在は、東寺周辺に居住した塗師や経師の存在をうかがわせる考古資料であり、都市の縁辺に居住した西九条住民の生活を具体的に知り得る好資料といえよう。

文献目録

- ・ 網野善彦 1984 「中世「芸能」の場とその特質」大林太良他著『日本民俗文化体系』7、191-236 頁
- ・ 梅川光隆 1985 「京都・平安京左京九条二坊十三町」『木簡研究』3、32-35 頁
- ・ 宇那木隆司 2004 「東寺散所」(財)世界人権問題研究センター編『散所・声聞師・舞々の研究』思文閣出版、65-87 頁
- ・ 大曾根章介校注 1979a 「新猿楽記(藤原明衡)」『日本思想体系』8、岩波書店、133-444 頁
- ・ 大曾根章介校注 1979 b 「傀儡子記(大江匡房)」『日本思想体系』8、岩波書店、157-159 頁
- ・ 小笠原恭子 1980 「中世京洛における勧進興行 - 室町期」『文学』48-9号、56-71 頁
- ・ 岡田莊司 1994 「平安京中の祭礼・御旅所祭祀」同『平安時代の国家と祭祀』続群書類従完成会、440-499 頁
- ・ 小野晃嗣 1993 「京都の近代都市化」『近世城下町の研究』法政大学出版局、268-296 頁
- ・ 加納克巳 1991 「中世・近世初期遺跡出土の人形カシラ」『人形劇史研究』3、58-165 頁
- ・ 加納克巳 2007 『日本操り人形史』八木書店
- ・ 協同組合京都表装協会編 2011 『表具の事典』協同組合京都表装協会
- ・ 坂本博司校訂 1981 「梅逕学区」林家辰三郎編『史料京都の歴史』12、平凡社、488-502 頁
- ・ 菅田薫 1994 「平安京左京九条二坊」『平成2年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所、48-49 頁
- ・ 菅田薫 1995a 「平安京左京九条二坊」『平成3年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所、32-34 頁
- ・ 菅田薫 1995b 「平安京左京九条二坊1」『平成4年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所、31-32 頁
- ・ 菅田薫 1995c 「平安京左京九条二坊2」『平成4年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所、33-34 頁
- ・ 菅田薫ほか 1996 「平安京左京九条二坊」『平成5年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所、32-33 頁
- ・ 鈴木久史 2017 「御土居の実像：発掘調査成果を中心に」『帝塚山大学大学院人文科学研究科紀要』17、54-39 頁
- ・ 田中省造 1983 「運慶と阿古丸 - 仏師と傀儡の世界 - 」『皇學館論集』16-1、37-65 頁
- ・ 角田一郎 1963 『人形劇の成立に関する研究』旭屋書店
- ・ 角田一郎 1968 「日本の傀儡子」『日本美術工芸』355、24-28 頁
- ・ 永田衡吉 1969 『日本の人形芝居』錦正社
- ・ 中村武生 1995 「京都惣曲輪「御土居」跡の推定」『佛教大學大学院紀要』23、187-216 頁
- ・ 中村武生 1997 「豊臣期京都惣構の復元的考察 -- 「土居堀」・虎口・都市民」『日本史研究』420、3-30 頁
- ・ 中村武生 2005 『御土居堀ものがたり』京都新聞出版センター
- ・ 西田直二郎 1920 「御土居」『京都府史蹟勝地調査会報告』2、京都府、1-39 頁
- ・ 林家辰三郎 1947 『日本演劇の環境』大八洲出版株式会社
- ・ 林家辰三郎 1960 『中世藝能史の研究 - 古代からの継承と創造』岩波書店
- ・ 松吉祐希 2016 「京都・平安京跡左京九条二坊十六町・御土居跡」『木簡研究』38、17-18 頁

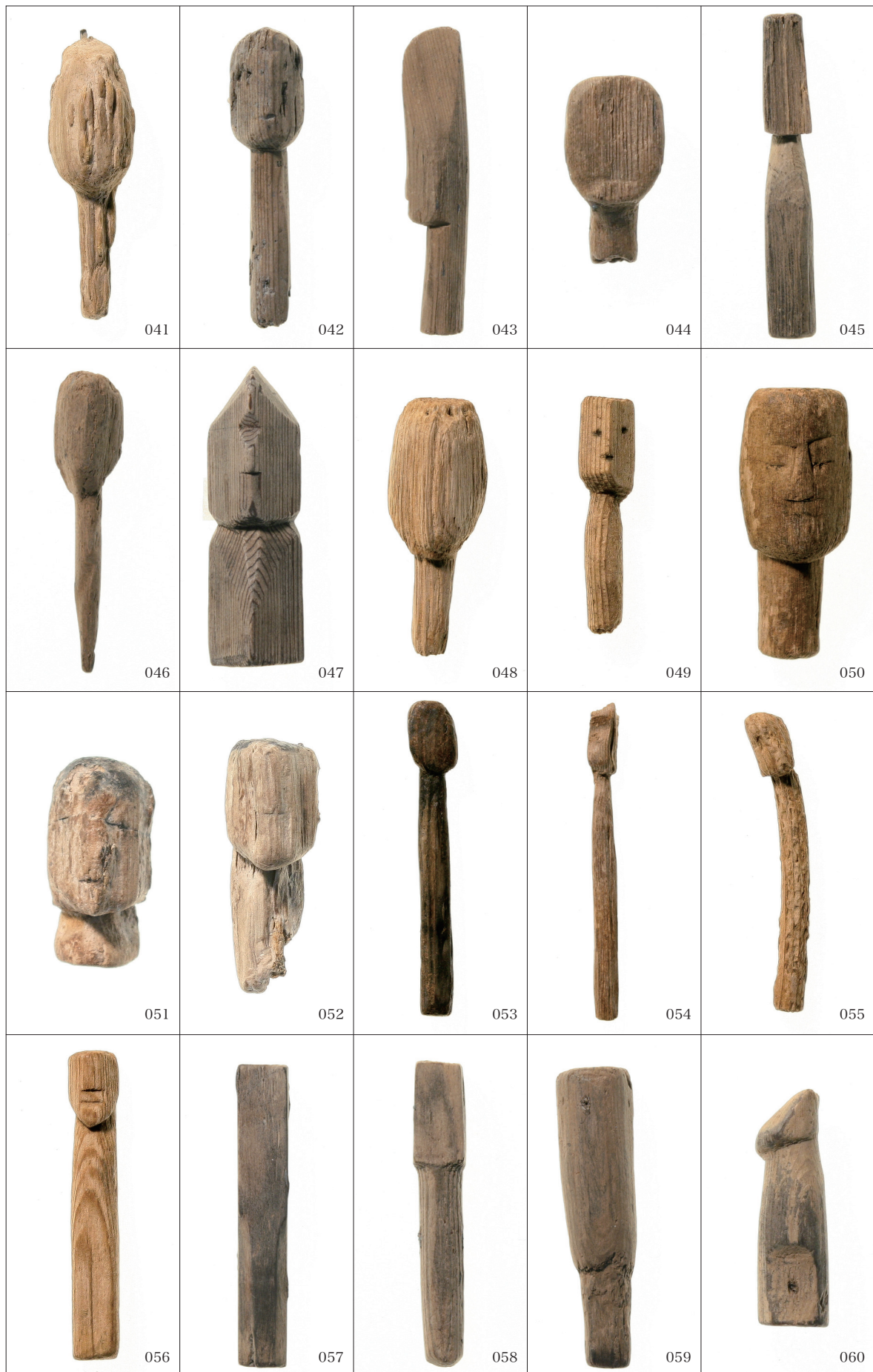
- ・ 松吉祐希ほか 2015 『平安京左京九条二坊十六町跡、御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-9、(公財)京都市埋蔵文化財研究所
- ・ 京都市埋蔵文化財研究所 1986 『平安京跡発掘資料選(二)』(財)京都市埋蔵文化財研究所
- ・ 丸川義広ほか 1987 「平安京左京九条二坊」『昭和 59 年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所、22-25 頁
- ・ 丸川義広 1997 「御土居跡の発掘調査とその成果」『日本史研究』420、31-53 頁
- ・ 丸川義広 2001 「コラム 御土居の発掘調査」日本史研究会編『豊臣秀吉と京都』文理閣、113-119 頁
- ・ 丸川義広 2016 「京都のキリシタン遺跡」神田宏大ほか編『戦国キリシタンの世界』批評社、258-272 頁
- ・ 水戸政満校訂 1992 「西九条村」林家辰三郎編『史料京都の歴史』13、平凡社、167-206 頁
- ・ 森末義彰 1941 「散所」『中世の社寺と藝術』敵傍書房、222-302 頁
- ・ 柳谷武夫訳 1978 ルイス・フロイス『日本史』5、東洋文庫 330、平凡社
- ・ 山口建治 2008 「方相・傀儡・郭禿・鐘馗 -「天籟」もう一つの身体技法 -」『非文字資料から人類文化へ - 研究参画者論文集』27-37 頁
- ・ 山路興造 1987 「被差別民芸能の変遷」『芸能史研究』98、1-22 頁
- ・ 山路興造ほか編 1991 『形代・傀儡・人形』平凡社
- ・ 山路興造 2000 「萬歳の成立」村山修一ほか編『陰陽道叢書』3 近世、名著出版、169-301 頁
- ・ 山本尚友 1998 「中世末・近世初頭の洛南における賤民集落の地理的研究 (下)」『研究紀要』3、世界人権問題研究センター、131-194 頁
- ・ 山本尚友 2000 「民間陰陽師の発生とその展開」村山修一ほか編『陰陽道叢書』3 近世、名著出版、163-210 頁
- ・ 吉村享ほか校訂 1992 「散在荘園」林家辰三郎編『史料京都の歴史』13、平凡社、236-278 頁

圖 版









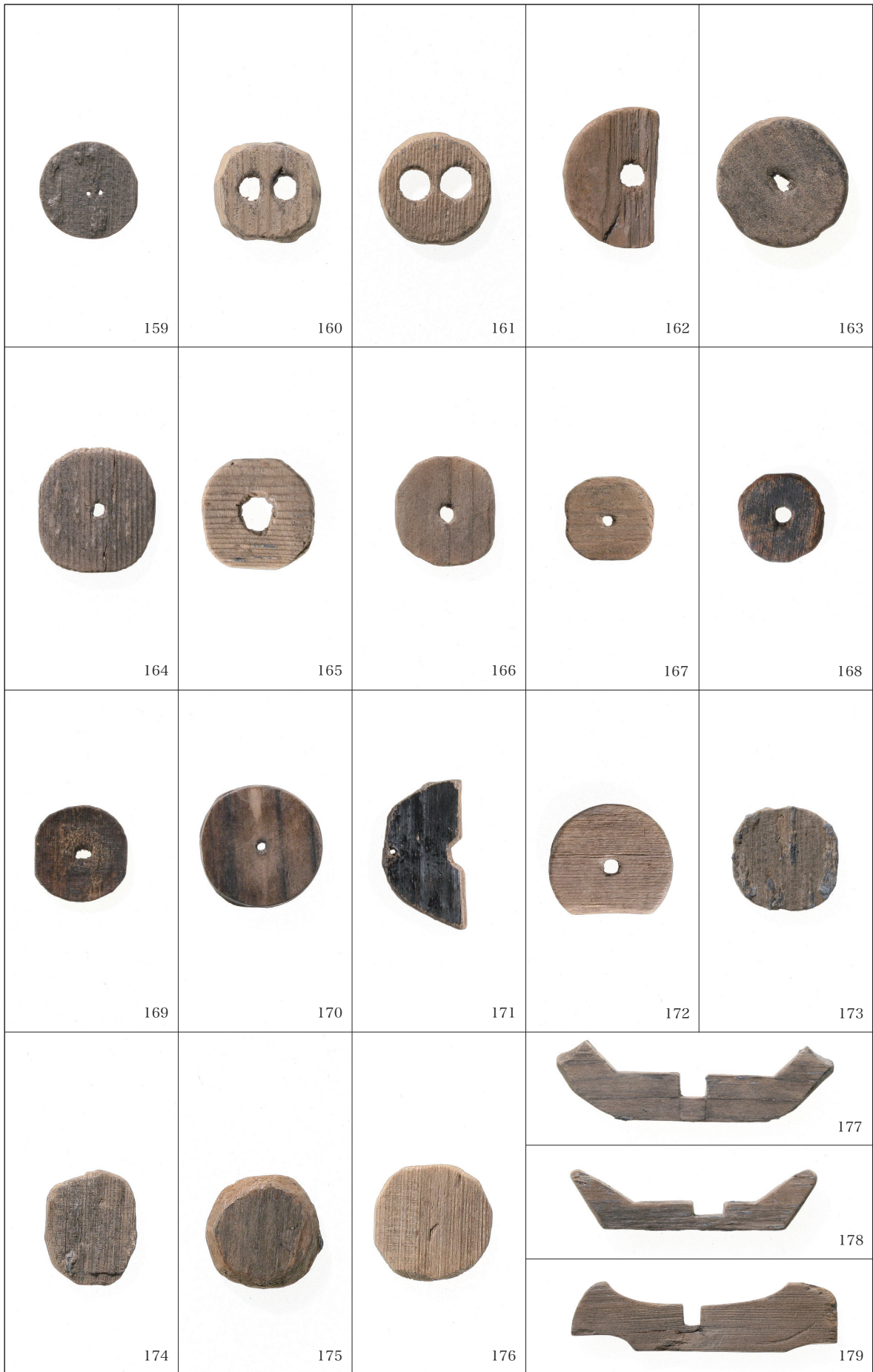














































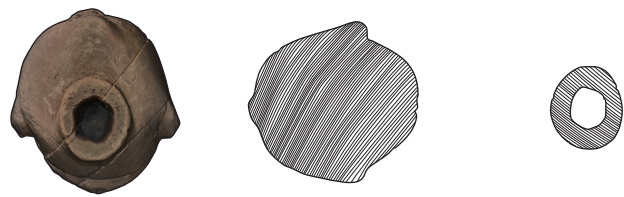




1

2





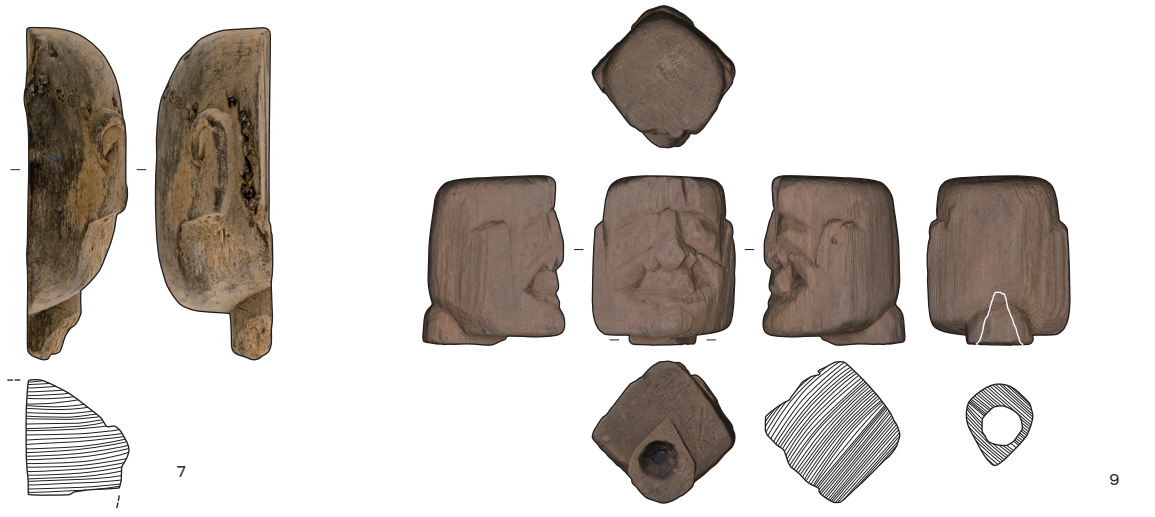
3



4

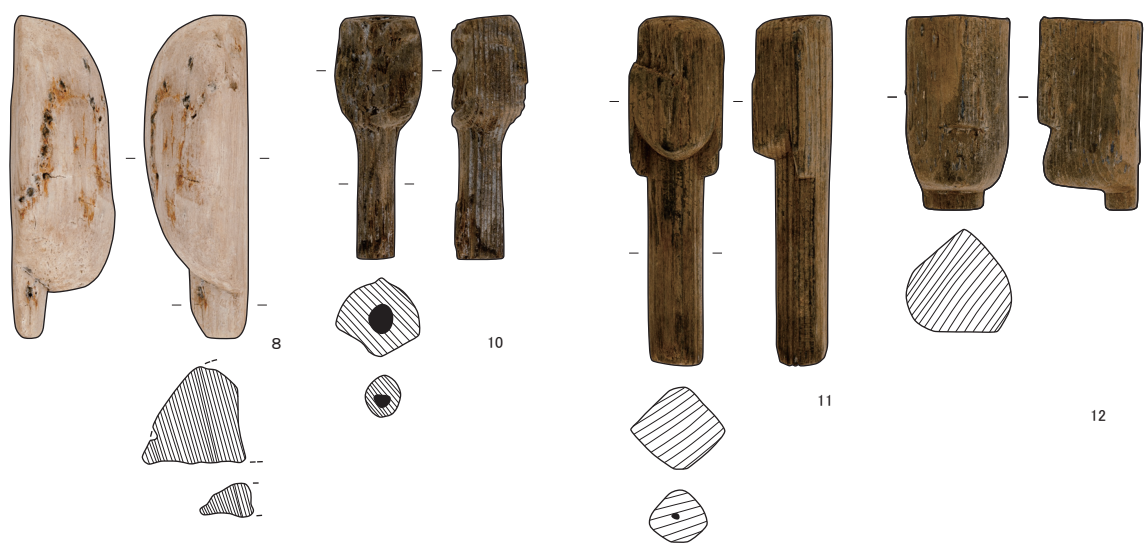






7

9

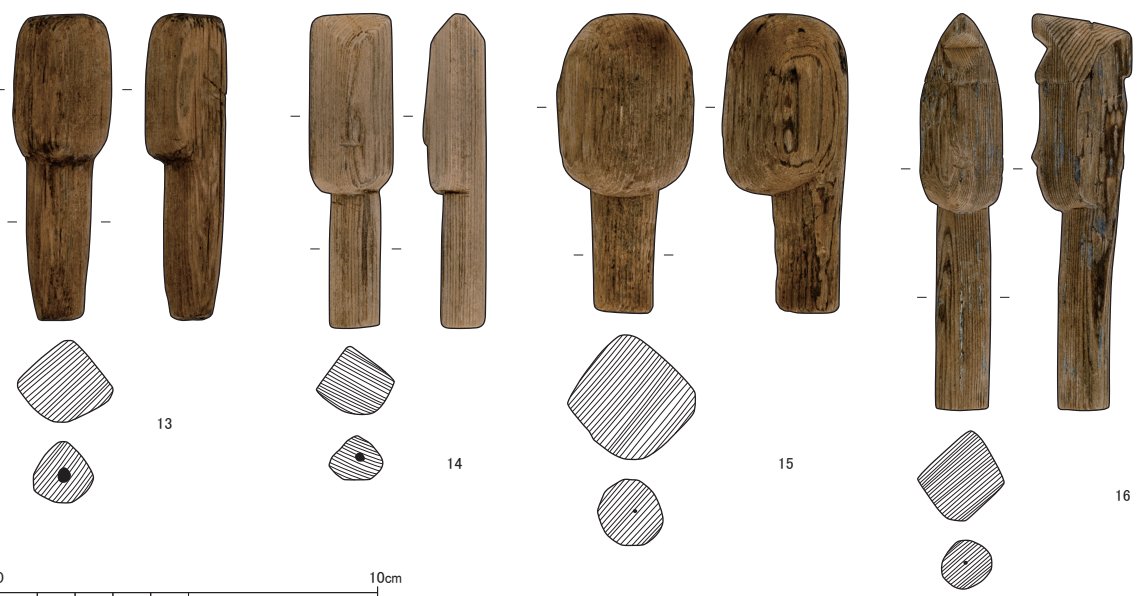


8

10

11

12



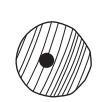
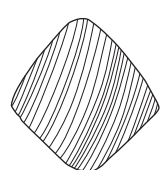
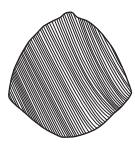
13

14

15

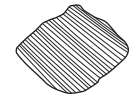
16





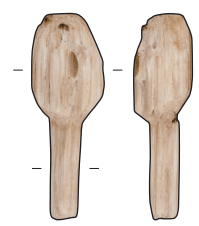
17

18

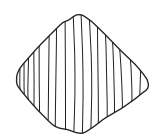


19

20

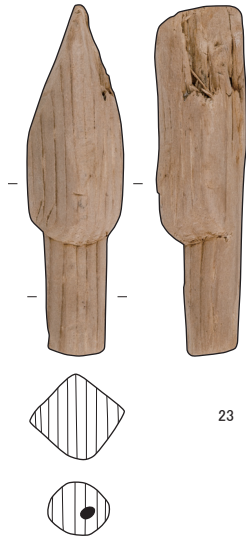


21

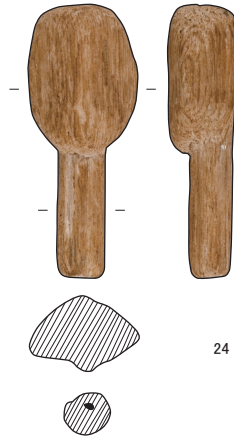


22

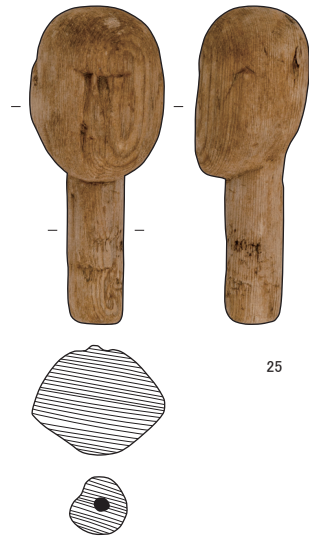




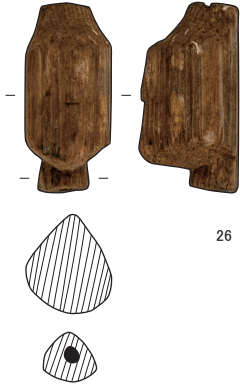
23



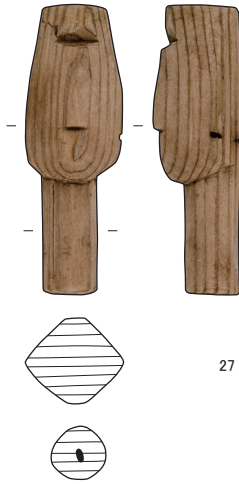
24



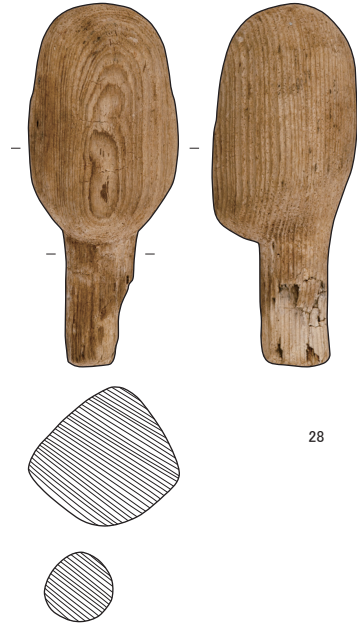
25



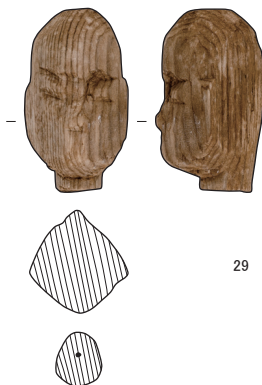
26



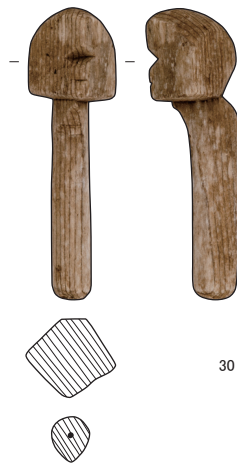
27



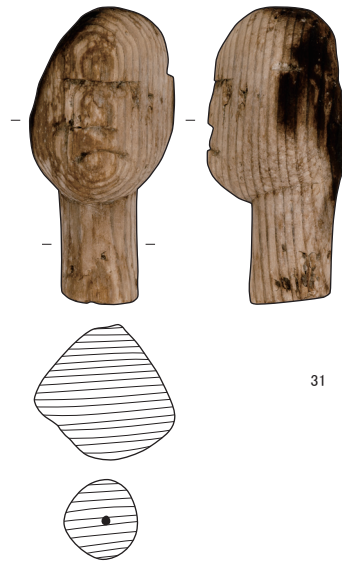
28



29



30

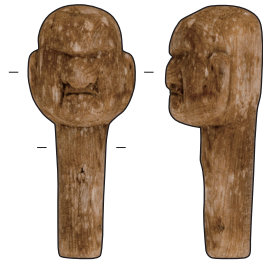


31





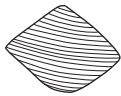
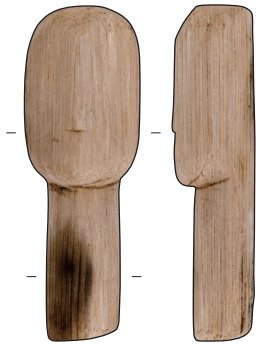
32



33



34



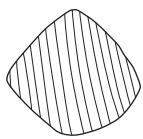
35



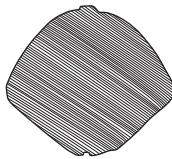
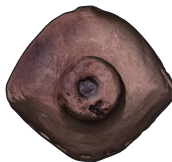
36

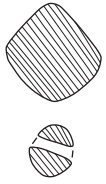
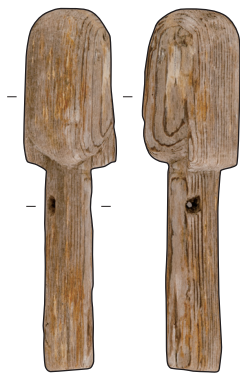


38

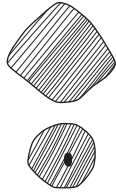
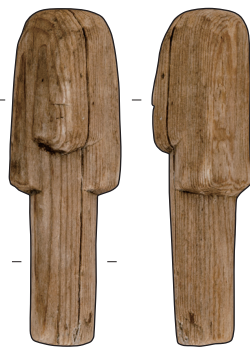


37

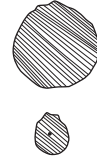




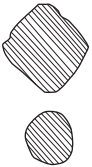
39



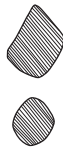
40



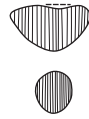
41



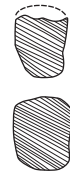
42



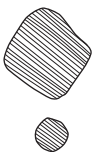
43



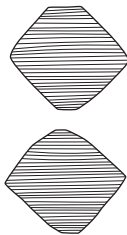
44



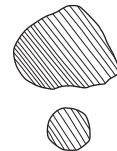
45



46

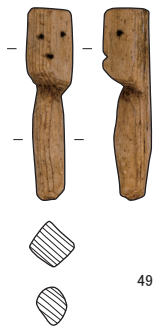


47

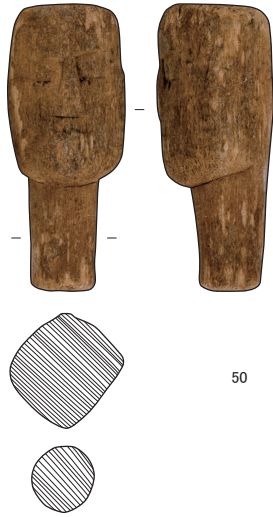


48

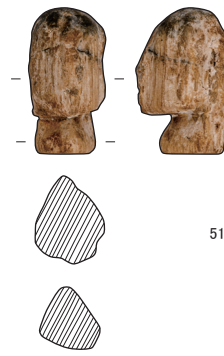




49



50



51



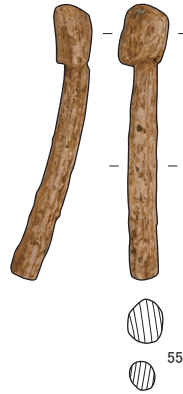
52



53



54



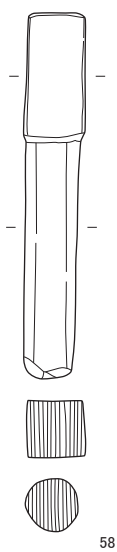
55



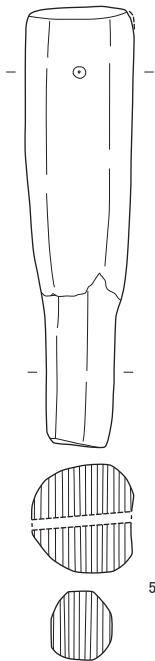
56



57



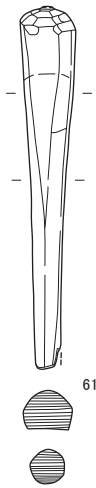
58



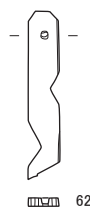
59



60



61

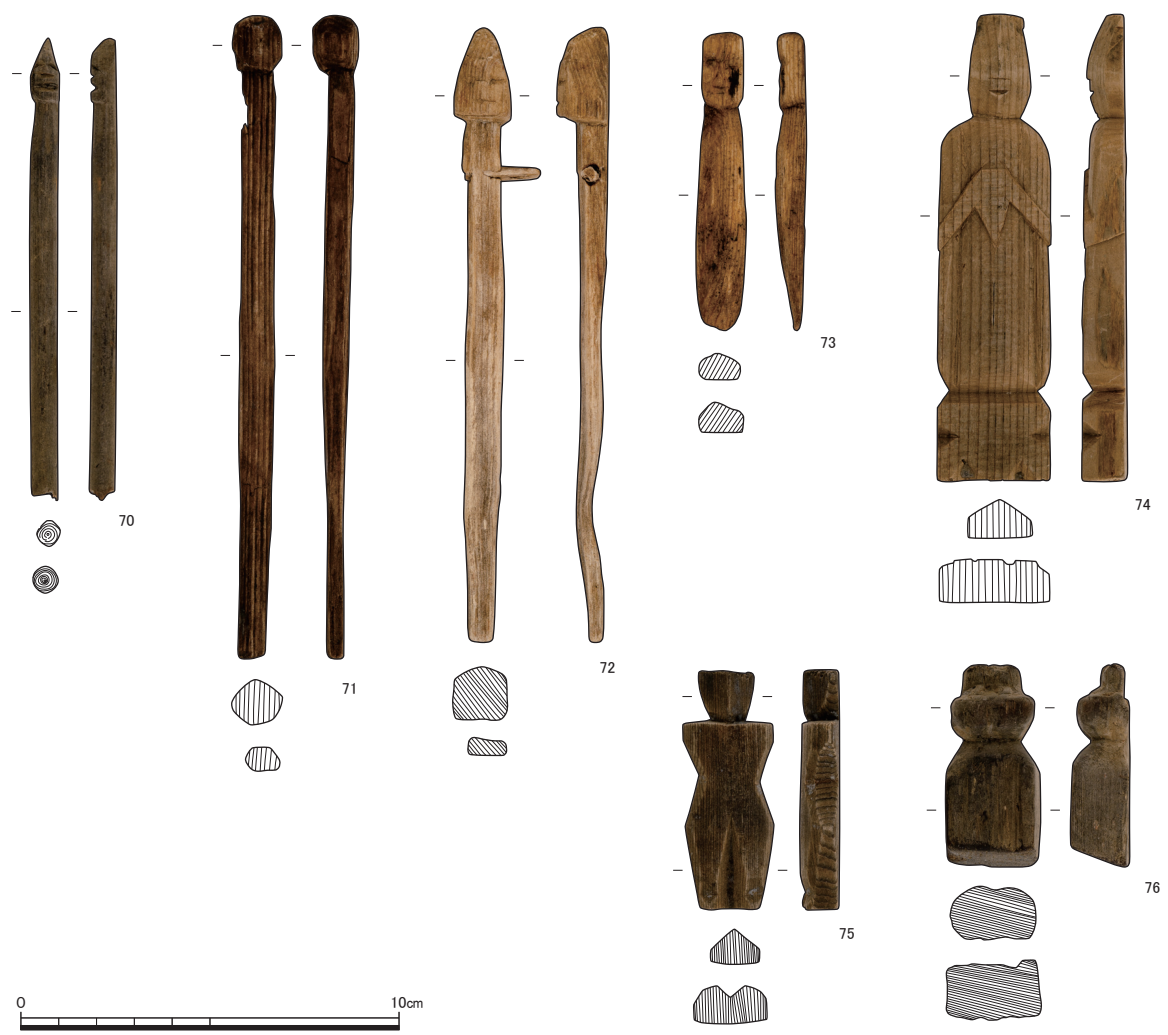
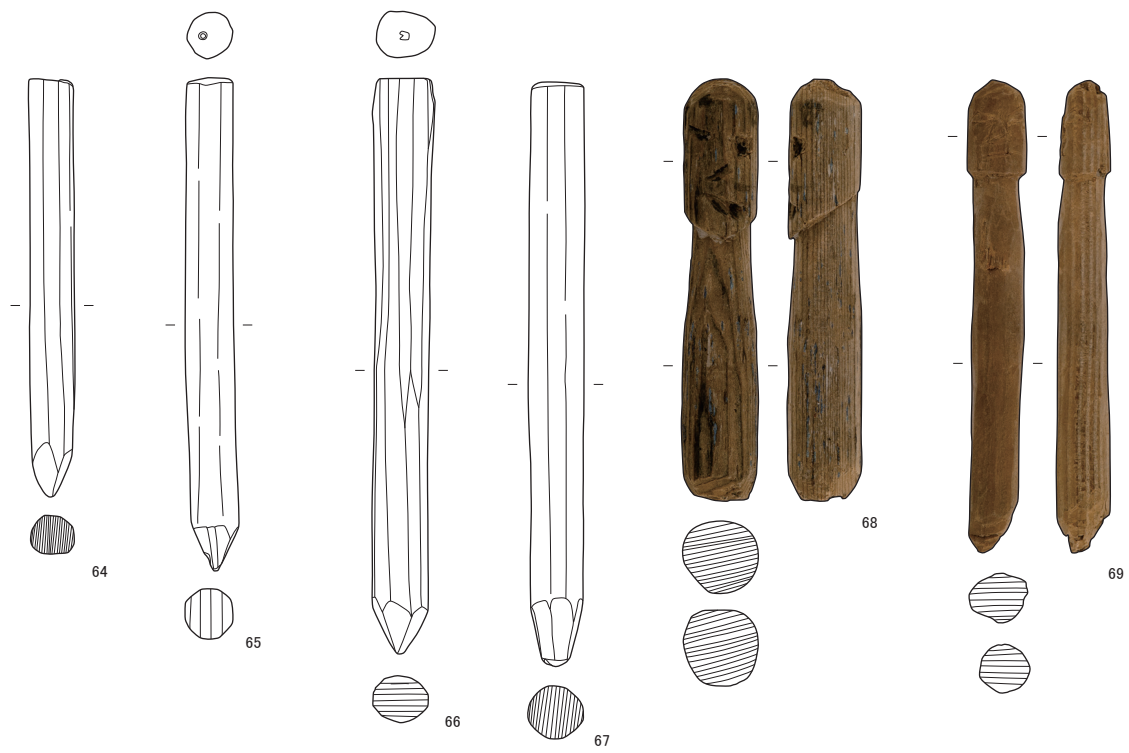


62



63







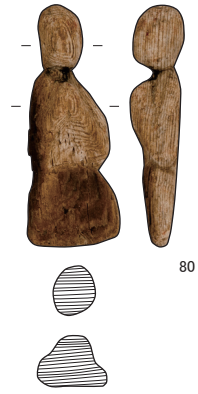
77



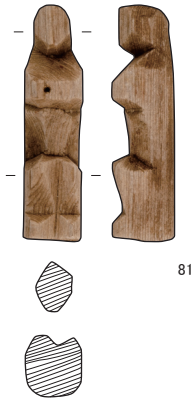
78



79



80



81



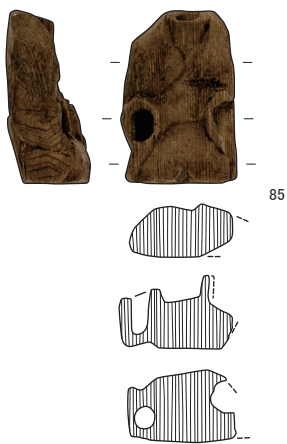
82



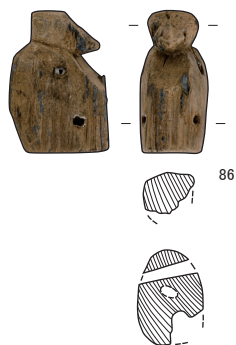
83



84



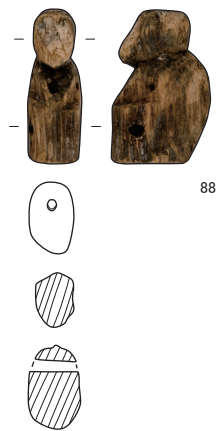
85



86

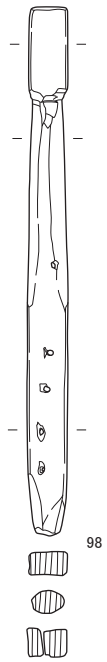
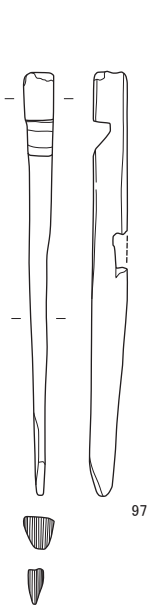
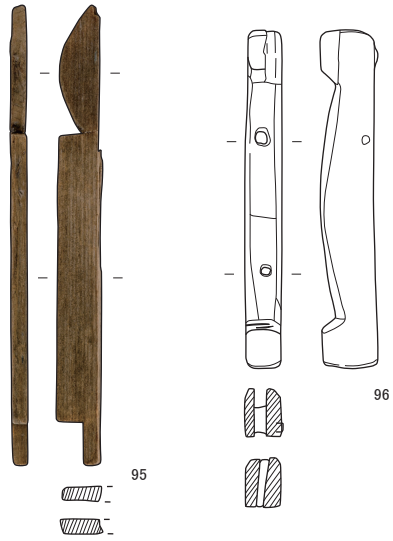
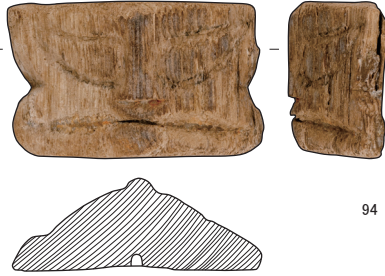
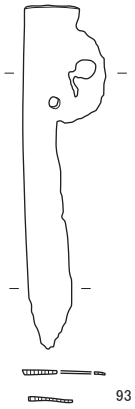
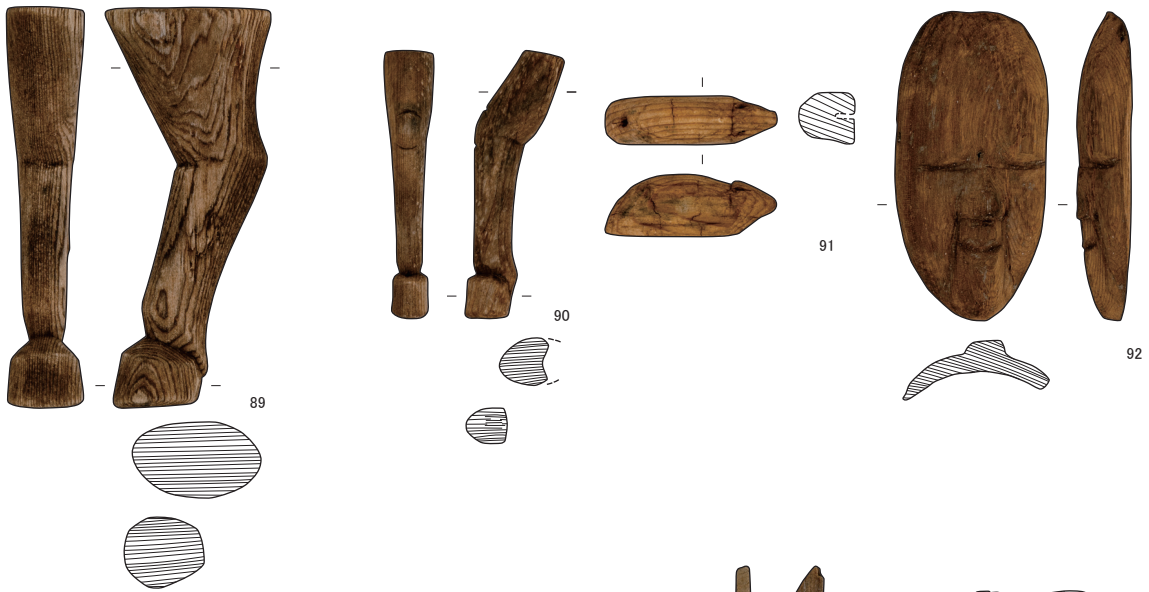


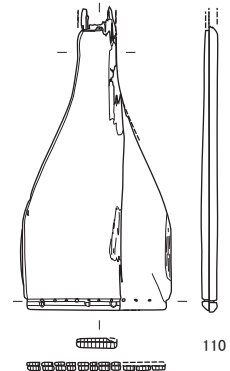
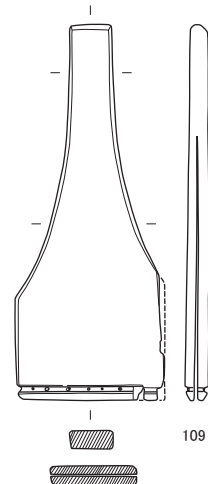
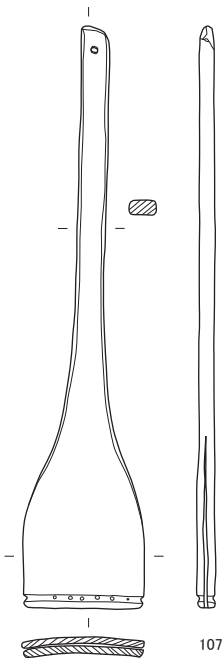
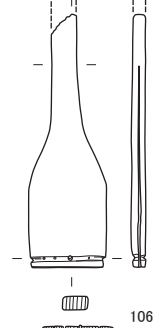
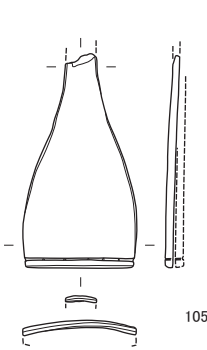
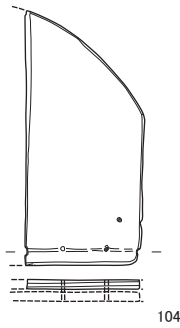
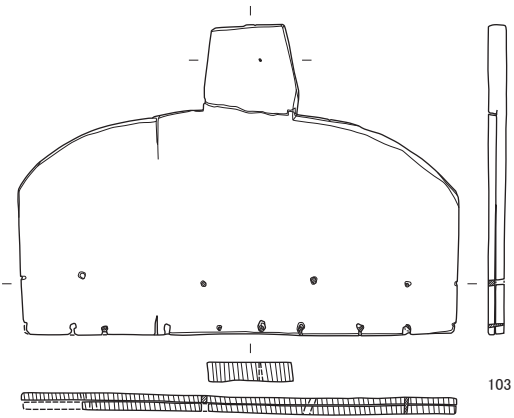
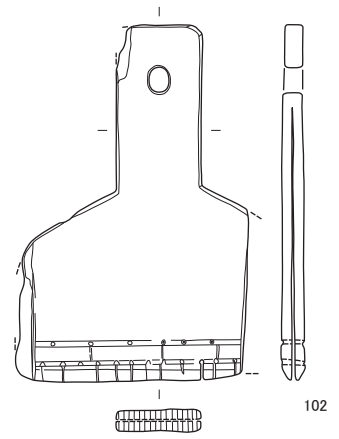
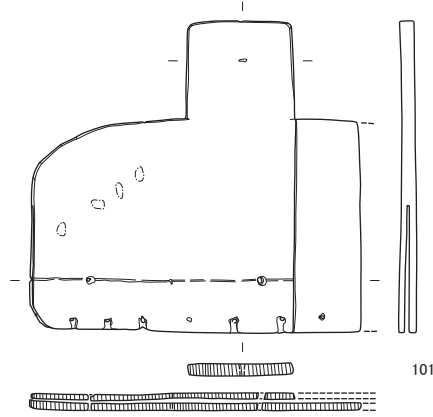
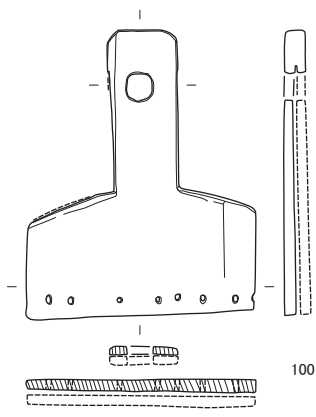
87



88









111



112



113



114



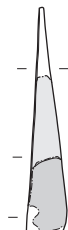
115



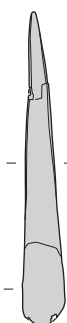
116



117



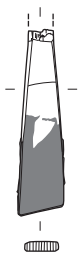
118



119



120



121



122



123

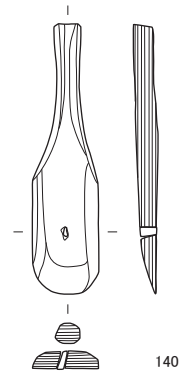
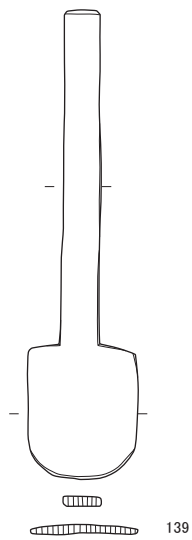
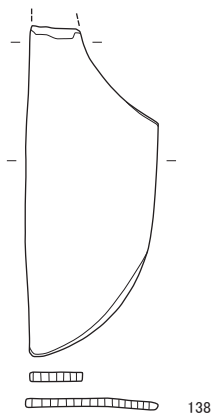
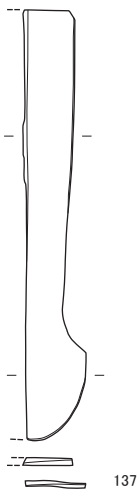
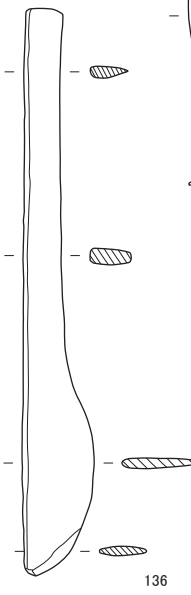
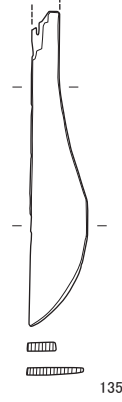
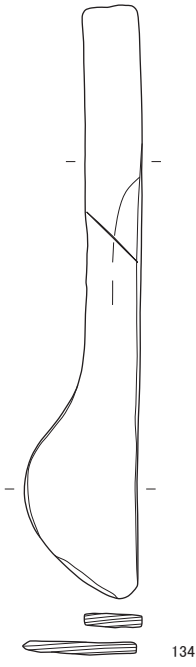
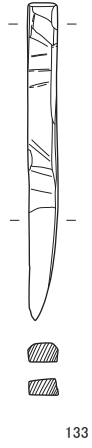
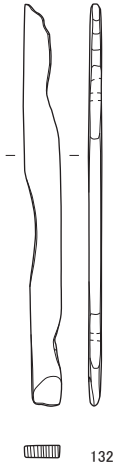
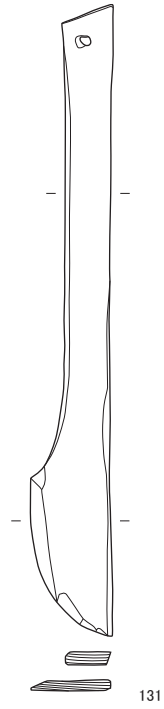
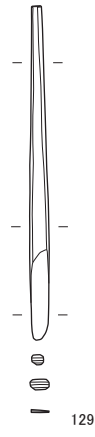
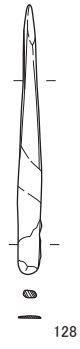
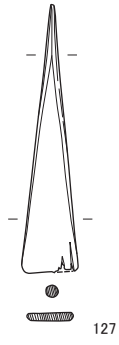
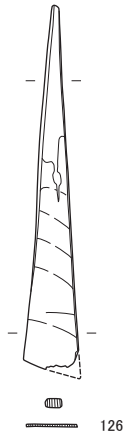


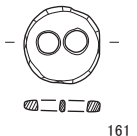
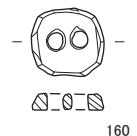
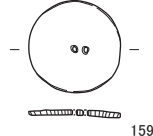
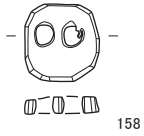
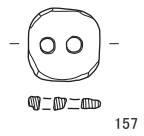
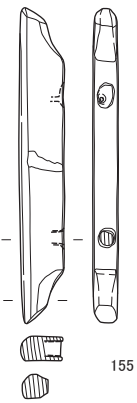
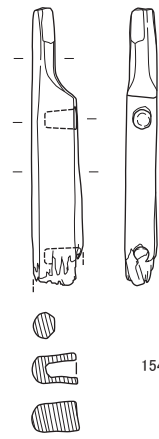
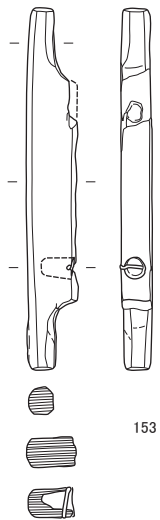
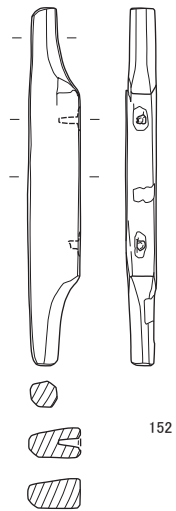
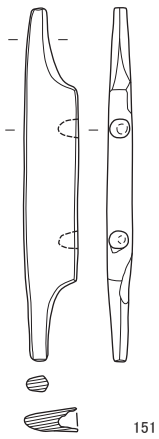
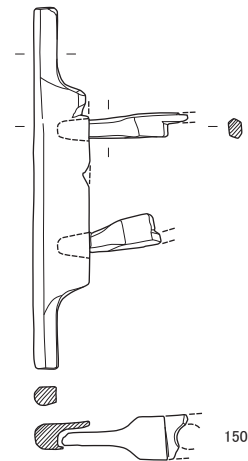
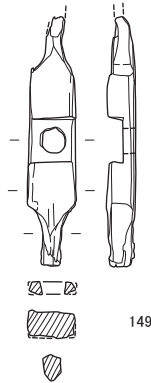
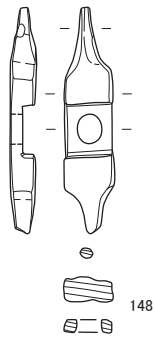
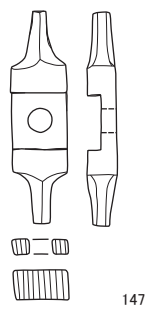
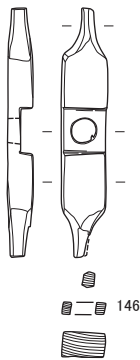
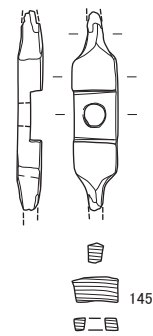
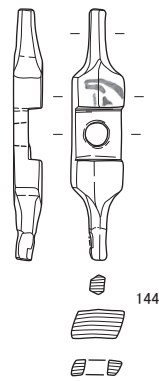
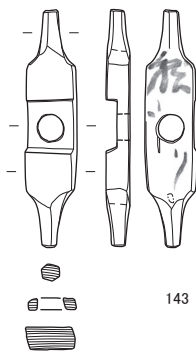
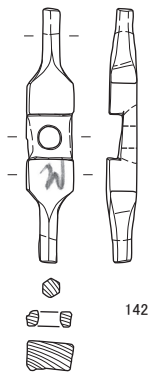
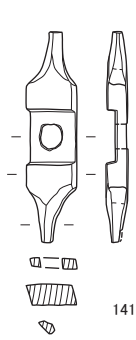
124

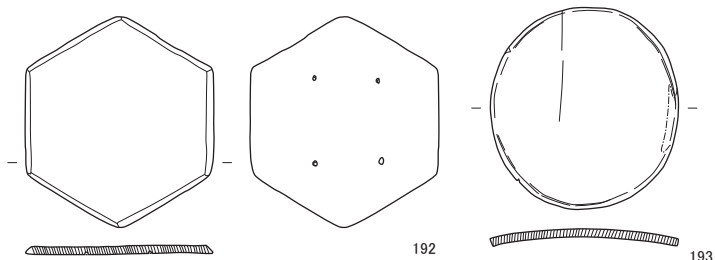
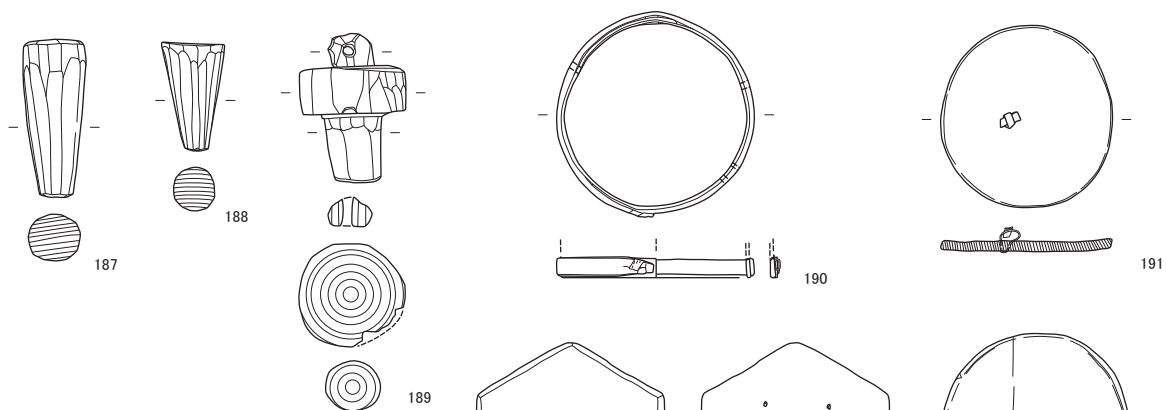
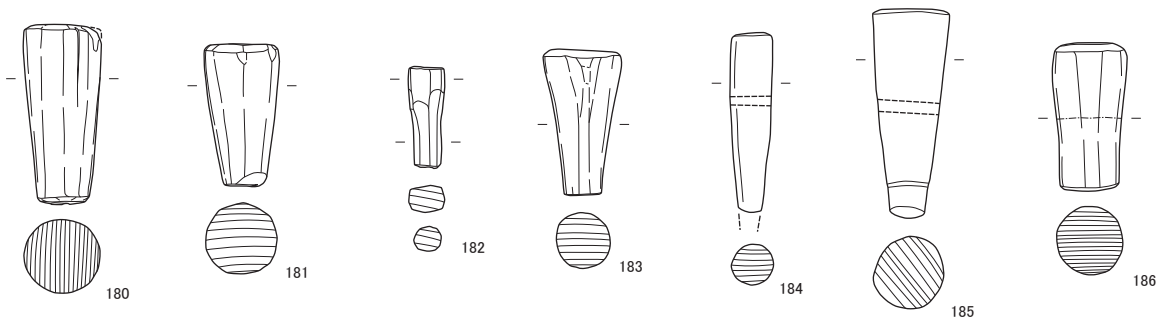
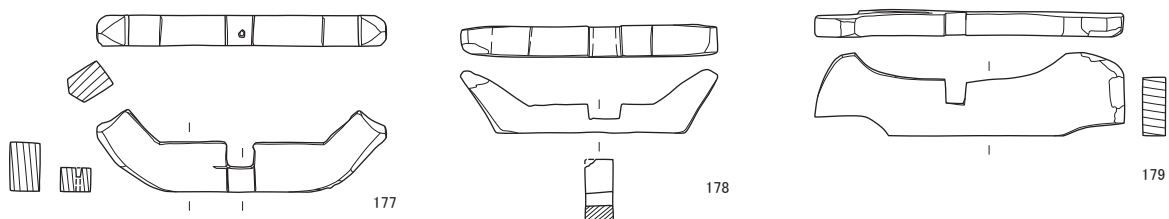
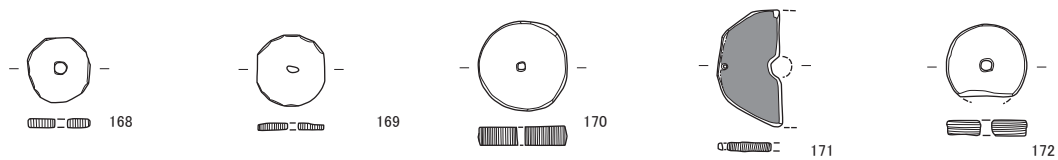
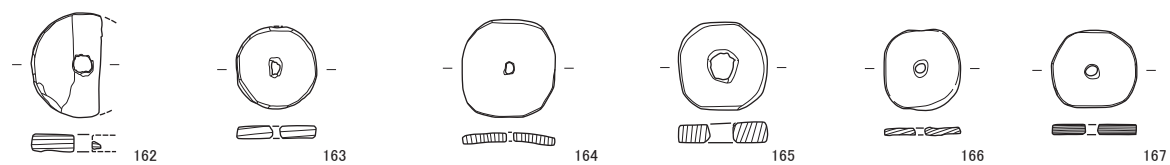


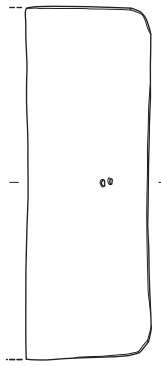
125



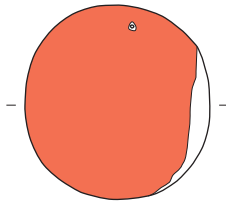




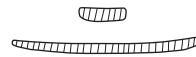
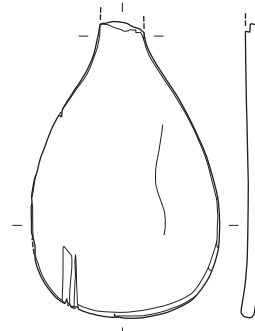




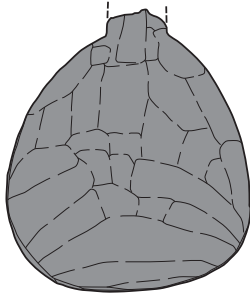
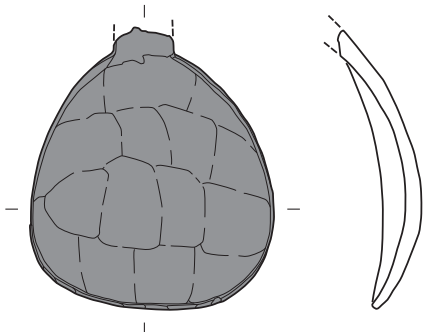
194



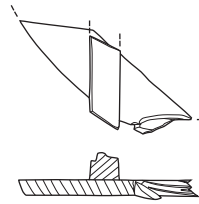
195



197



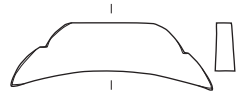
196



198



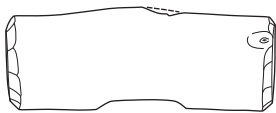
199



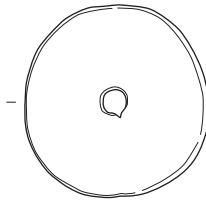
200



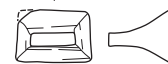
201



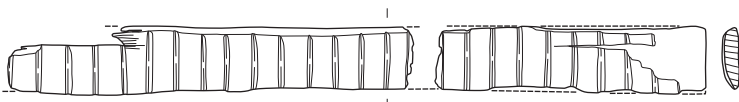
202



203



204

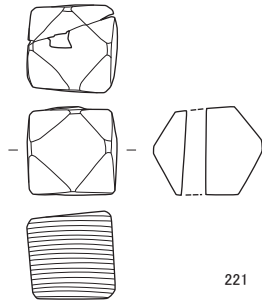
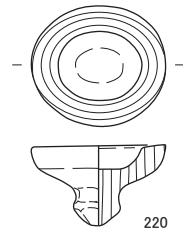
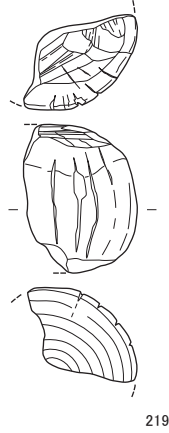
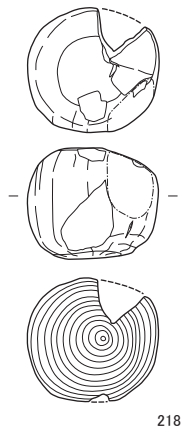
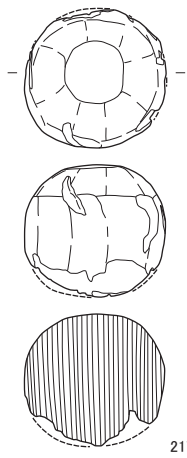
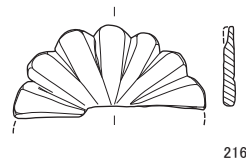
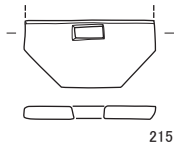
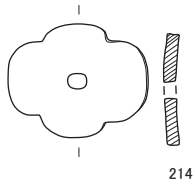
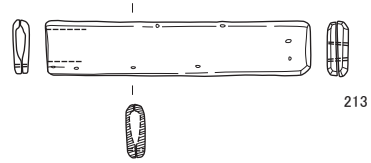
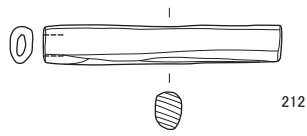
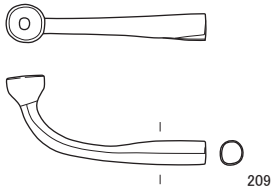
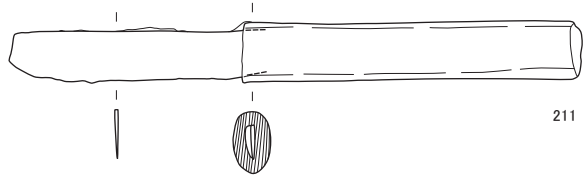
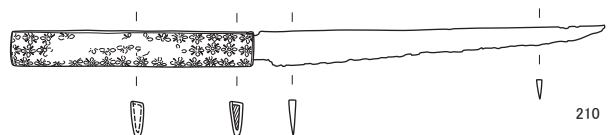
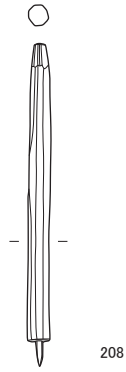
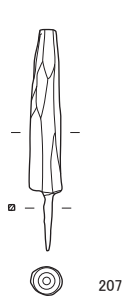


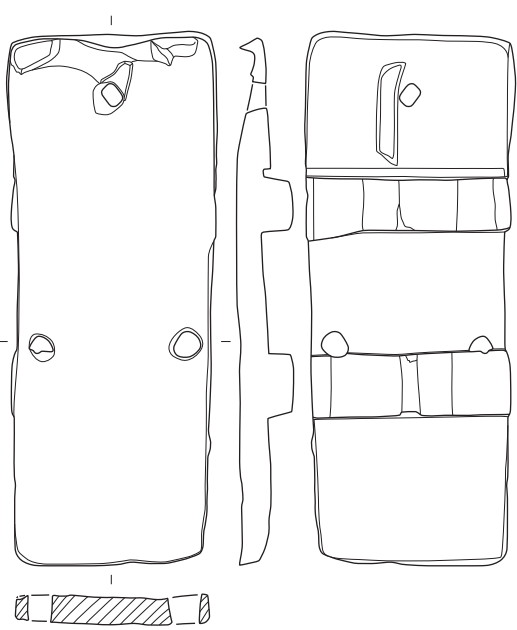
205



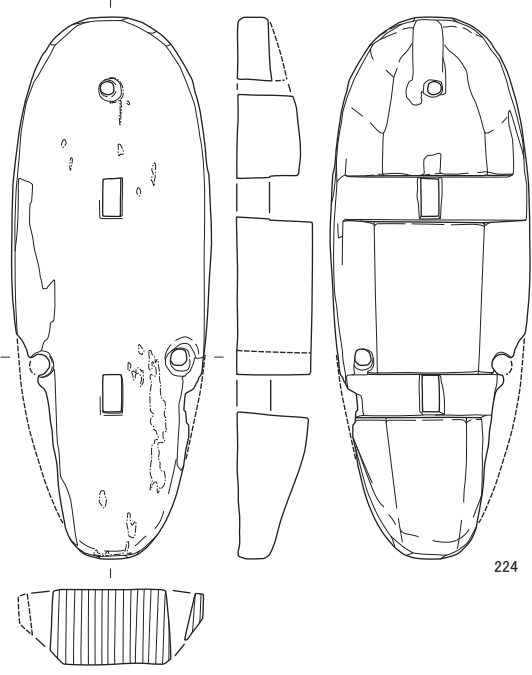
206



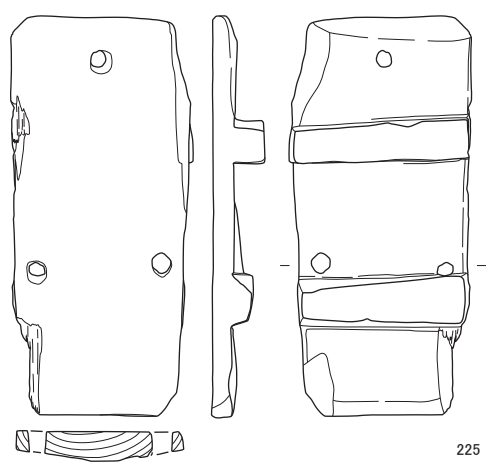




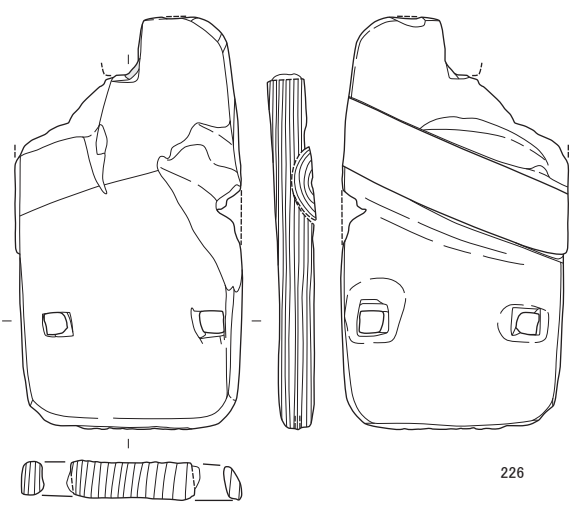
223



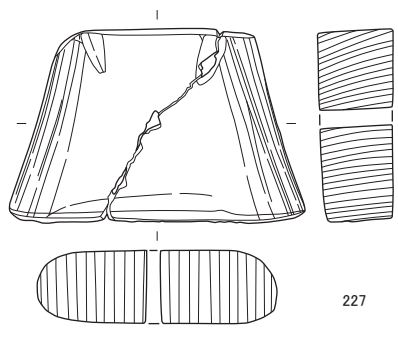
224



225



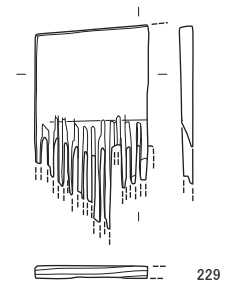
226



227



228

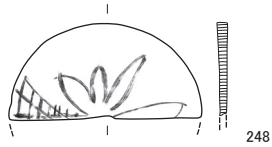
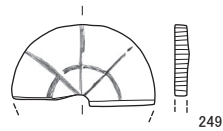
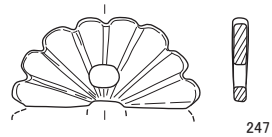
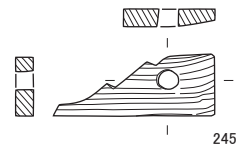
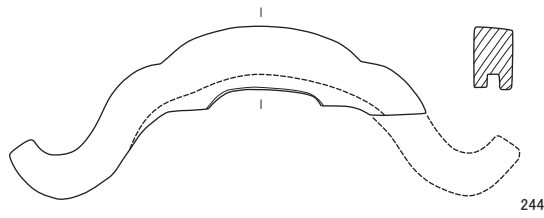
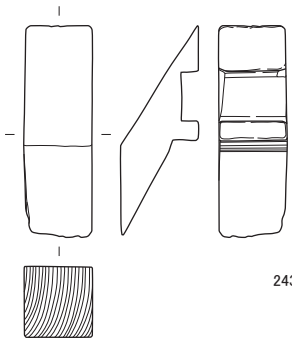
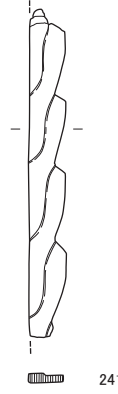
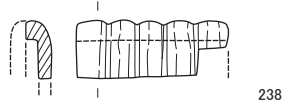
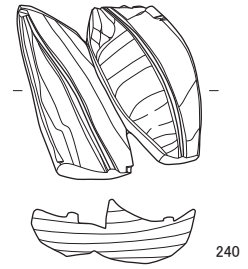
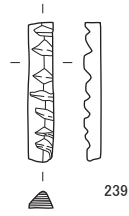
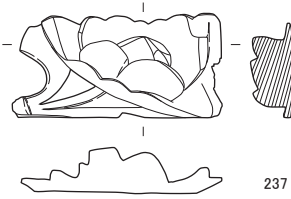
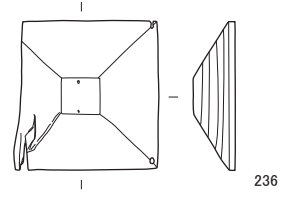
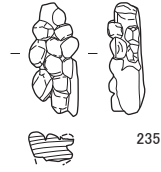
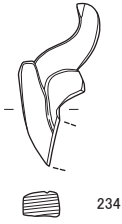
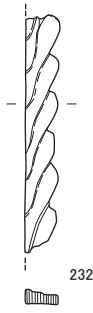
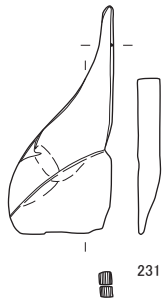


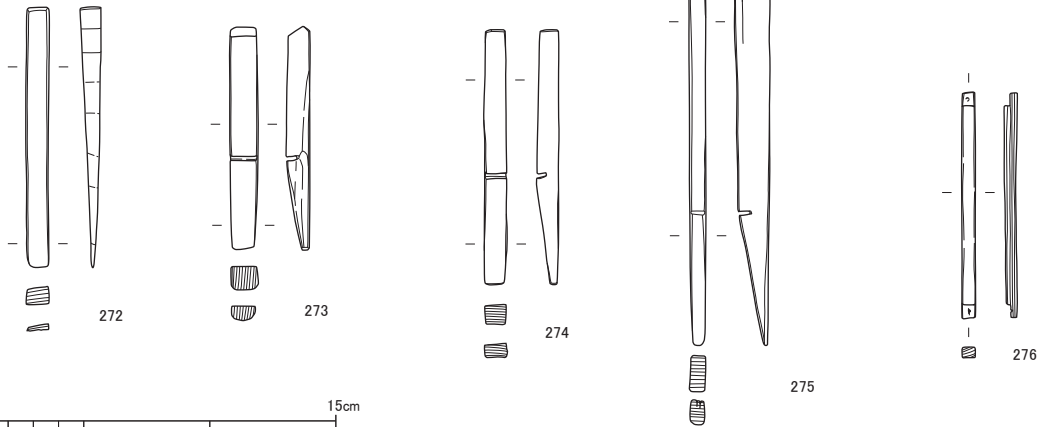
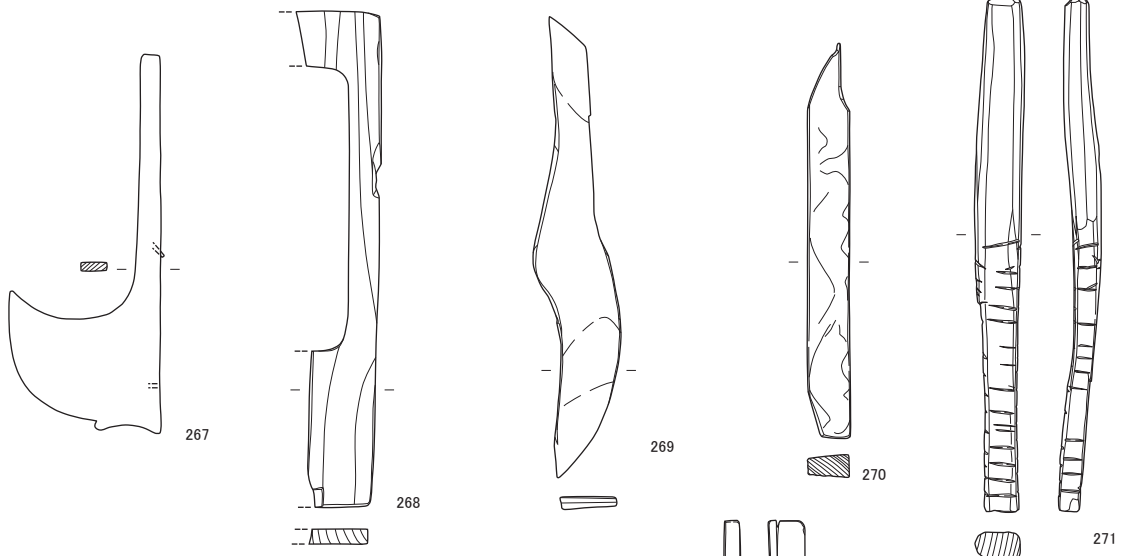
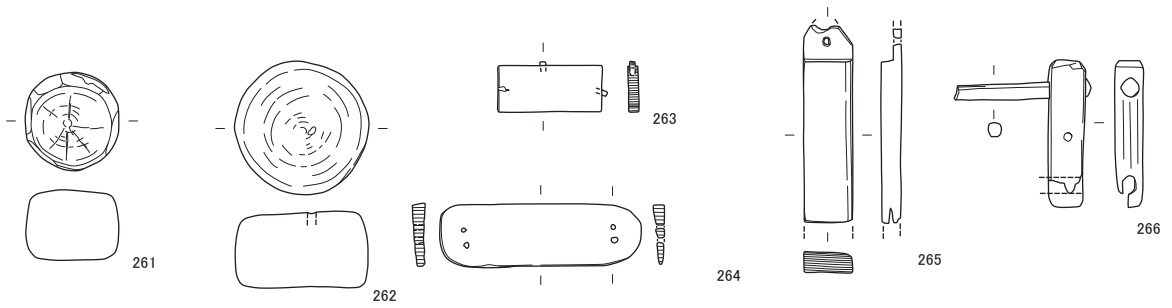
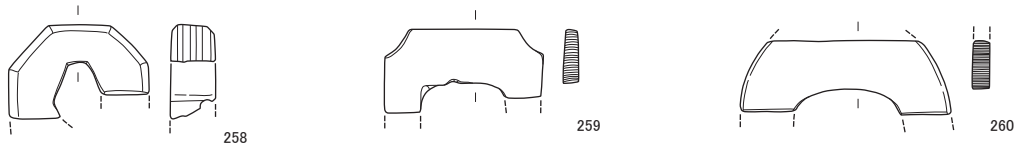
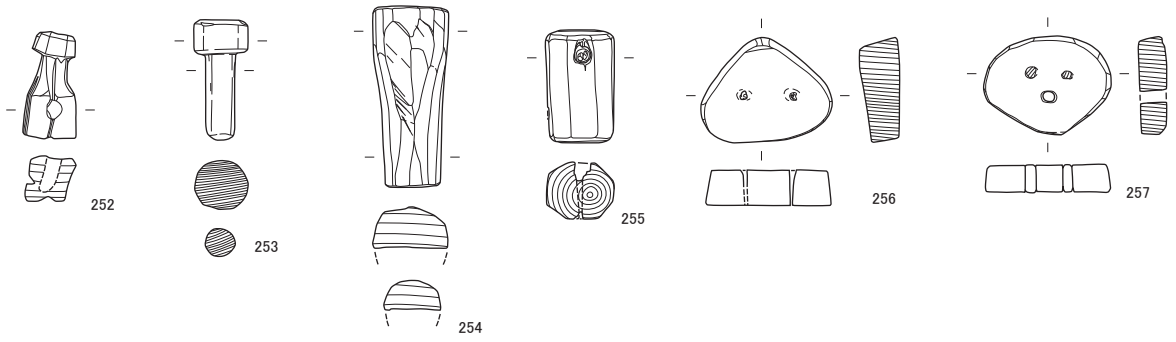
229

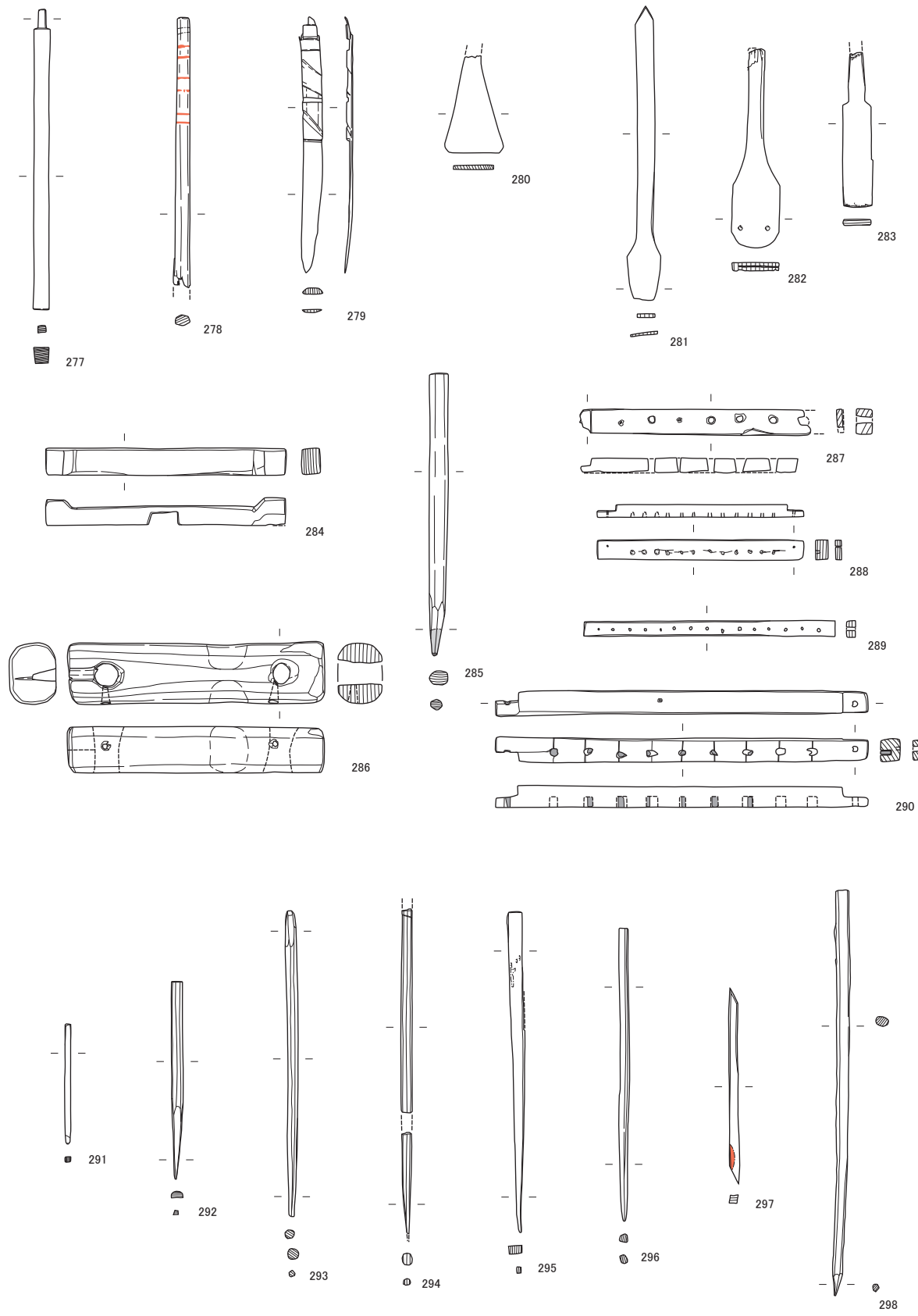


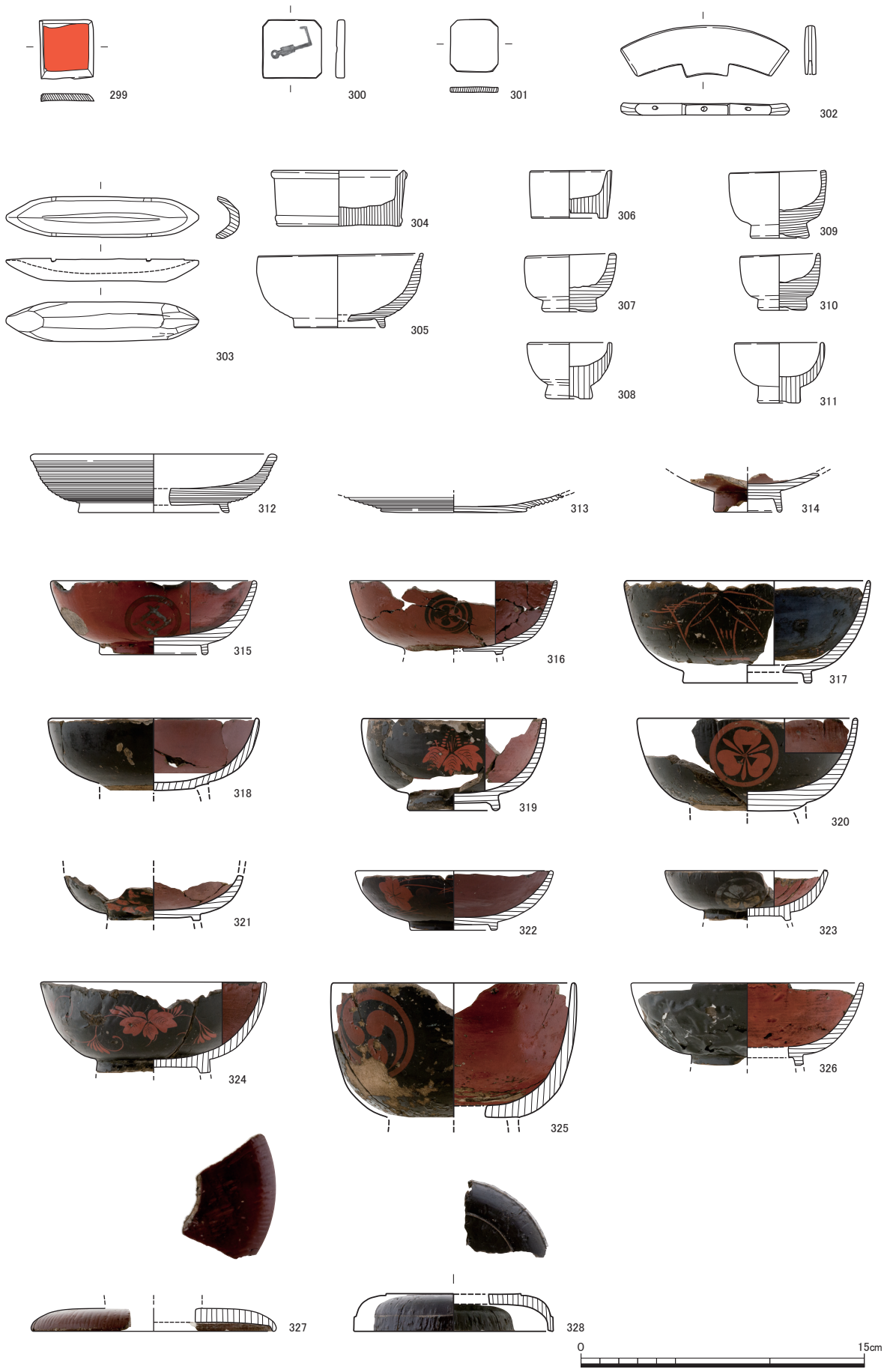
230





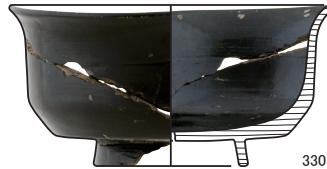




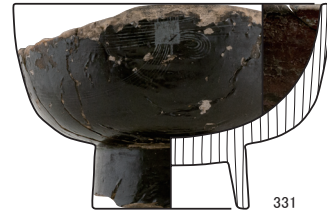




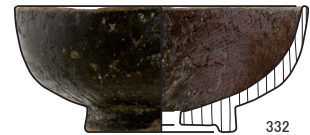
329



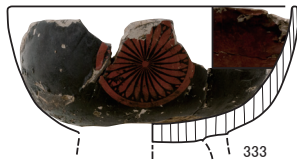
330



331



332



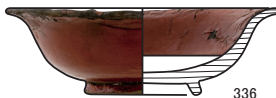
333



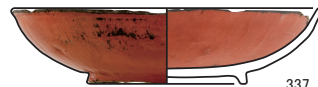
334



335



336



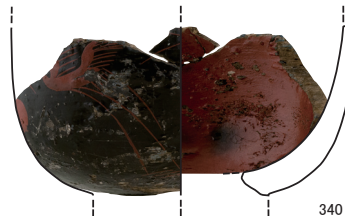
337



338



339



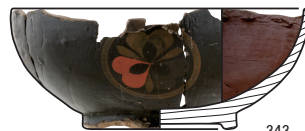
340



341



342



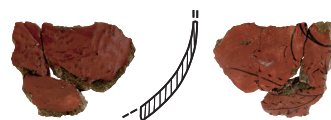
343



344

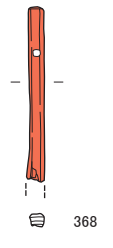
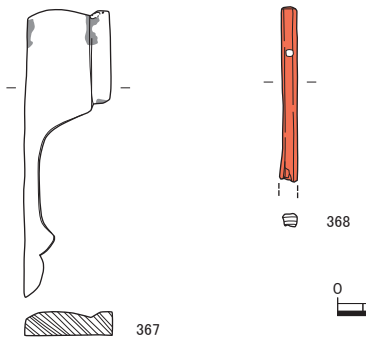
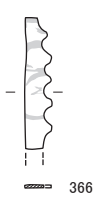
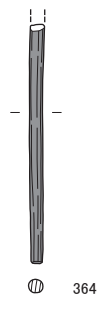
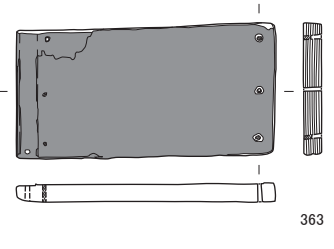
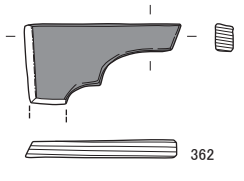
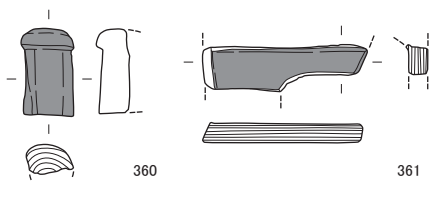
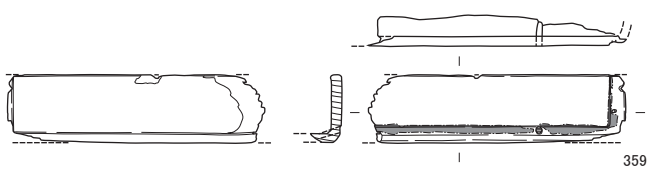
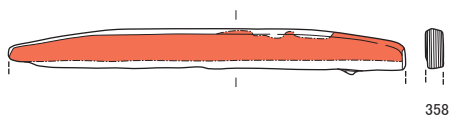
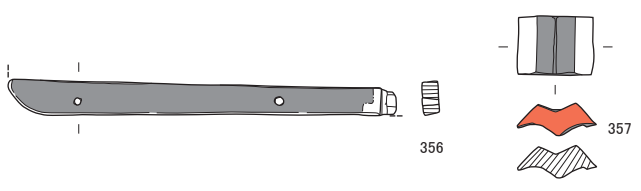
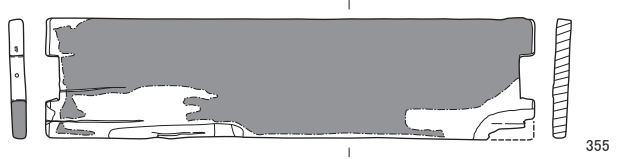
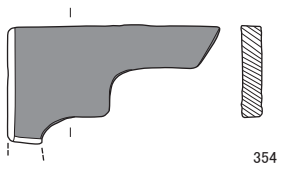


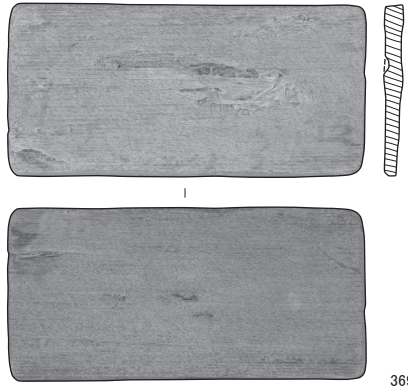
345



346

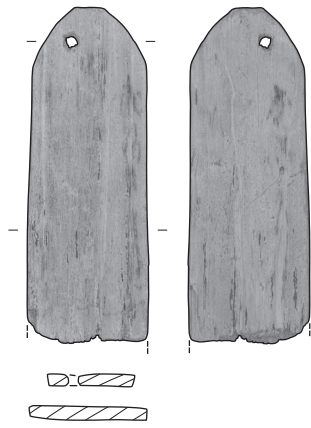






一山□□
ま□□しか□□
□□んさい□□
以上
午ノ
六月五□

369



・慶□
□月十□
・武州下□□
西国卅三所順礼
中□□利右衛門

370

甲午承応□
六月□
十二□□
(承応三年一六五四年)



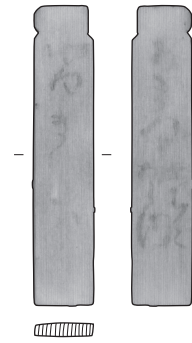
〔延カ〕
□寶三年 池田屋

371



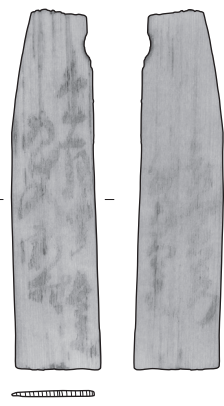
□衛門□
□高出かヤ□

372



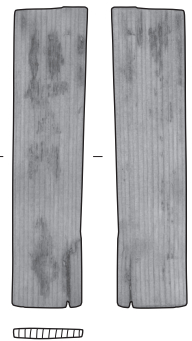
・あまへ
五衛門
ゆめま

373



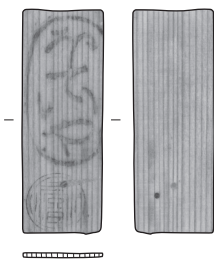
・庄や忠左衛門
升屋右兵へ
午十一月四日 長兵へ
五丈新村

374



伊賀内 □□

375



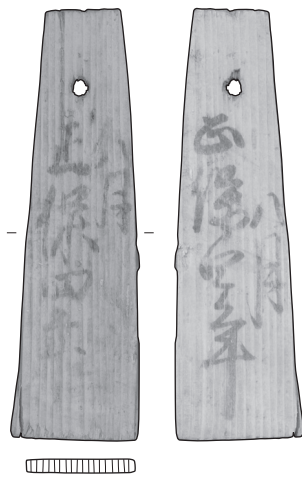
(焼印)「ほていや」(焼印)

376



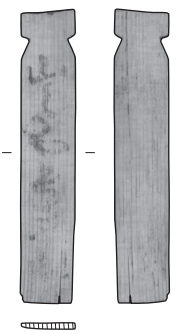
・たんは
伝兵(衛カ)
大小十□

377



八月
正保四年
八月
正保四年

378



山たや長右衛門

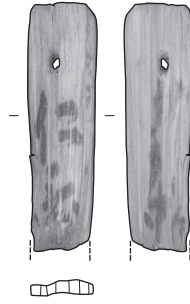
379





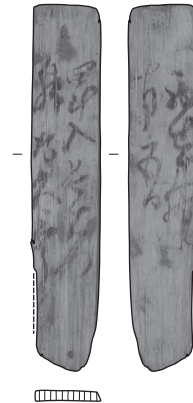
380

・右衛門
・あ百れうく



381

・ほう所
・仁齋



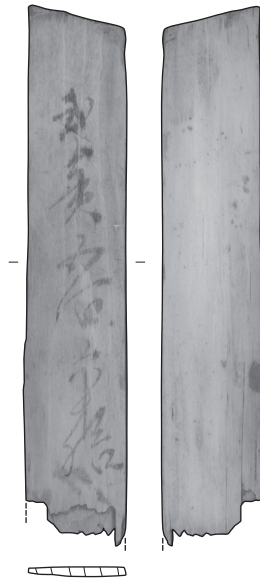
382

・西世木村十月五日
・四斗入 長右衛門
・舛取 久三郎



383

・御けんくわん御門のかぎ
・御玄関へい之御門のかぎ



384

式十貫五合六十結



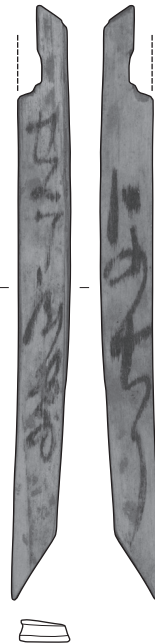
385

ふしはかま



386

・わか
・けんもちさま



387

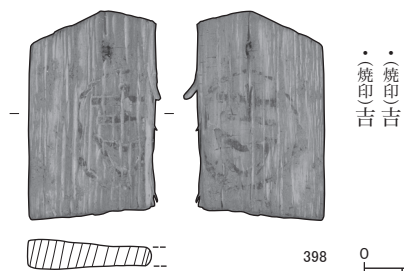
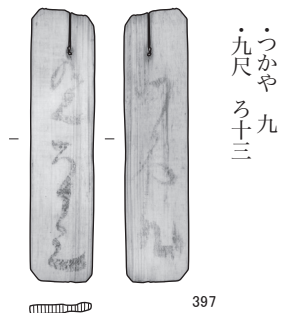
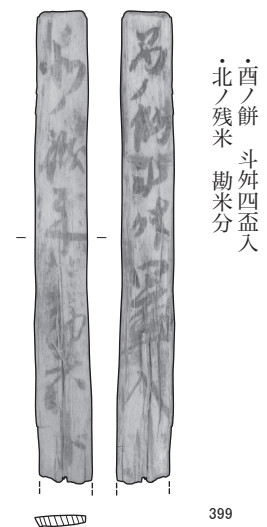
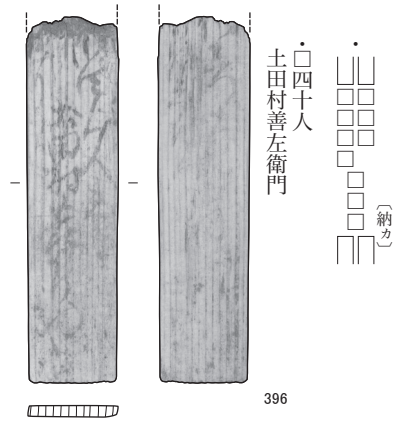
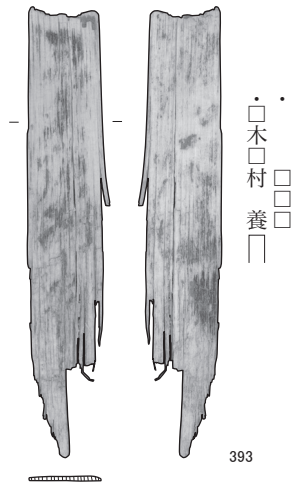
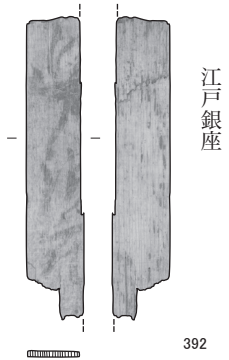
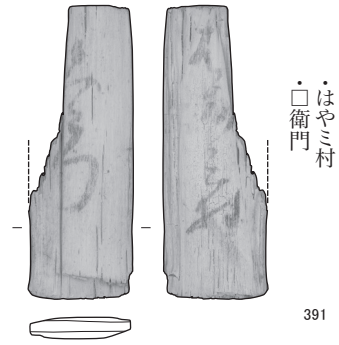
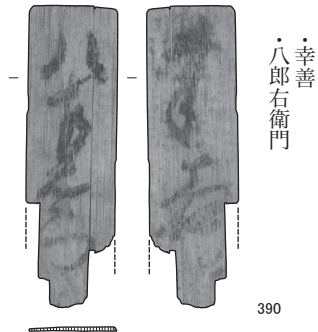
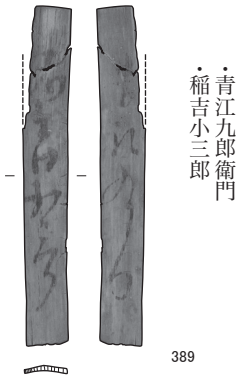
・にのちう
・せんてう屋敷

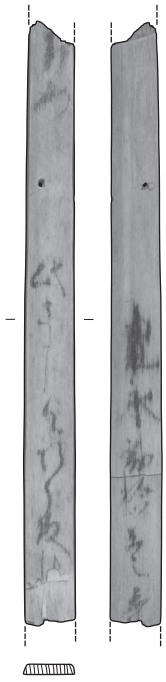


388

上坂五右衛門







400

・寛永式拾卷年
・左衛門 此さし与次郎殿



401

□ノ源左衛門



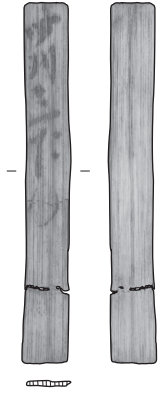
402

藤田道悦



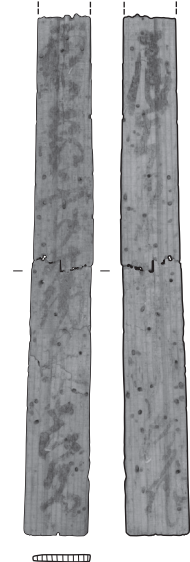
403

□□□七衛門
・高し
・新
・作
・五郎左衛門



404

中川三左衛門



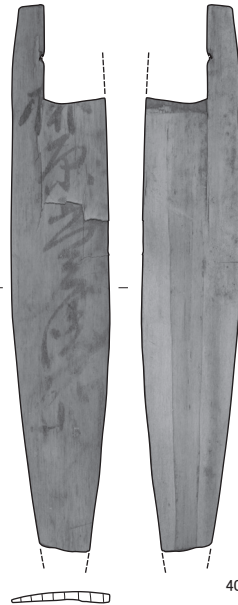
405

・辰十二月十日
・栗太郡ふけ村備米 喜左衛門



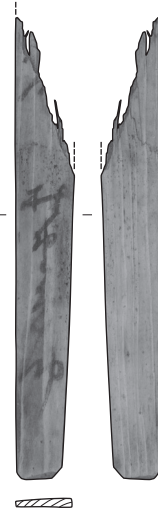
406

三十式組 幸兵衛



407

柳原六兵衛門



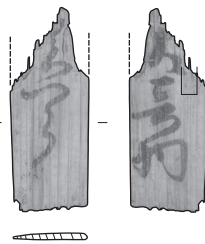
408

村野甚助



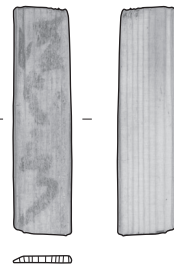
409

小太郎



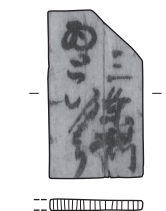
410

・孫一郎
・春物



411

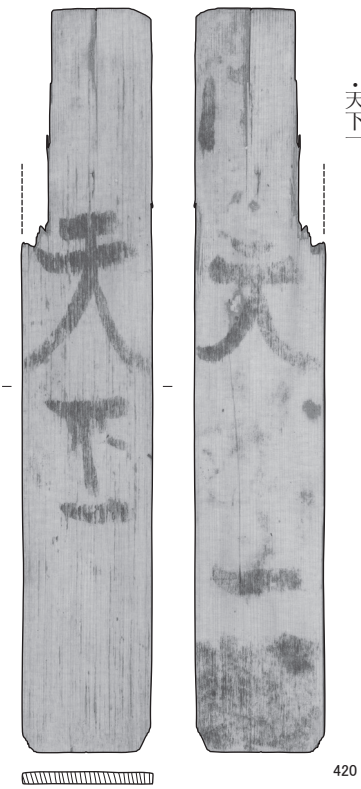
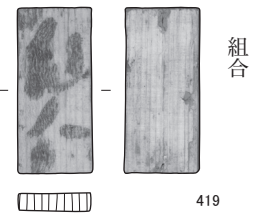
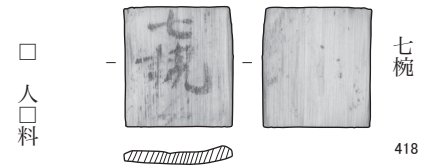
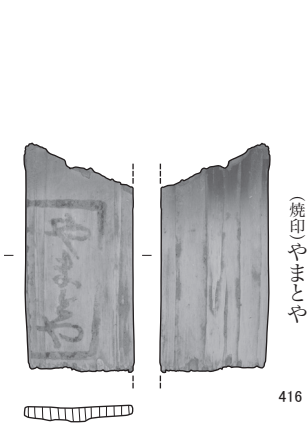
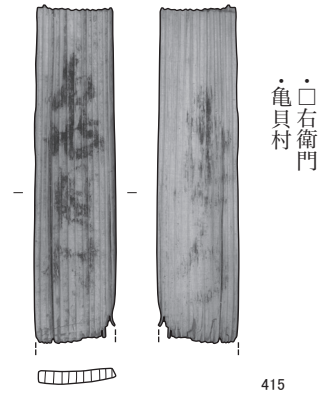
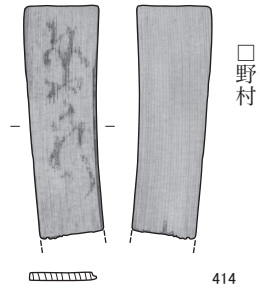
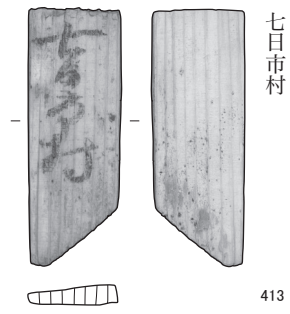
酒与三郎



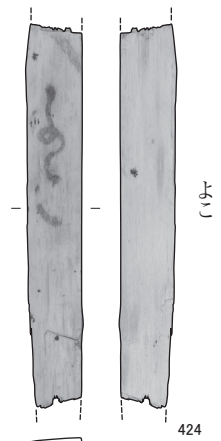
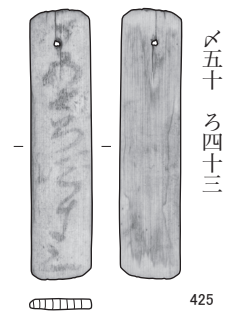
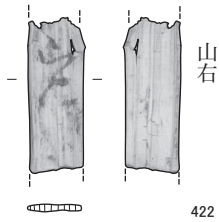
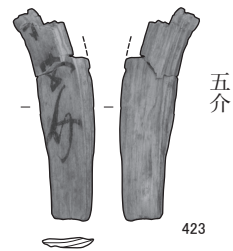
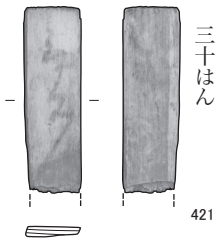
412

・三條坊門
・三條坊門 / 西といとおり





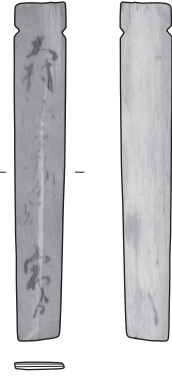
天下
天(下)





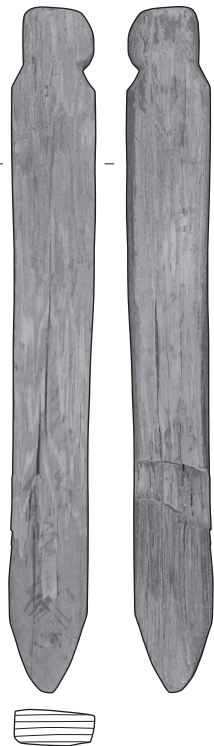
426

- ○ (アルファベット) v □ (アルファベット)
- ○ (アルファベット) m □
- ○ やん □ 窓
- ○ やん □ る 睡 □ □ く



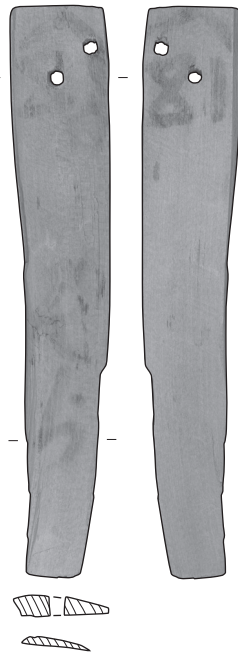
427

・ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
 ・ 大村 □ (弥か) 兵衛殿まいる
 宿より



428

(赤外線写真真では読めず)
 (勺カ)
 ・ 御米三 □ □ □ □
 ・ 宇 □ □ 浦上村 □ □ 傳右衛門 (印カ)



429

(商標カ)
 □ □ (商標カ)
 □ 右衛門



430

・ 京極丹後殿へ遣ス寺内蔵助
 ・ ミつつけのつほぎつ 筑後より



431

・ 料紙拾三束
 内五 内三
 ・ たや
 からしつさま
 まいる



432

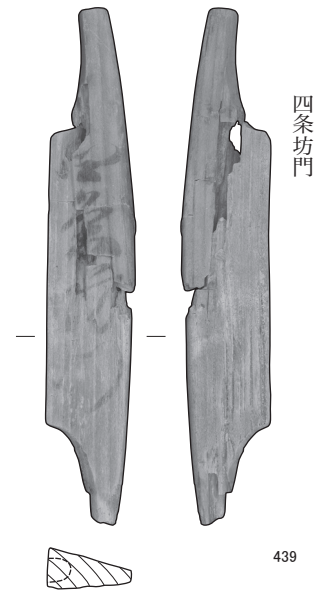
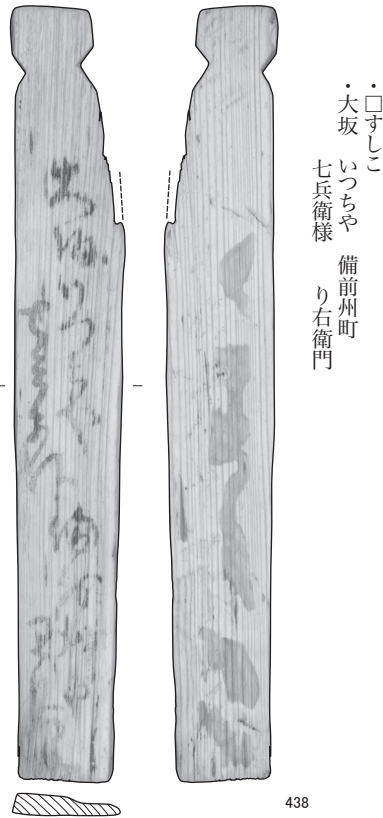
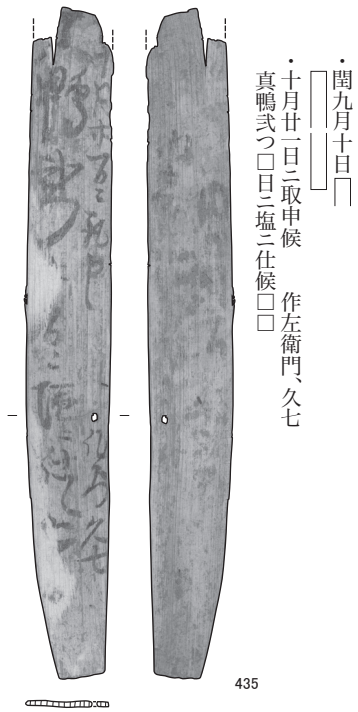
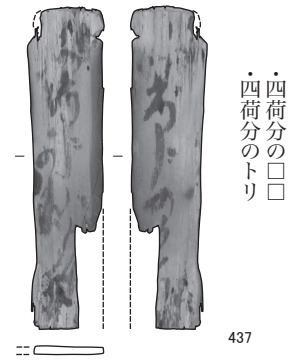
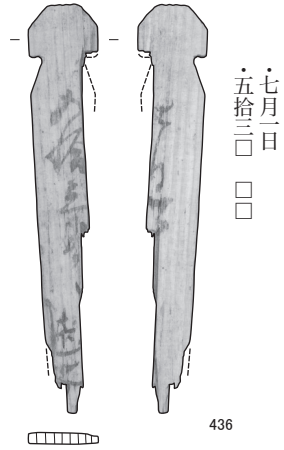
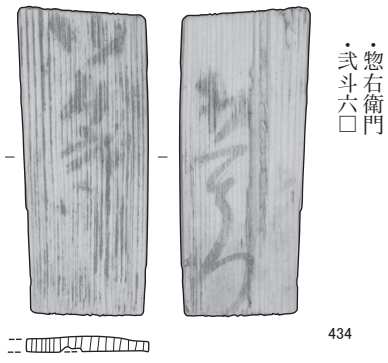
・ 丸に中黒 未卯月五日
 ・ 上 大山ノ口拾本入

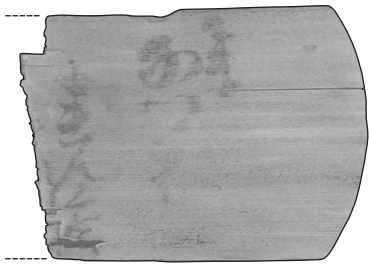


433

・ 七条
 三郎
 ・ 五分
 にしを○
 こし

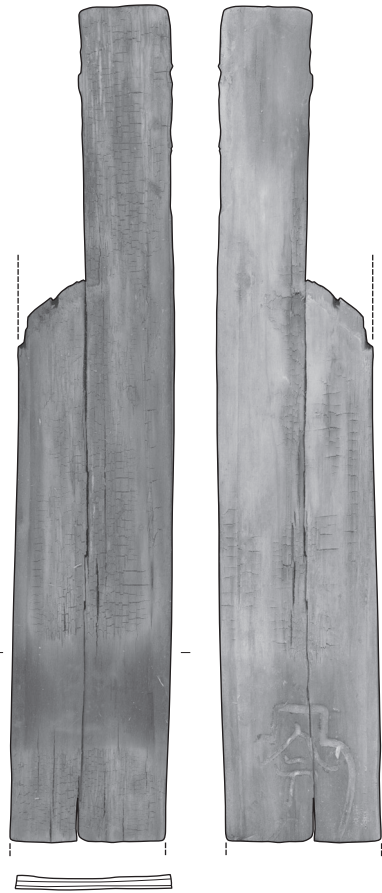






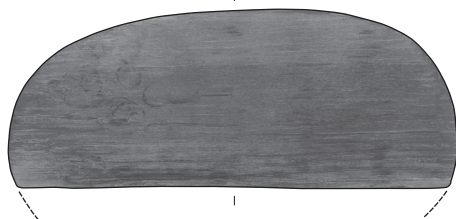
□年
なつとう
れんノ□□し

441



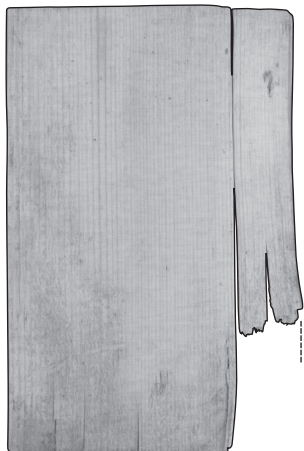
(焼印)「壺形」今

443



天正十
年三月
弥三□□

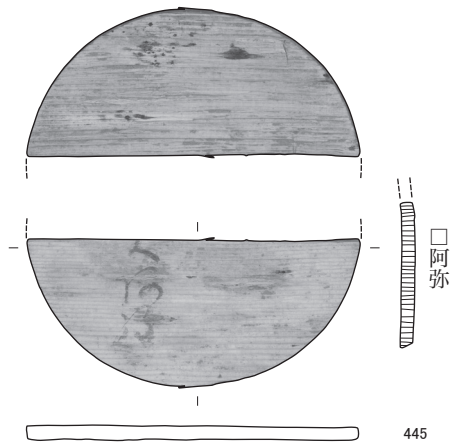
442



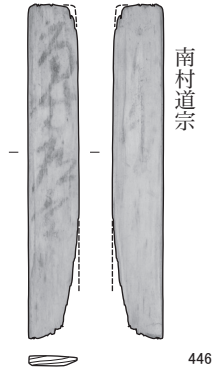
六日之茶

444

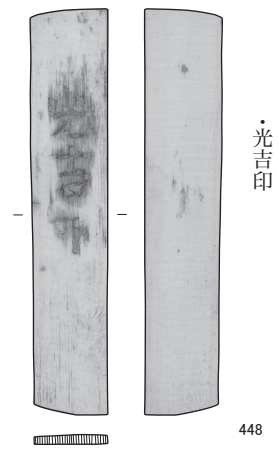




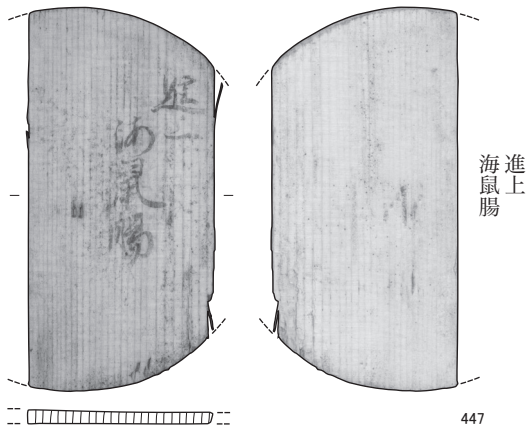
445



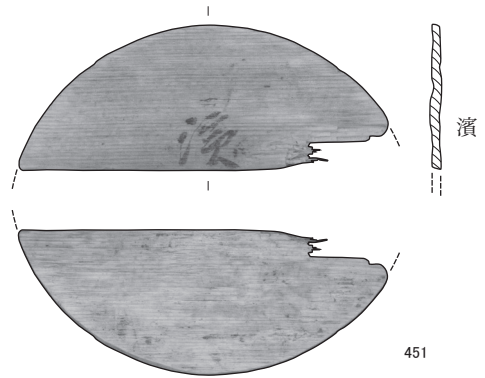
446



448



447

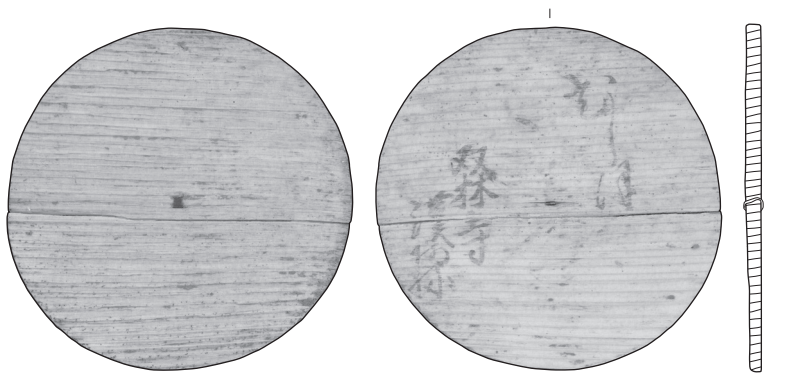


451



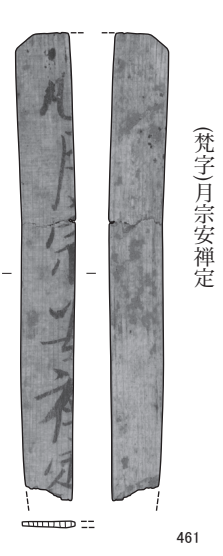
上之
上上
諸口
正口
三拾
此地
大大
三福
大正
正月
大福

449



450





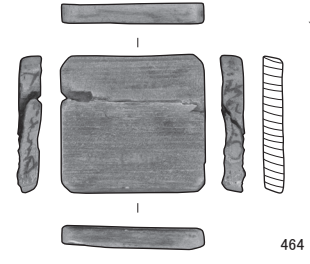
(梵字)月宗安禪定

461



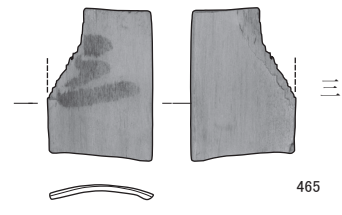
打作叫声目蓮非哀問(血盆経)断簡

462

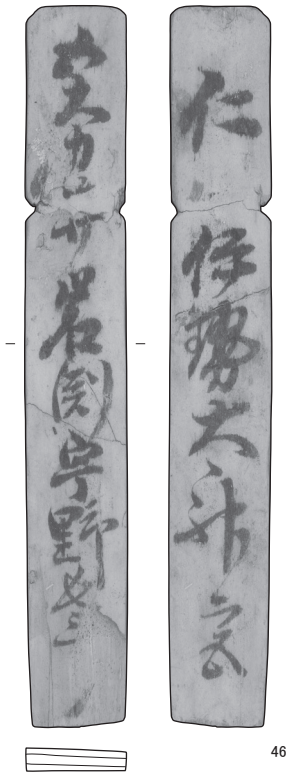


庄左衛門
せうざゑもん
(えもか)
ん

464

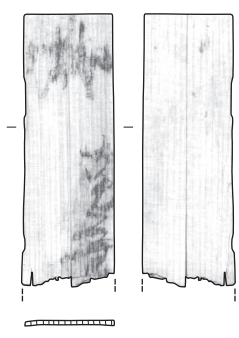


465



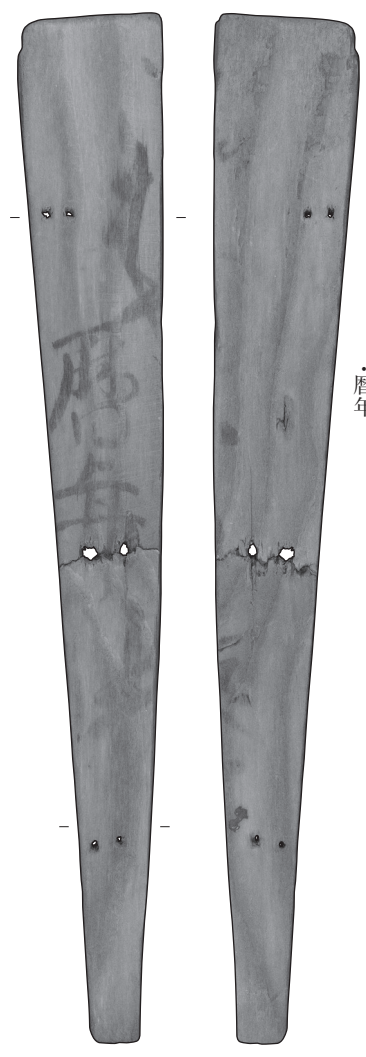
仁 伊勢大神宮
五大力并岩濶宇野長三郎

463



御見

467



曆年

466

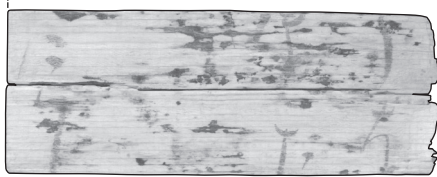
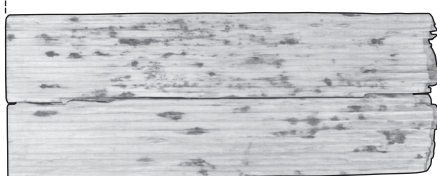




蓮



468



三
うち
た
口

469



覚
覚
覚
ん



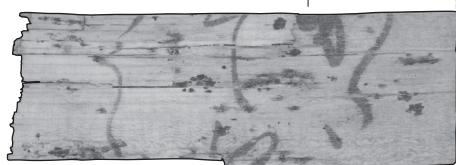
471



いろいろ



472



かた
て
候
候
候

470



次
口
口
口
五月分
此しはかへ引
三十一口方地
五十四口九分十一



473



買主
竹蔵



474



江南
風月



475

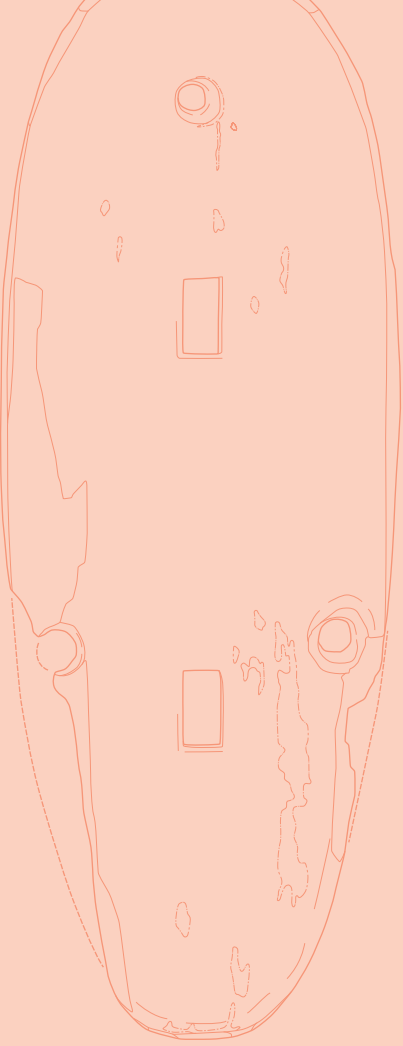


定
家

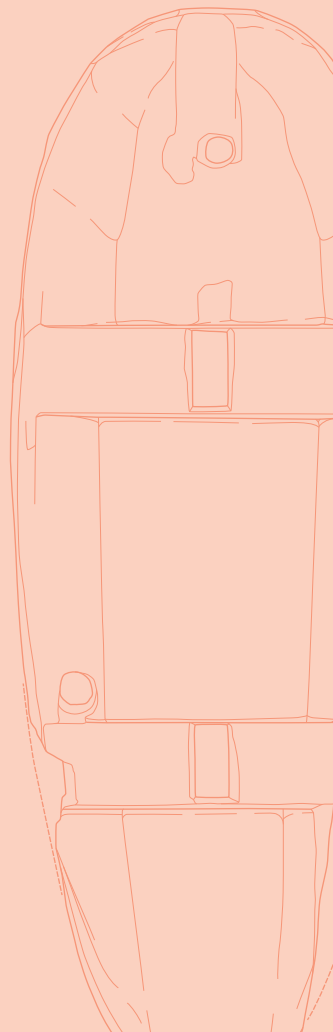


476





一覽表



人形類一覽表 1

掲載 No.	年次	資料名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	頭部穴有無	頭部穴部位と様式	備考	指定 No.
1	調査2	1a 類	7.1	4.5	5.1	有	楔式が生え際全体；頭頂部が木釘式	若年女性、加納分類② (加納 2007、以下同じ)	69
2	調査2	1a 類	9.5	6.2	5.0	有	木釘式；後頭部	加納分類⑦、顔面消失 (魂抜きか)	70
3	調査2	1a 類	7.6	4.5	4.5	有	楔式；生え際全体	壮年女性、頸部に鋸跡、修復の痕跡あり (膠使用か?)、加納分類③	71
4	調査2	1a 類	8.9	3.4	5.8	有	小穴 (木釘残存せず)；後頭部	加納分類⑥	72
5	調査2	1a 類	7.2	4.9	4.4	有	楔式；生え際全体	加納分類④	73
6	調査2	1a 類	13.7	7.7	7.5	有	楔式；生え際全体	加納分類⑧	76
7	調査2	1a 類	8.8	(3.1)	(2.7)	有	木釘式；額；側頭部	加納分類⑤	87
8	調査3	1a 類	8.6	(2.7)	(2.5)	有	木釘式；額；こめかみ	操り 1a 人形頭部片	100
9	調査3	1a 類	4.5	3.8	3.6	無	-	頸部に鋸跡、薄い細工鋸	77
10	調査2	1b 類	6.4	2.2	2.1	有	径 6mm の穿孔；頭頂部	穿孔は冠などの飾り用？	84
11	調査2	1b 類	9.2	2.5	2.2	無	-	甲形頭部	85
12	調査2	1b 類	5.1	2.8	2.7	無	-	首底部切断痕あり	86
13	調査2	1b 類	8.1	2.6	2.2	有	小穴 (木釘残存せず)；頭頂部		96
14	調査2	1b 類	8.3	2.2	1.8	無	-		117
15	調査2	1b 類	7.8	3.6	3.3	有	木釘式；後頭部		81
16	調査2	1b 類	10.3	2.3	2.4	無	-	烏帽子形 (侍)	111
17	調査2	1b 類	8.8	3.3	3.3	有	木釘式；生え際全体；後頭部	加納分類①	74
18	調査2	1b 類	8.8	3.9	4.1	有	木釘式；頭頂部の凸部両側	頭頂部に冠か？	75
19	調査2	1b 類	5.1	3.0	2.4	無	-	頭巾をかぶっている姿を表現	90
20	調査2	1b 類	7.6	1.4	1.0	-	-	割れた頭部	120
21	調査3	1b 類	5.4	1.9	1.9	無	-		94
22	調査3	1b 類	6.9	3.5	3.1	有	木釘式；額；後頭部		95
23	調査3	1b 類	9.2	2.5	2.3	無	-	立烏帽子形	92
24	調査3	1b 類	7.3	2.9	2.0	有	後頭部		97
25	調査3	1b 類	8.4	3.5	2.9	有	小穴；後頭部		98
26	調査3	1b 類	5.1	2.3	2.6	無	-		99
27	調査3	1b 類	7.7	2.6	2.3	無	-	古式	101
28	調査3	1b 類	9.4	4.0	3.7	有	小穴 (木釘残存せず)；後頭部		106
29	調査3	1b 類	5.0	2.6	2.7	有	木釘式；後頭部	頸部を再切断か？	105
30	調査3	1b 類	7.7	2.4	2.3	無	-		113
31	調査3	1b 類	7.8	3.7	3.6	無	-		107
32	調査3	1b 類	7.9	2.9	2.8	有	小穴 (木釘残存せず)；後頭部		108
33	調査3	1b 類	6.8	2.8	2.5	無	-		79
34	調査3	1b 類	11.7	2.1	2.3	無	-	立烏帽子形	114
35	調査3	1b 類	8.8	3.0	2.2	無	-		82
36	調査4	1b 類	4.5	1.4	1.9	-	-	立烏帽子形	104
37	調査4	1b 類	7.2	3.5	3.3	有	小穴 (木釘残存せず)；後頭部		80
38	調査4	1b 類	8.6	4.5	4.0	有	木釘式；生え際全体；後頭部		78
39	調査4	1b 類	9.7	2.5	2.6	無	-	甲形頭部、首に横穴あり	115

人形類一覧表 2

掲載 No.	年次	資料名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	頭部穴有無	頭部穴部位と様式	備考	指定 No.
40	調査 4	1b 類	8.9	3.0	2.6	無	-	甲形頭部	88
41	調査 4	1b 類	8.0	2.4	2.3	有	小穴 (木釘残存せず); 後頭部	頭頂部に金属片	110
42	調査 2	1c 類	9.5	2.3	2.3	無	-		109
43	調査 2	1c 類	9.0	1.5	1.9	-	-	立烏帽子、串穴なし	91
44	調査 2	1c 類	4.3	2.2	1.1	-	-	古式、頸部が傾斜	103
45	調査 2	1c 類	10.3	1.7	1.9	無	-		116
46	調査 2	1c 類	10.0	2.3	2.4	無	-	首底尖る	112
47	調査 2	1c 類	10.5	3.3	3.1	-	-	毛引き痕 (宮大工関与か?)、折烏帽子形	83
48	調査 3	1c 類	7.5	2.8	2.2	有	木釘式; 額		102
49	調査 3	1c 類	5.1	1.2	1.2	無	-		64
50	調査 3	1c 類	7.5	3.0	3.0	無	-		93
51	調査 3	1c 類	3.8	1.8	2.3	無	-		89
52	調査 3	1c 類	4.7	1.7	1.9	無	-	頭頂部炭化	62
53	調査 4	1c 類	10.3	1.7	1.2	-	-		66
54	調査 4	1c 類	12.6	1.5	0.9	-	-		65
55	調査 4	1c 類	7.3	0.9	1.2	無	-		67
56	調査 4	1c 類	7.2	1.2	1.1	-	-	側面可動式	68
57	調査 2	1d 類	11.2	2.1	1.9	-	-		121
58	調査 2	1d 類	9.7	1.7	1.5	-	-		119
59	調査 2	2 類	11.7	2.8	2.9	-	-	足	118
60	調査 2	2 類	5.7	1.8	1.8	-	-	陽物	134
61	調査 2	2 類	9.6	1.5	1.1	-	-	動物の手足の可能性	448
62	調査 2	2 類	4.5	0.9	0.2	-	-	クロガキ?、側面可動式の足	126
63	調査 3	2 類	5.4	1.3	1.0	-	-	鋭利な刃物使用	125
64	調査 2	3 類	11.1	1.2	1.1	-	-		449
65	調査 2	3 類	13.0	1.4	1.3	-	-		450
66	調査 2	3 類	15.2	1.7	1.3	-	-		451
67	調査 2	3 類	15.5	1.5	1.4	-	-		452
68	調査 2	4 類	11.1	2.0	1.9	-	-	顔の細部を「て」の字状で表現	56
69	調査 2	4 類	12.5	1.6	1.3	-	-		57
70	調査 2	4 類	12.3	0.8	0.7	-	-	烏帽子形、祭祀用か?	58
71	調査 3	4 類	17.0	1.4	1.2	-	-		60
72	調査 3	4 類	16.3	2.0	1.4	-	-	細棒だが回転運動はしない	61
73	調査 3	4 類	7.9	1.3	0.8	-	-		63
74	調査 2	5 類	12.3	3.1	1.3	-	-		50
75	調査 2	5 類	6.3	2.4	1.0	-	-	未成品か?	46
76	調査 2	5 類	5.4	2.5	1.6	-	-	未成品か?	397
77	調査 3	5 類	9.1	3.6	1.9	-	-	女性像	48
78	調査 3	5 類	10.5	2.9	0.8	-	-		51
79	調査 3	5 類	10.1	2.7	0.7	-	-		52
80	調査 3	5 類	6.4	2.4	1.4	-	-		47
81	調査 3	5 類	6.2	1.5	1.6	-	-	未成品か?	49
82	調査 4	5 類	7.5	2.7	1.2	-	-		54
83	調査 4	5 類	16.9	3.6	1.1	-	-		53
84	調査 4	5 類	10.1	3.2	0.7	-	-		55
85	調査 5	5 類	4.5	(3.0)	2.0	無	無		124

人形類一覧表 3

掲載 No.	年次	資料名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	頭部穴有無	頭部穴部位と様式	備考	指定 No.
86	調査2	6類	3.7	1.8	(2.7)	-	-	タヌキ、手足可動式	127
87	調査2	6類	4.1	1.0	1.3	-	-	タヌキ、手足可動式	128
88	調査3	6類	4.0	1.4	2.2	-	-	ねずみ形の串人形、尻尾穴あり	130
89	調査3	6類	10.3	4.3	2.0	-	-	馬脚部、道祖神と関係か	131
90	調査3	6類	7.0	1.3	1.2	-	-	馬脚部、道祖神と関係か	132
91	調査3	6類	4.5	1.4	1.5	-	-	ねずみ形の串人形、尻尾穴あり	129
92	調査3	7類	8.2	4.0	1.5	-	-	「姥」(老体の女子・ツレによく使用されるとのこと)の面、二寸六分五厘ですから、かしら長三寸位のかしらに付けたもの	122
93	調査3	7類	9.1	2.2	0.1	-	-	横顔か?	441
94	調査3	7類	4.2	6.6	2.4	-	-	付喪神(つくもがみ)か?	123
95	調査2	7類	12.2	1.2	0.4	-	-		59
96	調査2	7類	8.9	1.0	1.5	-	-	半裁されている	426
97	調査2	7類	11.2	0.8	1.0	-	-	上下不明の未製品	402
98	調査2	7類	14.0	1.1	0.8	-	-	穿孔5箇所、転用品か?	407
99	調査2	7類	15.3	1.2	1.1	-	-		400

道具類一覧表 1

掲載 No.	年次	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	指定 No.
100	調査2	刷毛	11.5	9.1	0.8		1
101	調査2	刷毛	12.3	(13.1)	0.6		2
102	調査5	刷毛	14.1	(9.0)	0.9		5
103	調査2	刷毛	12.3	17.4	0.8		3
104	調査2	刷毛(破片)	(10.1)	(4.7)	(0.4)		4
105	調査2	刷毛	(8.5)	4.5	0.2	礬砂刷毛	6
106	調査2	刷毛	(10.0)	3.1	0.6	礬砂刷毛	7
107	調査2	刷毛	23.1	4.8	0.7	礬砂刷毛	11
108	調査2	刷毛	13.0	3.3	0.7	礬砂刷毛	9
109	調査2	刷毛	14.8	5.9	a 0.7 b 0.8 c 0.9	礬砂刷毛	8
110	調査3	刷毛	(12.0)	6.0	0.6 (0.3+0.3)	礬砂刷毛	10
111	調査2	棕櫚束	(25.0)	(20.0)	2.0	中国製刷毛か?	12
112	調査4	棕櫚束	(19.0)	13.0	1.2	中国製刷毛か?	13
113	調査2	棕櫚縄	16.8	10.5	-	刷毛製作用か?	382
114	調査2	平篋	11.7	1.4	0.4	赤漆	21
115	調査2	平篋	11.2	1.8	0.2	赤漆	29
116	調査2	平篋	11.9	1.8	0.5	黒漆	24
117	調査2	平篋	12.3	1.5	0.5	黒漆	27
118	調査2	平篋	8.9	1.6	0.2	黒漆	28
119	調査2	平篋	12.3	1.7	0.2	黒漆	30
120	調査2	平篋	11.4	1.7	0.3	黒漆	20
121	調査3	平篋	(7.4)	1.8	0.4	黒漆	22
122	調査2	平篋	14.2	2.3	0.7	黒漆	19
123	調査2	平篋	17.2	2.4	0.5	黒漆	23
124	調査2	平篋	13.7	2.3	0.5	黒漆	25

道具類一覧表 2

掲載 No.	年次	種 類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備 考	指定 No.
125	調査 2	平篋	(12.0)	(2.5)	0.3	黒漆	26
126	調査 2	平篋	(14.3)	(2.2)	a 0.4 b 0.1	黒漆	33
127	調査 2	平篋	10.6	2.2	a 0.5 b 0.3		32
128	調査 2	篋	10.7	1.0	a 0.3 b 0.1		31
129	調査 2	篋	13.2	0.8	0.4		258
130	調査 2	篋	11.5	0.7	0.4		34
131	調査 2	片丸篋	25.1	3.2	0.5		39
132	調査 2	篋	16.0	1.4	0.5		433
133	調査 3	篋	12.7	1.2	0.8		35
134	調査 2	片丸篋	23.6	4.5	0.5		38
135	調査 2	片丸篋	(12.5)	2.3	0.4		36
136	調査 2	片丸篋	22.5	2.8	0.7		40
137	調査 3	片丸篋	17.1	(2.4)	0.3		41
138	調査 5	片丸篋	13.1	5.2	0.3		37
139	調査 2	丸篋	18.6	4.4	0.4		44
140	調査 2	丸篋	7.6	3.0	0.2		42
141	調査 2	糸巻	8.4	2.0	0.9		231
142	調査 2	糸巻	10.1	1.9	1.2	墨痕あり	225
143	調査 2	糸巻	9.4	2.1	0.9	墨痕あり	232
144	調査 2	糸巻	10.0	2.1	1.1	墨痕あり	228
145	調査 2	糸巻	(7.9)	1.8	1.0		229
146	調査 2	糸巻	9.9	1.8	1.0		230
147	調査 2	糸巻	8.4	2.3	1.2		227
148	調査 3	糸巻	9.0	2.0	1.0		223
149	調査 3	糸巻	(9.9)	2.0	1.1		224
150	調査 2	糸巻	14.4	(6.1)	(1.0)		233
151	調査 4	糸巻	14.0	2.1	1.0		238
152	調査 2	糸巻	14.2	2.1	1.2		234
153	調査 2	糸巻	14.4	2.0	1.2		235
154	調査 2	糸巻	(11.0)	2.0	1.2		236
155	調査 2	糸巻	12.5	1.8	1.0		237
156	調査 2	双孔円板	2.6	2.0	0.6		473
157	調査 2	双孔円板	2.9	2.9	0.5		474
158	調査 2	双孔円板	3.1	2.9	0.6		475
159	調査 2	双孔円板	3.7	3.6	0.2		472
160	調査 2	双孔円板	2.6	2.9	0.6		476
161	調査 2	双孔円板	3.0	3.0	0.4		477
162	調査 2	単孔円板	4.2	4.2	0.7		460
163	調査 2	単孔円板	3.3	3.2	0.5		461
164	調査 2	単孔円板	3.7	3.9	0.4		462
165	調査 2	単孔円板	3.5	3.5	0.8		465
166	調査 2	単孔円板	3.2	3.0	0.3		467
167	調査 2	単孔円板	3.1	3.4	0.4		466
168	調査 4	単孔円板	2.6	2.5	0.4		468
169	調査 4	単孔円板	2.8	2.7	0.3		469
170	調査 2	双孔円板	3.5	3.5	0.8		463
171	調査 2	単孔円板	4.6	(2.4)	0.4	片面漆塗	471

道具類一覧表 3

掲載 No.	年次	種 類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備 考	指定 No.
172	調査2	単孔円板	3.2	(2.8)	0.6		464
173	調査2	無孔円板	3.7	3.7	0.6		459
174	調査2	無孔円板	2.1	2.1	0.3		456
175	調査2	無孔円板	2.6	2.7	0.7		457
176	調査2	無孔円板	2.7	2.7	0.5		458
177	調査2	灯火器	11.5	2.0	1.2		371
178	調査2	灯火器	10.2	2.6	1.1		370
179	調査2	灯火器	12.5	3.2	0.9		372
180	調査2	栓	7.1	3.1	2.9		344
181	調査2	栓	5.7	3.0	2.8		345
182	調査2	栓	4.0	1.5	1.1		346
183	調査2	栓	5.8	3.1	2.2		347
184	調査2	栓	(7.1)	1.7	1.6	穿孔あり	351
185	調査2	栓	8.3	3.0	2.9	穿孔あり	350
186	調査2	栓	5.9	3.0	2.7	当たりあり	342
187	調査2	栓	6.3	2.5	2.5		343
188	調査2	栓	4.3	2.5	2.2		348
189	調査2	栓	6.0	4.2	a 1.2 b 4.1 c 2.0		354
190	調査2	曲物底板	8.2	7.9	(残存高) 0.8		281
191	調査2	曲物蓋	7.3	6.8	(高) 1.05		275
192	調査2	八角形板	8.4	7.5	0.3		279
193	調査2	曲物底板	8.0	7.5	0.3		280
194	調査2	折敷か	14.0	(5.0)	0.1		284
195	調査5	曲物底板	7.7	7.4	0.4	赤漆付着	274
196	調査2	杓子	(11.2)	(9.7)	(3.3)		265
197	調査2	杓文字	(11.7)	7.5	0.5		266
198	調査2	蓋	(6.8)	(4.5)	1.7	鍋用か?	282
199	調査2	蓋	18.5	(3.8)	0.8	焼印あり	269
200	調査2	把手	8.0	2.7	0.8	円形容器の把手片側	374
201	調査2	把手	5.1	1.4	0.4		373
202	調査5	木槌	10.7	3.9	3.9		355
203	調査5	円盤	7.7	7.3	0.9	紡錘車か?	470
204	調査2	印形木製品	3.0	2.1	(高) 2.6		415
205	調査2	彫(ささら)木	(16.1) (10.7)	2.7	0.6	同一個体の断片2つ	453
206	調査3	題箋軸	10.7	1.9	1.0	軸先に穿孔有り	222
207	調査2	錐	8.8	1.3	1.2		17
208	調査2	錐	12.8	0.9	0.8		18
209	調査4	煙管雁首	7.9	1.5	(高) 3.6	金属製品、鍍金残存	369
210	調査2	刀子	23.6	1.4	0.6	(刃部) 13.9 (柄) 9.7	241
211	調査4	刀子	22.7	2.4	(刃部) 0.2 (柄) 1.5		16
212	調査2	刀子鞘	9.5	1.6	1.1		14
213	調査2	刀子鞘	10.6	2.2	0.9		15
214	調査3	装飾板	5.55	4.5	0.5	人形小道具か?	245
215	調査4	装飾板	(2.7)	5.2	0.5	人形小道具か?	244
216	調査4	装飾板	(3.7)	7.6	0.45	人形小道具か?	242
217	調査2	木球	5.6	(5.2)	5.3	毬杖の球	367

道具類一覧表 4

掲載 No.	年次	種 類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備 考	指定 No.
218	調査 2	木球	5.2	4.9	4.4	毬杖の球	366
219	調査 2	木球	(高) 5.9	(4.4)	(3.7)	毬杖の球	368
220	調査 5	独楽	5.3	4.8	(高) 3.2		365
221	調査 2	賽子	3.5	3.6	3.5		375
222	調査 2	将棋駒	3.1	1.4	0.5	ヒノキ	364
223	調査 2	下駄	21.2	8.3	2.25		250
224	調査 2	下駄	21.5	7.9	3.0	漆付着	252
225	調査 2	下駄	15.9	7.2	2.15		251
226	調査 2	下駄	16.4	9.0	1.5		253
227	調査 2	下駄歯	7.7	11.7	3.0	漆塗	254
228	調査 5	下駄歯	8.1	(6.8)	1.6		255
229	調査 2	櫛	(8.0)	(4.5)	0.5		249
230	調査 2	櫛	(5.2)	(2.1)	0.4	赤漆・金泥	248

装飾部品一覧表

掲載 No.	年次	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備 考	指定 No.
231	調査 2	9.0	4.1	1.0		384
232	調査 2	(9.4)	1.3	0.6	波形	390
233	調査 2	20.4	3.0	0.7	波形	427
234	調査 2	(6.4)	(3.2)	1.0	葉形	386
235	調査 2	4.4	2.0	1.2	神楽鈴形	387
236	調査 2	5.9	5.6	1.7	火輪形	135
237	調査 2	8.3	4.2	1.8	花形	388
238	調査 2	6.1	2.3	(1.0)		393
239	調査 2	5.5	1.0	0.7	刻目あり	442
240	調査 2	(6.9)	7.3	2.4	葉状	385
241	調査 3	(13.1)	1.5	0.4	波形	391
242	調査 4	12.3	6.0	1.3	葉形	392
243	調査 2	8.4	2.7	3.1		411
244	調査 2	(16.5)	6.9	1.5	破風形	394
245	調査 2	(6.4)	2.5	0.7	穿孔あり	389
246	調査 2	6.8	1.6	1.0		431
247	調査 2	7.3	(3.6)	0.7	菊水文、穿孔あり	243
248	調査 2	7.6	(3.8)	0.4	蓮華文	278
249	調査 3	5.7	(3.3)	0.6	車輪文	240
250	調査 3	(9.2)	2.0	0.1	水鳥画 (タマシギまたはウ)	434
251	調査 3	12.4	1.9	0.2	花卉墨描	435

用途不明品一覧表

掲載 No.	年次	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	指定 No.
252	調査2	4.3	2.1	1.8		396
253	調査2	4.8	2.2	2.0		353
254	調査2	7.2	3.0	(1.6)		349
255	調査2	4.5	2.8	2.2		352
256	調査2	4.1	5.2	1.6	台座か	439
257	調査2	3.9	5.1	1.1	台座か	440
258	調査2	(3.8)	(5.6)	1.8	八角形台座か	422
259	調査2	6.3	3.4	0.6	隅欠方形か	420
260	調査2	(3.0)	(8.4)	0.7	円形の端部を切断か	417
261	調査2	3.9	3.7	2.8		454
262	調査2	5.1	5.3	3.1		455
263	調査2	(板のみ) 4.2 (板+木釘) 4.4	(板のみ) 1.9 (板+木釘) (2.0)	0.5		421
264	調査2	2.5	8.0	0.5		419
265	調査2	(7.9)	2.0	0.8		423
266	調査2	5.8	5.4	1.2		399
267	調査2	15.0	6.0	0.4		430
268	調査2	19.7	(3.4)	0.6		287
269	調査2	18.3	3.0	0.6		432
270	調査2	1.7	15.7	0.9		424
271	調査2	20.5	1.8	1.3	簾の可能性もある	447
272	調査2	10.3	1.0	0.7	棒状(刻目なし)	444
273	調査2	8.9	1.1	0.9	棒状(刻目あり)	443
274	調査2	10.1	0.9	0.8	棒状(刻目あり)	414
275	調査2	15.4	1.5	0.7	棒状(刻目あり)	416
276	調査2	9.0	0.6	0.5	組物の一部	409
277	調査2	15.3	0.9	0.8	組物の一部	405
278	調査3	(13.7)	0.8	0.6	棒状	445
279	調査3	13.0	1.0	0.3	刀子形	446
280	調査3	(5.0)	3.0	0.2	撥形	356
281	調査3	15.0	1.8	0.2	匙形	45
282	調査4	10.1	2.4	0.5	匙形	43
283	調査4	(7.4)	1.4	0.3	札形	425
284	調査2	12.2	1.4	1.3		404
285	調査2	14.3	1.0	0.8	先端が黒く着色している	408
286	調査2	13.1	3.1	2.4	把手か	410
287	調査2	11.7	1.3	0.7	かご枠木か?	429
288	調査2	10.5	1.0	0.6	かご枠木か?	406
289	調査2	12.8	0.8	0.5	かご枠木か?	428
290	調査3	19.0	1.2	1.1	かご枠木か?	401
291	調査2	6.1	0.3	0.3		260
292	調査2	10.1	0.6	0.3		261
293	調査2	15.6	0.6	0.5		256
294	調査2	(10.4) (5.2)	0.6	0.6	紡錘車軸か? 同一個体断片2つ	263
295	調査2	16.3	0.8	0.4		262
296	調査2	14.9	0.5	0.4	紡錘車軸か?	257
297	調査2	10.0	0.5	0.4		259
298	調査5	20.6	0.7	0.5	端部が尖る	264

ミニチュア一覧表

掲載 No.	年次	種類	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	備考	指定 No.
299	調査 2	木札 (赤漆塗方形板)	(長さ) 3.2	(幅) 2.9	(厚さ) 0.4	赤漆塗	436
300	調査 2	木札 (焼印)	(長さ) 3.1	(幅) 3.2	(厚さ) 0.5	焼印あり	437
301	調査 2	木札	(長さ) 2.8	(幅) 2.5	(厚さ) 0.3		438
302	調査 2	車輪形	(長さ) 8.9	(幅) 2.6	(厚さ) 0.6	人形小道具	418
303	調査 2	船形	(長さ) 10.2	(幅) 2.1	(厚さ) 1.2	祭祀用か	133
304	調査 2	桶形	6.8	3.0	6.4	人形小道具	296
305	調査 2	椀/盃 (挽物)	8.6	3.9	4.7		298
306	調査 2	椀形 (挽物)	4.2	2.5	4.0	人形小道具	299
307	調査 2	椀形 (挽物)	4.6	3.1	2.5	人形小道具	300
308	調査 2	椀形 (挽物)	4.1	3.0	2.4	人形小道具	297
309	調査 2	椀形 (挽物)	5.0	3.6	2.9	人形小道具	294
310	調査 2	椀形 (挽物)	4.1	3.0	2.3	人形小道具	295
311	調査 2	椀形 (挽物)	4.6	3.2	2.0	人形小道具	301

漆器類 (椀皿類) 一覧表 1

掲載 No.	年次	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	備考	指定 No.
312	調査 2	椀	12.7	3.1	7.9	挽物、赤漆か?	302
313	調査 2	椀か皿	-	(0.9)	7.6	挽物	303
314	調査 2	破片	-	(2.1)	3.5		319
315	調査 2	椀	(10.8)	3.9	5.6		307
316	調査 2	椀	(10.9)	(3.9)	-	時代すこしさがるか?	308
317	調査 2	椀	(12.9)	5.4	6.7	大胆に絵を描く、鶴、石黄で松	325
318	調査 2	椀	(11.0)	(3.8)	-	わざと高台を削る	326
319	調査 2	椀	(9.4)	4.9	4.7	桐文、針描き、精緻	327
320	調査 2	椀	(11.5)	(4.9)	-	使い込まれている	328
321	調査 2	椀	-	(2.3)	-	針描されている	329
322	調査 2	椀	10.2	3.1	4.6		321
323	調査 2	椀	(8.4)	(2.6)	-	3色使用	323
324	調査 2	椀	(11.5)	(4.8)	-	高台寺? 蒔絵にもみられる	324
325	調査 2	椀	(12.8)	(7.1)	-	大きな巴文を大胆に描く	320
326	調査 2	破片	(12.0)	(4.4)	-	塗としてはよい	330
327	調査 2	破片	(12.7)	(1.2)	-	蓋	305
328	調査 2	蓋	(10.6)	2.0	-	蓋または身、茶器関係	304
329	調査 2	椀	-	(7.3)	-		331
330	調査 2	椀	(12.7)	6.4	6.0		332
331	調査 2	椀	(12.4)	8.1	6.1	内面をわざと焼く場合もあるが、この資料は火事によるものか? おめでたい文様、水引模様。	333
332	調査 2	椀	(11.3)	5.0	5.8	穴が開いており、漏斗に転用して再利用	334
333	調査 2	椀	(11.0)	(5.4)	-	大胆な文様	335
334	調査 2	椀	(10.0)	4.0	5.0	鶴・亀・松、正月・茶会などハレの日に使用、銀使用	336
335	調査 2	椀	-	(4.0)	4.9	南部箔	322
336	調査 2	椀	(10.6)	3.5	4.1	寺などで使用されるもの	309
337	調査 2	椀	(12.2)	3.0	6.0	根来風、実用品として使用、寺などで使用	310
338	調査 2	椀	(12.2)	5.0	5.8	フリーハンド	311

漆器類（椀皿類）一覧表 2

掲載 No.	年次	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	備考	指定 No.
339	調査 2	椀	(8.9)	2.0	(つまみ径) 4.4	南部箔、石黄使用、ブナ材か？	306
340	調査 2	椀	-	(6.7)	-	鶴・亀・松？古手	337
341	調査 2	椀	(12.2)	6.0	6.0	色を（内外面で）わけているもの	338
342	調査 2	椀	(12.0)	(4.8)	-		339
343	調査 2	椀	(11.7)	4.8	6.0	1630～元禄で終了、3色使用、フリー ハンドで描く	340
344	調査 2	椀	(12.0)	(4.9)	-		341
345	調査 2	椀	(11.0)	3.9	5.6		312
346	調査 2	椀	-	(4.0)	-	赤色、大坂城三の丸出土例に類例、桃 山期に特徴的	314
347	調査 2	椀	-	(4.0)	-	同上	315
348	調査 2	椀	-	(4.1)	-	同上	316
349	調査 2	椀	-	(2.6)	-	同上	317
350	調査 2	椀	-	(1.5)	-	同上	318
351	調査 2	椀	(9.9)	(3.0)	-	根来系、ケヤキ製、良品	313
352	調査 2	皿か	(7.5)	1.5	7.5		292
353	調査 2	筒形	(6.7)	6.8	7.1		293

漆器類（板状品）一覧表

掲載 No.	年次	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	指定 No.
354	調査 2	(4.6)	(8.4)	0.8		377
355	調査 2	4.8	19.4	0.6	箱側板か	289
356	調査 2	(1.4)	(15.4)	(0.7)	棒状	403
357	調査 2	3.1	2.3	1.3	折敷脚部か、側面赤漆塗	378
358	調査 2	15.8	(1.6)	0.8	棒状赤漆塗	398
359	調査 2	(10.2)	2.7	(1.2)	箱側板か	288
360	調査 2	3.5	2.1	(1.2)	筆軸か	376
361	調査 2	6.5	(1.8)	(0.9)		380
362	調査 2	6.2	(3.2)	0.7		379
363	調査 2	5.2	10.3	0.7	板状	290
364	調査 2	(9.5)	0.6	0.5	棒状	412
365	調査 2	(11.1)	(2.3)	0.3	板状、金箔装飾あり	383
366	調査 2	(5.2)	1.1	0.2	赤漆・黒漆装飾あり	395
367	調査 2	11.4	3.5	1.0	漆僅かに残存、皿立か	381
368	調査 3	(7.0)	0.7	0.5	棒状（赤漆・金泥）	413

墨書資料一覧表 1

掲載 No.	年次	種類 (大分類)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	指定 No.	種類 (小分類)
369	調査 2	掟札	4.6	9.5	0.5	199	紀年銘
370	調査 2	巡礼札	8.9	3.2	0.4	220	地名・(紀年銘)
371	調査 2	付札か	10.2	2.5	0.6	143	紀年銘
372	調査 2	付札か	8.0	1.4	0.3	139	人名
373	調査 2	付札か	8.0	1.6	0.4	145	人名
374	調査 2	付札か	10.0	2.3	0.2	146	地名
375	調査 2	付札か	8.0	2.0	0.3	142	地名
376	調査 2	付札か	2.2	6.0	0.1	200	
377	調査 2	付札か	9.9	4.3	0.1	221	
378	調査 3	付札	11.5	3.4	0.4	167	紀年銘
379	調査 3	付札	7.8	1.5	0.2	159	人名
380	調査 3	付札	10.4	2.2	0.3	165	人名
381	調査 3	付札	6.6	1.8	0.3	168	人名
382	調査 3	付札	9.8	1.9	0.3	170	人名
383	調査 3	付札	10.3	2.0	0.3	157	
384	調査 3	付札	(14.4)	2.8	0.3	158	
385	調査 3	付札	15.4	1.9	0.2	160	
386	調査 3	付札	12.4	3.3	0.5	163	
387	調査 3	付札	15.8	1.5	0.6	171	
388	調査 3	付札か	8.5	1.7	0.2	192	人名
389	調査 3	付札か	9.0	1.5	0.2	169	人名
390	調査 3	付札か	9.1	2.5	0.1	172	人名
391	調査 3	付札か	(7.9)	2.8	0.6	194	人名・地名
392	調査 3	付札か	(8.8)	1.5	0.2	193	地名
393	調査 3	付札か	(10.9)	2.2	0.2	191	
394	調査 3	付札か	(13.6)	2.9	0.4	173	
395	調査 3	付札	(9.6)	1.7	0.3	154	人名
396	調査 3	付札	(9.8)	3.0	0.3	181	人名
397	調査 3	付札	7.3	1.7	0.1	149	
398	調査 3	付札	5.6	(3.4)	0.7	150	
399	調査 3	付札	(12.7)	1.6	0.3	152	
400	調査 3	付札か	(16.1)	1.4	0.2	182	紀年銘・人名
401	調査 3	付札か	(6.2)	(1.3)	0.1	206	人名
402	調査 3	付札か	(6.5)	1.0	0.2	215	人名
403	調査 3	付札か	(13.7)	3.3	0.3	177	人名
404	調査 3	付札か	9.6	1.3	0.2	183	人名
405	調査 3	付札か	13.8	1.7	0.2	184	人名
406	調査 3	付札か	(10.8)	2.4	0.6	185	人名
407	調査 3	付札か	14.5	2.6	0.3	214	人名
408	調査 3	付札か	(12.3)	1.6	0.3	216	人名
409	調査 3	付札か	(5.2)	3.4	0.3	217	人名
410	調査 3	付札か	(5.4)	2.1	0.2	189	人名
411	調査 3	付札か	6.1	1.6	0.2	218	人名
412	調査 3	付札か	4.5	(2.5)	0.2	203	地名
413	調査 3	付札か	6.9	2.5	0.4	204	地名
414	調査 3	付札か	6.2	2.0	0.2	213	地名
415	調査 3	付札か	(9.0)	1.1	0.4	187	地名・人名
416	調査 3	付札か	(6.1)	(2.9)	0.4	176	

墨書資料一覧表 2

掲載 No.	年次	種類 (大分類)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	指定 No.	種類 (小分類)
417	調査3	付札か	(13.1)	2.7	0.2	151	
418	調査3	付札か	(3.2)	2.9	0.3	202	
419	調査3	付札か	4.4	2.0	0.4	205	
420	調査3	付札か	19.7	3.5	0.3	208	
421	調査3	付札か	(5.0)	1.6	0.2	179	
422	調査3	付札か	(4.1)	1.5	0.1	180	
423	調査3	付札か	5.8	1.5	0.3	155	
424	調査3	付札か	11.5	1.5	0.2	188	
425	調査4	付札	7.2	1.6	0.3	174	
426	調査2	荷札	18.1	3.5	0.5	147	アルファベット木簡
427	調査2	荷札	9.0	1.4	0.2	140	人名
428	調査2	荷札	18.2	2.2	0.9	141	地名
429	調査2	荷札か	15.2	2.5	0.6	246	人名
430	調査3	荷札	16.0	1.8	0.4	161	人名
431	調査2	荷札	(11.6)	2.5	0.4	138	
432	調査3	荷札	12.7	2.0	0.5	156	人名
433	調査3	荷札	(11.9)	3.1	0.5	162	地名(?)
434	調査3	荷札か	8.2	(3.5)	0.4	207	人名
435	調査3	荷札か	(17.9)	2.1	0.1	178	人名
436	調査3	荷札か	10.8	1.9	0.2	153	
437	調査3	荷札か	8.6	(2.1)	0.2	164	
438	調査4	荷札	20.6	3.0	0.6	175	
439	調査2	木製品	13.7	2.2	1.0	239	糸巻
440	調査2	木製品	(7.1)	(17.3)	0.4	267	曲物側板
441	調査2	木製品	6.7	(9.2)	0.5	273	曲物底板
442	調査2	木製品	(4.8)	12.0	0.6	270	曲物蓋、紀年銘
443	調査3	木製品	22.2	4.2	0.4	291	桶側板
444	調査3	木製品	(11.9)	(7.9)	0.3	285	箱蓋か
445	調査3	木製品	8.9	(4.0)	0.4	272	柄杓底板、人名
446	調査3	木製品	(8.9)	1.3	0.3	209	籠か、人名
447	調査3	木製品	10.2	(4.9)	0.4	277	曲物蓋
448	調査3	木製品	10.8	2.1	0.3	283	曲物蓋か
449	調査3	木製品	(径) 7.2	(器高) (3.7)	-	268	曲物
450	調査3	木製品	9.2	9.1	0.3	276	曲物蓋、地名・人名
451	調査5	木製品	(3.9)	9.8	0.3	271	曲物蓋
452	調査5	木製品	2.1	8.4	1.0	226	糸巻
453	調査2	将棋駒	3.2	2.7	0.8	357	
454	調査2	将棋駒	3.1	2.7	1.1	358	
455	調査3	将棋駒	(2.7)	(1.4)	0.1	359	
456	調査3	将棋駒	2.7	(2.4)	0.9	363	
457	調査3	将棋駒	2.8	2.4	0.6	362	
458	調査3	将棋駒	3.1	2.7	1.0	360	
459	調査4	将棋駒	3.1	2.7	1.0	361	
460	調査2	塔婆	37.0	6.2	0.4	136	
461	調査3	塔婆か	12.4	(1.4)	0.2	186	
462	調査2	経木か	17.9	2.2	0.4	137	
463	調査3	お守札か	19.1	2.8	0.6	166	人名・地名
464	調査2	札	3.8	3.6	0.6	201	人名(両側面に墨書)

墨書資料一覧表 3

掲載 No.	年次	種類 (大分類)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	指定 No.	種類 (小分類)
465	調査 2	板状品	4.1	2.8	0.2	144	
466	調査 2	板状品	27.3	3.8	0.9	247	
467	調査 3	板状品	(7.4)	2.5	0.2	148	
468	調査 3	板状品	11.2	2.3	0.2	286	
469	調査 3	板状品	(11.5)	2.1	0.3	195 ・ 196	
470	調査 3	板状品	12.0	4.2	0.2	197	
471	調査 3	板状品	17.3	2.1	0.4	219	
472	調査 3	板状品	6.2	1.7	0.4	190	
473	調査 3	板状品	(12.7)	3.4	0.3	198	
474	調査 4	板状品	7.5	3.0	0.7	211	
475	調査 4	板状品	8.1	2.7	0.5	210	
476	調査 5	板状品	(8.0)	2.7	0.2	212	

平成 30 年度 京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書
御土居跡（西九条周辺）出土品

発行日 2019年3月31日

発 行 京都市文化市民局

住 所 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

編 集 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住 所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1

〒602-8435 TEL 075-415-0521

<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印 刷

